

### 3-3. 仙台会場



# 「地域で共に」

～宮城県認知症支援事業の歩みとこれから～



## チームみやぎ

南三陸町地域包括支援センター 高橋 晶子  
宮城県認知症疾患医療センター 遠藤 眞  
(三峰病院)

宮城県気仙沼保健福祉事務所 前田 知恵子  
宮城県保健福祉部長寿社会政策課 斎藤 絵美

平成23年3月11日午後2時46分  
東日本震災 発生

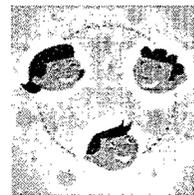
多くの人々が大切と感じた「命」

「家族」「地域」「絆」

「つながり」「助け合い」

「支え合い」「思いやり」

大震災から1年、薄れさせたくありません。



震災前よりも、もっと暮らしやすいやすい  
「まちづくり」に一步を踏み出しています。

# 県全体でのこれまでの取り組み



これまで、これからも目指しているのは

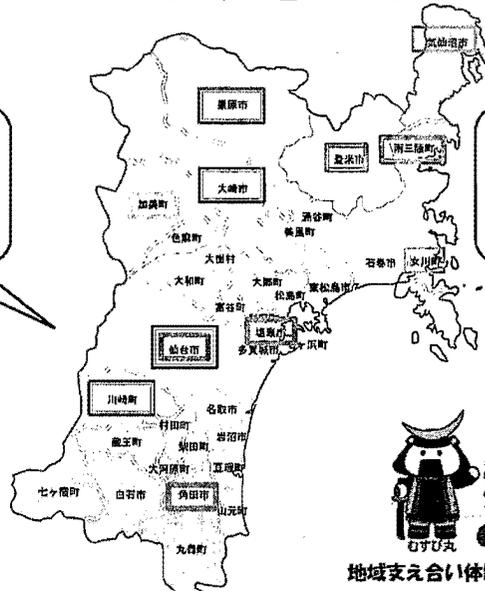
**「認知症になっても安心なまちづくり」**

県内陸部は、  
取り組みの推進  
発展を

県沿岸部は、  
市町村基盤の  
再構築を

H19-22  
モデル事業実施市町村

H23-  
市町村認知症施策推進  
事業実施中の市町村



復興へ  
頑張ろう！  
みやぎ

地域支え合い体制づくり事業も活用

# 宮城県の施策における位置づけ

## (みやぎ高齢者元気プランから抜粋)

基本理念 高齢者が地域で自分らしい生活を安心して送れる社会

基本的目標1  
みんなで支え合う地域づくり

基本的目標2  
自分らしい生き方の実現

基本的目標3  
安心できるサービスの提供



### 基本課題

- ①地域で支える介護
- ②認知症になっても安心なまちづくり
- ③安全な暮らしの確保

- ☆予防・早期発見・早期対応の促進
- ☆認知症対応の地域づくり
- ☆認知症ケアを担う人づくりと正しい理解の促進
- ☆認知症介護家族への支援

その他、プラン全体を通して推進中

# 宮城県の認知症地域支援体制づくり

バージョンアップしながら、市町村と共に進めていく体制に。

年度	事業取組みの経過	市町村との関係
H19まで (県単)	○認知症専門ケアサポート事業を県全域で実施 (専門相談, 事例検討会, 研修会の3本柱)	市町村の相談体制 充実の支援
H19~20 (国庫)	○認知症地域支援体制構築等推進事業をモデル実施 東部保健福祉事務所・女川町(委託) 気仙沼保健福祉事務所・気仙沼市(委託) * 仙南・仙台・北部保健福祉事務所は認知症地域ケア専門サポート事業	市町村の認知症支 援体制を補う支援
H21~22 (国庫)	○認知症地域ケア総合支援体制構築推進事業を全域実施 仙南保健福祉事務所・角田市(委託) 仙台保健福祉事務所・塩竈市(委託) 東部保健福祉事務所・登米市(委託) 北部保健福祉事務所・加美町(委託) 気仙沼保健福祉事務所・南三陸町(委託) 仙台市(H22~委託)	市町村の取組みや 強みを活かす支援
H23 (国庫)	○市町村認知症施策総合推進事業 (川崎町、大崎市、栗原市、仙台市) ○認知症地域ケア総合支援体制構築推進事業を全域実施 * 沿岸部の保健福祉事務所は震災対応優先。	市町村と県の連動 によるさらなる推進、 復興と再構築支援



良きパートナーに☆

## 各圏域の認知症地域支援体制づくり

各地域の状況に応じた展開。圏域のレベルアップが県全体の推進力に。

	平成19～20年度	平成21～22年度	平成23年度～
仙南圏域 (2市7町)	・認知症ケア専門サポート事業	・認知症地域支援体制等構築推進事業 ・角田市(委託)	・認知症地域支援体制等構築推進事業 ・市町村認知症施策総合推進事業(川崎町)
仙台圏域 (4市8町1村)	・認知症ケア専門サポート事業	・認知症地域支援体制等構築推進事業 ・塩竈市(委託)	・震災対応優先
北部圏域 (2市4町)	・認知症ケア専門サポート事業	・認知症地域支援体制等構築推進事業 ・加美町(委託)	・認知症地域支援体制等構築推進事業 ・市町村認知症施策総合推進事業(大崎市、栗原市)
東部圏域 (3市1町)	・認知症地域支援体制等構築推進事業 ・女川町(委託)	・認知症地域支援体制等構築推進事業 ・登米市(委託)	・震災対応優先
気仙沼圏域 (1市1町)	・認知症地域支援体制等構築推進事業 ・気仙沼市(委託)	・認知症地域支援体制等構築推進事業 ・南三陸町(委託)	・震災対応優先 ・6月1日宮城県指定初認知症疾患医療センター
仙台市	H20～仙台市認知症対策推進会議、ワーキング、各種事業	H22～県委託事業(主に地域資源マップ作成等)	・市町村認知症施策総合推進事業

## 平成23年度の県全体の取り組み

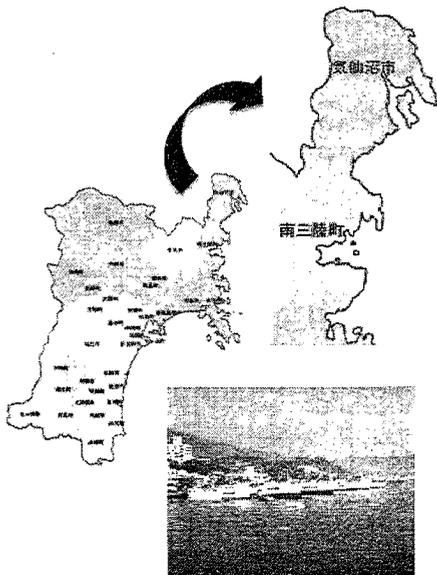
	内 容
体制基盤	○宮城県認知症地域ケア推進会議の開催(年2回:11月、3月) ○第5期みやぎ高齢者元気プラン策定作業
取組共有・発信 市町村支援	○宮城県地域ケア推進研修会(12月) 永田久美子先生、京都府綾部市、県内で総合的に取組む市町、県審本部生活安全企画課 ○認知症地域支援体制普及セミナー(3月) ○市町村支援(随時) 市町村認知症支援取組み調査(年1回) ○県HPでの情報発信
医療連携	○認知症疾患医療センターの指定(6月) ○かかりつけ医認知症対応力向上研修(12月) ○認知症サポート医養成研修(11月)
本人・家族 支援	○認知症高齢者等介護家族支援事業:家族の会(4月～) ○「わたしの手帳」の活用・普及
介護従事者の 質の向上	○認知症介護実務者総合研修事業(9月～) ○認知症介護指導者会議(年4回)
認知症理解 普及啓発	○認知症サポーター100万人キャラバン事業(6万人達成!)、キャラバン・メイト養成研修 ○仙台市PTAフェスティバル(11月) 仙台市、支援団体と協働で
支援団体との 連携・協働	○認知症の人と家族の会宮城県支部 ○宮城県認知症グループホーム協議会 ○みやぎ小規模多機能型居宅介護連絡会 ○宮城県認知症ケア専門士会 ○地域密着型サービス外部評価機関 ○認知症介護研究・研修センター など
震災対応	○仮設住宅地域における高齢者支援に関する方針づくり ○沿岸市町のサポート拠点支援 ○サポートセンター支援従事者等研修(サポーター養成講座)○生活不活発病予防の取組み



# 気仙沼圏域での取り組み

宮城県気仙沼保健福祉事務所  
前田 知恵子

## 気仙沼圏域の概要



- 宮城県の北東部
- 気仙沼市、南三陸町の1市1町
- リアス式海岸の豊富な漁場に恵まれ、漁業、水産加工業が盛んな地域

- 総人口 約93,000人
- 65歳以上の高齢者人口 27,790人
- 高齢化率 30.0%  
(県内7圏域中2位)
- 要介護認定者数 4,146人  
認知症高齢者日常生活自立度Ⅱ以上 2,573人  
(約62%)

※H22. 3. 31時点

## 保健福祉事務所の役割



＜気仙沼市＞

平成19～20年度にモデル事業を実施

＜南三陸町＞

平成21～22年度にモデル事業を実施

【保健福祉事務所の役割】

- ① モデル事業終了後の地域づくりのフォローアップ
- ② モデル事業を実施している南三陸町へのサポート

## モデル町のサポートとは？

- ⊗ モデル町のスタッフだけでなく、コーディネーターと一緒に考える場が必要！
  - 事業打合せ会（2～3ヶ月に1回）
- ⊗ キャラバンメイトになってもらったが、サポーター養成講座の経験がないメイトが多い！
  - 管内キャラバンメイト情報交換会
- ⊗ 地域づくりの支え手の一つである、介護スタッフのスキルアップが必要！
  - 認知症ケアスキルアップ勉強会

## 介護スタッフのスキルアップのために

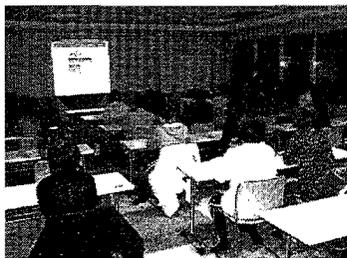
### <認知症ケアスキルアップ勉強会>

- 町内の各事業所から1~2名
- コアメンバーとして登録(28名)
- 定期的な勉強会として開催(全6回)
- パーソンセンタードケアについての講話やひもときシートを使った事例検討会等

## 認知症ケアスキルアップ勉強会

### ・講話

「パーソンセンタードケア  
『認知症という事態を生きる人』  
を考える」



ずっと関わっているのに、  
本人が何を望んでいるかを考  
えたことがなかった！

### ・講義、演習

「ひもときシートを活用した事例検討」

## H23.3.11 14:46 東日本大震災発生

### ⊗ 気仙沼圏域の被害状況

	気仙沼市	南三陸町
死者数(※)	1,030名	565名
行方不明者数(※)	338名	310名
避難者数【最大時推定】	約19,000人	約9,700人
住宅被害(※) (全壊+半壊+一部損壊)	15,518戸	4,524戸
避難所数【最大時推定】	約100カ所	約50カ所
仮設住宅戸数(※)	3,504戸	2,195戸
仮設住宅団地数(※)	93カ所	58カ所

※H24. 2. 29時点

多くの人の尊い命、見慣れた町並み  
は失われたけれど…

- ⊗ 避難する時に近所の人々が助けてくれた
  - ⊗ 避難所で周りの人が見守ってくれていた
  - ⊗ ヘルパーが来れない間、近くのグループホームが食事を届けてくれた
- もともとの地域の力に加え、モデル事業が育んだネットワークが活きた！

**今までの取り組みの成果**

## H24.2.29 シンポジウム開催

### 『東日本大震災での認知症ケアを振り返る』

～認知症の人と家族を支えるために日頃から必要な取り組みとは～』



〈アンケートから〉

「今までの取り組みは今回大きな力になったと思う」

「日頃からなじみの関係は大切だと思う」

「自分も出来る範囲で協力していきたい」

ケアマネ、グループホーム、病院、地域包括支援センターそれぞれの立場から、震災当時の状況と活動を発表



## 事業を通して感じたこと

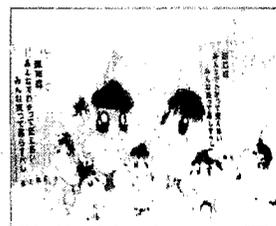
- **役割分担をしながら進めることが大切！**  
→ やりたいこと、やらなければならないことはたくさんある。  
役割分担をしたことで、色々な事業を効率よく実施できた。
- **地域づくりはチームづくりから！**  
→ 同じ思いを持ちながら進むためには、課題や進捗状況の共有をこまめに行うことが大事。
- **チームからネットワークへ！**  
→ 常日頃から地域の関係者と顔なじみの関係を作っておくことで、何かあった時にお互いが助け合える。

## 南三陸町の取組み

～東日本大震災を経験して

南三陸町地域包括支援センター  
高橋 晶子

## 南三陸町の認知症対策



- 1) キャッチフレーズ  
「認知症 みんなでわかって支えあい  
みんな笑って暮らすべし」
- 2) マスコットキャラクターの誕生
- 3) 認知症サポーター 【1,000人を目標に】
  - 楽しく・町民と対話のできる講座
  - 次につながる講座を
- 4) 一人ひとり自分のできることを考えよう

でもだいじょうぶ 笑顔で暮らせるまちづくり争奪  
認知症サポーター養成講座



地域の  
お医者さんも  
張り切って  
寸劇に登場♪

ある日の診察室

認知症サポーター

・・・私たちにできること

ロバの会

・町のBOXショップへの  
出品者であるママさんグループ

↓  
ちょっとした「きっかけ」  
から様々な活動に発展



私達も  
お手伝い

- ・マスコットキャラクター  
の発案者
- ・高校生へのロバ作りの指導
- ・地域資源マップ作成委員

# 認知症サポーター



## 私たちにできること

わたぼうしの会



・2級ヘルパー養成講座 受講者有志の会



・生涯学習大会にて  
介護体験発表  
認知症の寸劇発表

# 認知症サポーター

歌津中学校  
3年生

## …私たちにできること



寸劇「津波警報発令」

認知症の方にどのように

声をかけたらよいか具体的に学びました。

## 認知症サポーター



歌津中学校  
3年生

・・・私たちにできること



認知症の  
パンフレット  
読んでみて  
ください

1件1件お店に声かけ

- ・総合学習にて認知症サポーターに
- ・世界アルツハイマーデー街頭啓発活動へのボランティア参加



地域の方とつながる  
きっかけに・・・

## 認知症サポーター



志高SMILE  
サポーター

・・・私たちにできること



- ・ボランティアで  
ロバの製作開始



「可愛い♪」  
「手芸部で作れるかも」の  
何気ない言葉から  
スタート!

# 認知症サポーター

・・・私たちにできること



旭ヶ浦祭での展示



志高作品第1号を町長さんに贈呈

・旭ヶ浦祭(文化祭)にて...  
ロバ展示  
認知症についての  
パネル展示



自分たちが積極的に参加  
することで、認知症を  
理解したいという思いが  
より身近なものに

# ロバがサポーターの目印 130箇所配置



平成22年2月28日未現在

## 認知症サポーター数

1,788人

目標を大きく  
超えました!

人口の1割が  
サポーター



町長もサポーター

※平成23年2月28日末現在

## モデル地区での活動

サポーター数  
103名

- ・認知症サポーター養成講座 5回  
(一般・高齢者・小中学生・PTA等)
- ・地域で支えるための懇談会(自主防災含む)
- ・介護者体験発表
- ・さそいあい脳にここ教室 月1回  
(高齢者認知症予防教室)

地区の声

世代間交流事業 in 夏休み

認知症の人に  
限らず地域の  
交流が大事だね

## 十日町地区交流会in夏休みの様子



## 東日本大震災発生

- 平成23年3月11日午後2時46分頃  
地震発生 マグニチュード9.0  
震度6弱（南三陸町）

そして・・・大津波

- ・死者 565名（※）
- ・行方不明 292名（※）
- ・建築物被害 7割

※平成24年2月27日現在 警察発表

## 街は壊滅状態



写真提供：人と防災未来センター

## 被害の概要

- 15mを超える津波により、海岸沿いの市街地、集落、漁業施設、農地、鉄道や道路などの交通網・基盤施設等が壊滅的な被害を受けた。
- 町役場も津波におそわれ、施設や職員に甚大な被害が発生した。
- 地震による地殻変動により、約70cmの地盤沈降が起こり、満潮時や台風時の浸水が発生している。

## 被害の概要（介護関連施設）

- 公立志津川病院（69名死亡）
- 特別養護老人ホーム慈恵園（39名死亡）
- 志津川デイサービスセンター（11名死亡）
- 保健センター・地域包括支援センターが被災
- 居宅介護支援事業所・・・4箇所
- ヘルパー事業所・・・4箇所

## 救助・救護活動

- 開業医・看護師・ヘルパー・養護教諭・保健師が救護活動開始
- 寒さ・暗闇・空腹・余震の中の救護活動
- 医療機器・薬のない救護活動
- 地区での壮絶なる救助・救護活動

何もない中での救護活動



今、一人ひとりができることを

## 避難所では・・・

- 地域住民が声を掛け合い無事避難した方が多数。  
(寝たきり・認知症高齢者・独居等) → 日頃の訓練・防災意識の高さ
- 町民の顔が見える避難所 → 認知症や独居・障害の方の把握・サポートがスムーズに
- 町民・保健師・地域包括支援センター職員の役割分担・情報提供などがスムーズに

### 町民同士の支え合い

自治会組織の強さ・認知症サポーター

## 地域では・・・

- 道路の遮断・・・孤立した高齢者もあり
- 通信手段なし
- 町民による避難所運営
- 民家に何家族が避難
- 地域の看護職が避難者の健康管理を
- 薬・食糧・物資の不足
- 民生委員等が地区の案内役に

## 認知症の方の避難状況と課題①

- 重度の認知症の方・・・震災後早期に施設入所（個人の対応）  
↓  
後々請求等のトラブルに
- 軽度の認知症の方・・・避難所内で比較的安定

行政機能の停止

全居宅介護支援事業所の被災

馴染みの人たちによる見守り・声掛け

## 認知症の方の避難状況と課題②

- 町内民家避難  
長期間の避難困難  
在宅介護サービス利用困難
- 町外家族への避難  
環境変化・介護の不慣れ
- 被災していない家の孤立化  
生活を支える環境の激変

施設入所の希望者増加

## ■ 仮設住宅入居後の課題

- コミュニティの崩壊・生活環境の変化
- 生活不活発病・喪失感・役割の変化  
→ 仮設住宅入居者の約3割に生活機能低下

ぼんやり

意欲の低下

物忘れ

- 家族の疲労・失業・ストレス等→介護力低下

## ■ 生活不活発病の予防を

■ 町民は「お茶っこ飲み」で地域の交流を図ってきた。  
「震災前と同じように急須で入れたお茶を飲みながら、話語りがしたい」

町民ひとり一人が大切にしてきたものは？

### お茶っこ会スタート

- 生活の活発化のきっかけづくり（生活情報の提供・仲間づくり）
- 新しいコミュニティづくり
- 被災体験を語りあう場（自然な形の心のケア）
- 啓発の場

## みんな一緒に・お茶っこ会



血圧測定

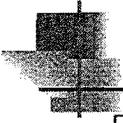
わはっ♪(^o^)

## 人で支えあう町づくりを

- 日常生活の早期復活を⇒一人一人が元気になる  
(当たり前の生活・普段の生活を・人とのかかわりの中での健康回復)
  - ・仕事ができる
  - ・役割を持つ
  - ・買い物の場
  - ・話語りの場
  - ・子どもの遊び場

・一人一人が大切にしてきたものを大切に

・町民とともに、考え、学び、創り出す



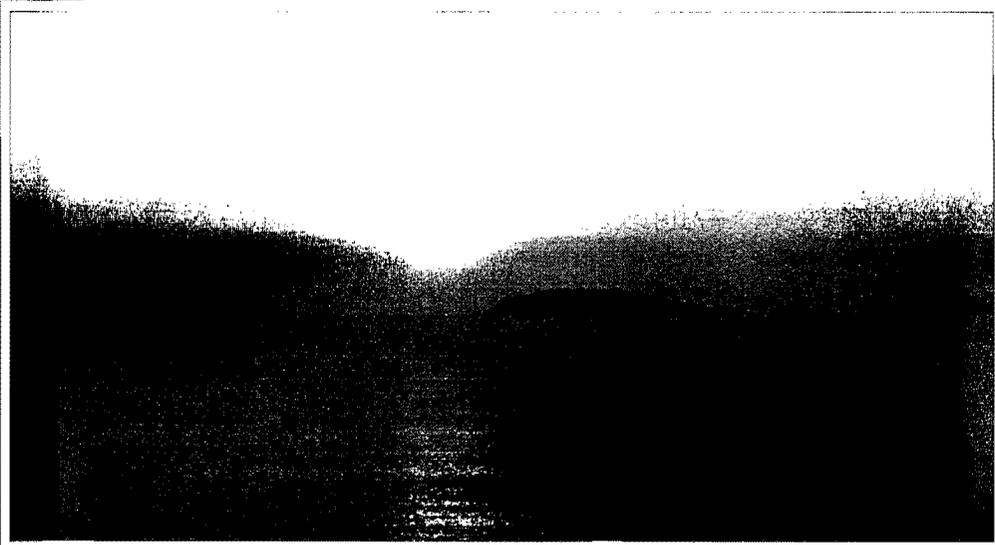
## 人で支えあう町づくりを

- 日常の積み重ねが重要
  - ⇒人のつながりが大きな力に
  - 地域づくり・町づくり
  - ⇒地域の力は無限大⇒復興の大きな力に
  
- 地域とつながる
  - ・小さな出会いを大切に
  - ・小さなところからつながっていく
  - ・つながったら広げていく

## 何気なく通る道だけど・・・



もし・・・すべてを  
失ってしまったら・・・？



支えてくれる人がいます



**サポーター養成講座再開！2,000人突破！**  
**「認知症にはならねえぞ！」**

支えてくれる仲間がいます

・ ・ チーム宮城



新たなつながりがあります・ ・

長浜市ロバ隊長 南三陸上陸



滋賀県長浜市の皆さんから激励のオレンジロバ贈呈

認知症みんなでわかって支えあい  
みんな笑って暮らすべし



佐藤町長も  
認知症サポーター

村井知事も  
認知症サポーター

～地域で支えあう町を目指して～

ご清聴ありがとうございました。

## 宮城県認知症疾患医療センター指定 に至る経緯と取り組みについて

三峰病院 宮城県認知症疾患医療センター  
主任 遠藤 眞

## 医療法人 移川哲仁会 三峰病院



### 概要

開設年月日 1959年2月6日  
設置者 医療法人 移川哲仁会  
理事長 移川二郎  
院長 連記成史  
診療科目 精神科・神経科・内科  
病床数 220床  
病棟区分 認知症病棟 50床  
精神療養病棟 59床  
精神一般病棟 111床  
関連施設 精神障害者社会復帰施設  
グループホーム『ラ・マンチャ』

理念：三峰病院は昭和34年以来風光明媚な自然の中に、医療設備の近代化、地域のネットワーク作りなど、診療体制の充実を図ってきた。  
皆様が安心して、明るい自由な生活を送ることが、一番大切なことだと思っている。旧来の精神医療から、新しい地域医療と福祉の確立を築くべく、地域と患者さんへの愛をモットーの第一にして、よりよい療養生活の役割を担いたいと思っている。

## 三峰病院 宮城県認知症疾患医療センター

認知症の鑑別診断、BPSDなどに対応する急性期医療、認知症医療相談、身体合併症における医療連携が可能のほか、認知症ケアを担う人材育成などの地域医療への貢献など、厚生労働省で定める要件を満たす医療機関を、県または政令市が指定するもの。

※仙台市が指定：2カ所



平成23年6月1日より宮城県の指定では初めての『宮城県認知症疾患医療センター』が三峰病院に開設された。宮城県認知症疾患医療センター（三峰病院）では、認知症の人とご家族が“その人らしく”安心して暮らすことができるように、認知症専門医・認知症ケア専門士・精神保健福祉士・臨床心理士・看護師などの専門スタッフがお手伝いしていく。センターは、認知症鑑別診断、各種相談、地域連携などの役割がある。

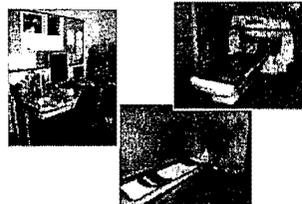
## 宮城県認知症疾患医療センターの役割

### ■各種相談

- ・電話相談、診察前相談
- ・介護者が抱える認知症に関する様々な悩み、不安などのケア相談。

### ■診断・治療

- ・認知症の鑑別診断・治療・ケア方針の決定。
- ・本人や家族に必要な情報を提供。
- ・BPSD・身体合併症への対応  
(入院相談、家族ケア相談など含む)
- ・困難事例への対応
- ・介護保険など福祉サービスを利用するまでのサポート。



### ■地域連携の強化

- ・地域包括支援センター、医療機関、関係職種、施設、家族の会などと連携、情報の共有を図る。
- ・退院時の家族・関係職種と連絡調整。
- ・かかりつけ医・専門職種・地域への研修会開催。
- ・定期的な医療連携協議会の開催。



## 認知症疾患医療センター開所までの経緯

平成17年から『認知症を知り、地域をつくる10カ年』のキャンペーンが始まり、認知症サポーターを増やし、認知症になっても安心して暮らせる街づくりを全国的に展開された。

平成17年、認知症の地域医療・地域ケアの推進を目的に、当院院長（連記成史）が宮城県で最初の認知症サポート医となった。

平成17年4月～平成19年3月まで地域認知症専門相談を実施。かかりつけ医対応力向上研修会を実施。

平成19年度に国の認知症対策事業、認知症支援体制構築推進事業が始まった。宮城県では気仙沼市と女川町がモデル地域（2年間）に指定された。

認知症地域ケアコーディネート推進会議が開催された。認知症支援を行う地域の各関係機関をネットワーク化し、地域支援体制構築を検討した。

地域密着型の病院を目指していた三峰病院が、モデル地域事業に協力できたことは大きかった。

### 1. 認知症サポート医（連記院長）として、

- ①認知症地域コーディネート推進会議出席
- ②認知症の理解を目指した市民講演会
- ③専門職のスキルアップを目指した研修会

### 2. 認知症ケア専門士として、

- ①サポート医である院長と共に、講演会や研修会の資料の準備や事前会議などに出席し、事業の手伝いができた。
- ②認知症地域資源マップ作成検討会への出席。
- ③パーソン・センタード・ケアに関して研修会実施

⇒改めて気仙沼市民の地域性、地元の資源、課題などを認識できた。

## モデル地域事業の成果と課題

(1) 成果：この2年間の様々な啓発活動によって、多くの人達が認知症に関心を示し、「認知症は病気」「早期発見・治療が重要」「相談する場所がある」と認識し、「病院に受診させたい、行った方が良い」と思う家族や地域の人達が増えてきたこと。専門職種の方々と顔見知りになり、それぞれの専門的な役割を活かしたネットワークを作ることができたこと。何よりも『気仙沼のために』という同じ志を持った人達と出会い、協議し、行動を共にできたことは、何よりの財産になった。

お互いの職場の壁、垣根を越えた多職種チーム

『Japan』が結成できたことは、とても大きな成果だったと言える。

(2) 課題：それぞれの専門職が認知症医療・ケアに関して共通認識を持ち、専門性を高めるようになったことは、ひとつの成果と言えるが、それらを多職種で共有する機会が少なくなってしまったことが逆に課題となった。

モデル事業が終了した後も、一定の連携体制は継続できていたが、“垣根を越えた専門職同士のつながり”を継続するまでには至らなかった。

当時は、家族や地域が関心を示し始め、新しい展開が必要な時期になっていた。モデル事業で培った成果をどのように展開し、継続していくかが大きな課題であった。



この事業によって「安心して暮らせる街づくり」の土台を作ってもらったと考えれば、今後の新しい展開を発進していく役割が、地域に求められているのではないかと感じていた。

モデル地域事業終了後もサポート医である連記院長は、三峰病院独自で、地区の公民館での講演、病院内で各専門職種のカケア資質向上を目的にした研修会などを精力的に開催した。

※平成20年度から国が制度化して医療面での認知症対策の充実を図る為、地域拠点として国内で150カ所整備する目標が立てられた。

平成21年10月より三峰病院に認知症疾患治療病棟を開設。

平成21年12月より認知症専門外来を開設。認知症に関連した専門相談、診察を開始した。

平成22年5月、院内に老年期疾患対策委員会を設置。

今後の超高齢化社会における様々な老年期疾患に対応すべく診断、治療、ケア、地域連携の強化を目的として設立された。



このように地域に密着した地道な活動が評価され、認知症疾患医療センター指定を受けたと思う。

平成22年11月より指定を受ける準備を開始し、平成23年4月の開設を目指していた。

3月11日の東日本大震災により高齢者を取り巻く状況は一変。

1. GH、特養、老健、介護サービス事業所などが被災。対応能力の極端な低下。
2. 今まで構築した地域ネットワークが十分に機能しなくなった。
3. 高齢者を介護する担い手不足、独居の認知症高齢者の増加。

※高齢者サポート対策は一刻の猶予もない事態に至った。



平成23年4月1日に指定予定だった三峰病院が、この大震災においてもほぼ無傷に残されたことによって、認知症疾患医療センターを受け入れる条件が保持されていたこと。

指定予定は6月1日となり、時期は遅れたが、この時期に認知症疾患医療センターの指定を受けたことは、気仙沼地域のみならず、全国的に果たすべき使命は大きいと感じている。

東日本大震災により、認知症の人を取り巻く環境は一変し、震災前の高齢者対策は大胆な変更を余儀なくされた。

1. 震災後から現在まで認知症の初診、相談する患者数は増加。今後さらに増加が予想される。
2. 通院で安定していた認知症患者のBPSDにより悪化して受診する患者数も増加。
3. 専門職や家族などへの電話相談・連携調整件数の増加。

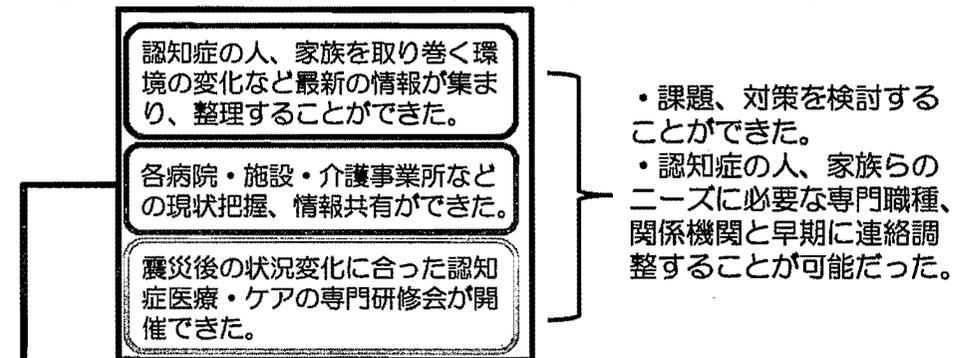
震災後4月～10月末までに認知症外来、相談で受診を勧められた経路

介護支援 専門員	医・病院 関係者	施設 関係者	新聞広告 など	なし	知人 友人	地域包括支 援センター
<b>31</b> %	<b>19</b> %	<b>16</b> %	<b>13</b> %	<b>15</b> %	<b>3</b> %	<b>2</b> %

約7割のケースで専門職の方からの病院受診を勧められている。

認知症疾患医療センターが開設したことで気仙沼管内の認知症医療・ケアの拠点となった。

※震災後に医療・福祉連携協議会、事例検討、専門研修会の開催により、専門職の葛藤、悩み、課題を共有できた。

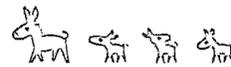


モデル地域事業終了後にやや低下していた“垣根を越えたつながり”が復活。また、震災によって、今まで接点の少なかった専門職と新たなネットワークが構築できたことは大きい成果と言える。

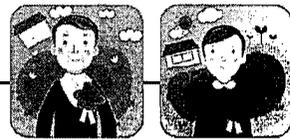
今後、宮城県認知症疾患医療センターは、今後想定されるケースをしっかりと考え、今まで以上の垣根を越えた密な連携を図り、認知症医療・ケアの拠点として地域・保健・医療・福祉・介護と『協力』して連携体制を強化していきたい。

すべては、再び認知症の人やそれを支える家族、介護者が安心して暮らせる街に戻れるように・・・

# 宮城県の実組みについて (これから)



## 第5期みやぎ高齢者元気プラン (最終案)での方向性



### 基本理念

高齢者が地域で自分らしい生活を安心して送れる社会

高齢者が、今まで暮らしてきた家庭や地域の中で、自立と社会参加が保障され、みんなで支え合いながら生活できる社会を目指す。

### 目標1

みんなで支え合う  
地域づくり

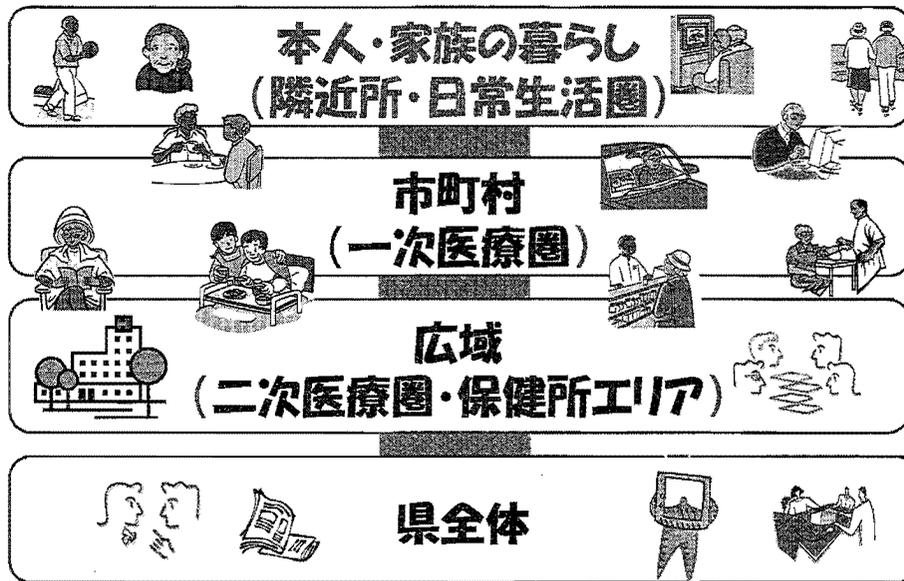
### 目標2

自分らしい  
生き方の実現

### 目標3

安心できる  
サービスの提供

## 目指したいのは「生活まるごとサポート」 ＝地域包括ケアの実現



## 生活支援と復興を同時並行で

### <認知症の方と家族を取り巻く課題>



#### 1 本人

馴染みや支えを失ったり、支援者(家族、親戚、近隣・友人、医療・介護サービス事業所職員等)・住まい・地域の環境の変化等による混乱・不安など

#### 2 家族

介護負担やストレスの増大(震災を機とした転居や同居、失業等による経済的危機、行政機能の回復途上、介護事業所等の被災による利用制限など)



### <高齢者支援全体として目指したいこと>



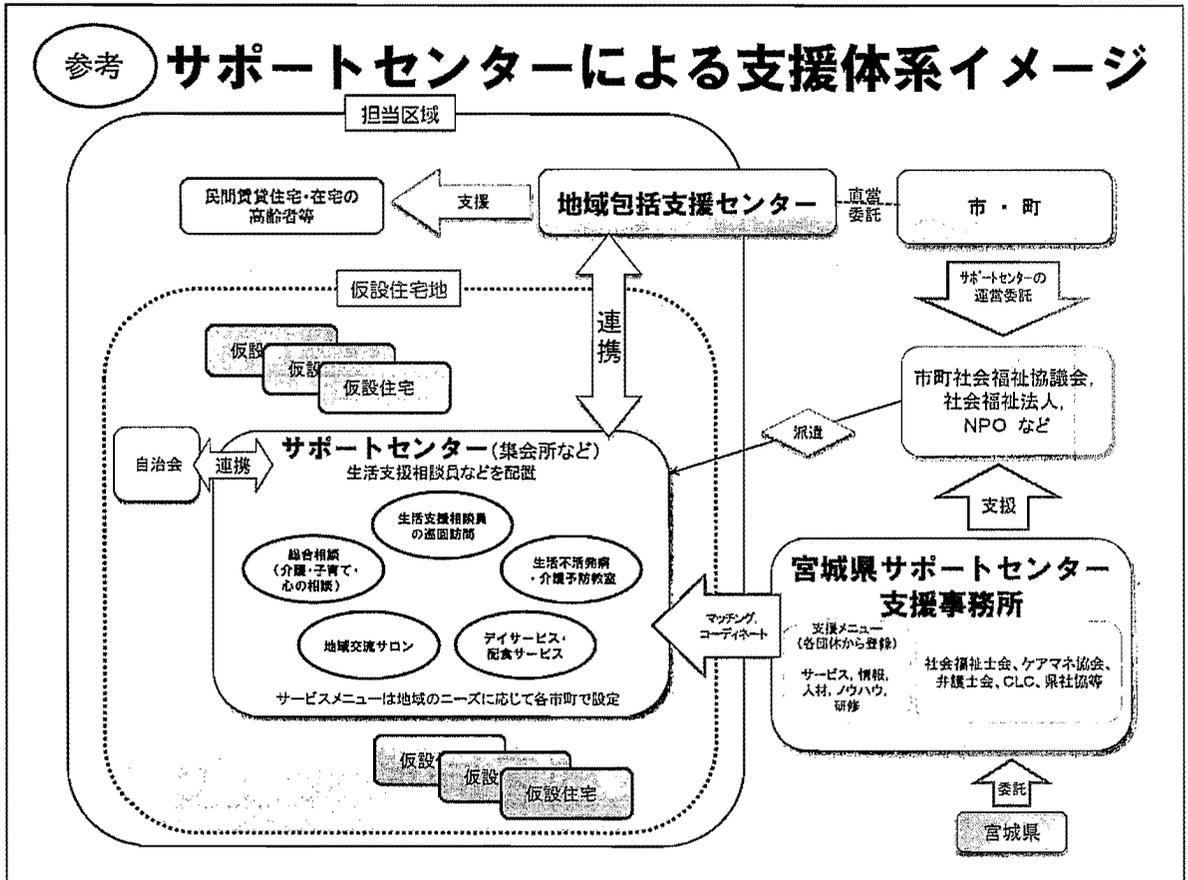
- 住民、医療機関、施設、行政等の地域資源が連携した地域でのサポート体制の再構築
- 地域での見守りや生活支援などのニーズに応える地域の支え合い体制の構築
- 高齢者の孤立防止、認知症の方と家族の支援、高齢者虐待防止などの事業の推進



「宮城県震災復興計画」によると取組みと連動

参考

# サポートセンターによる支援体系イメージ



参考

# 宮城県の生活不活発病予防のイメージ図

～高齢者一人ひとりが持つ力と役割を発揮できる支援・環境づくり～

## 活動再開・コミュニティ活動

自治会、老人クラブ、介護予防サポーター、保健推進員、食生活改善推進員活動など

## 復興・まちづくり

買い物・通院等の移動手手段確保、高齢者配慮のハード整備、農業・漁業・商業活性化

## 新たな取組み・支援の輪

サロン活動や住民参加の機会、場づくり。支援団体同士の連携促進・情報共有。

在宅



仮設住宅



市町村内 \* 他市町村からの避難者支援も含む

みなし仮設



サポートセンター・社協・介護サービス事業所・支援団体・住民自主組織による活動

介護予防事業・健康教室・啓発活動等

連携

市町村高齢者保健福祉担当課・地域包括支援センター・健康づくり担当課など

支援

協力・支援

県保健福祉事務所

広域に活動する支援団体

県庁(長寿社会政策課など)

県サポートセンター支援事務所

専門的助言

専門的助言

県内の有識者、独立行政法人国立長寿医療研究センターなど

チームみやぎの活動や全国の皆さんとの出会いを通して

## 取組みにあたって大切にしたいこと

### 1 ひとり一人に丁寧に関わる

ご本人、ご家族、地域の関係者、同僚にも。

### 2 現状に目を背けない、目的を見失わない

ご本人、ご家族の声は現実。大震災も現実。

何のために？がぶれないように。効率を求めすぎない。

### 3 仲間づくりを地道に

職場・職種・年齢問わず、専門職も住民の一人として。

様々な壁を超えて、多様なつながりを活かす。

### 4 チャンスを逃さない

チャンスをチャンスと思える感性を磨く。

担当業務外にも興味を持つ。



**大震災を経験したからこそ、誰もが  
「つながり」の大切さを感じています。  
これまでの「つながり」を活かし、  
新たな「つながり」づくりを通して  
認知症になっても安心して暮らせるまちへ  
一歩一歩、前へ！**



第25回全国健康福祉祭 宮城・仙台大会

**ねんりんピック宮城・仙台2012**

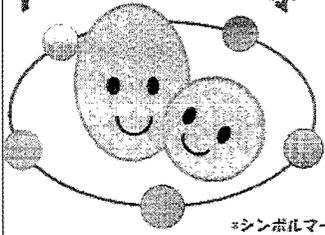
平成24年10月13日(土)～16日(火)

伊達の地に 突れ!ねんりん いざいさと



NICE! 藤井寺

20120313認知症地域支援体制普及セミナー 資料



※シンボルマーク※

認知症になっても  
いきいき暮らせる町って  
ええやん!

NICE! 藤井寺

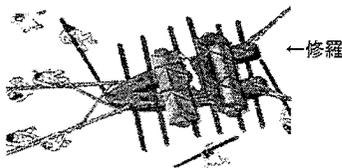
～藤井寺市における実践報告～

藤井寺市社会福祉協議会 藤井寺市地域包括支援センター

前原 由幸

### 藤井寺市の概況

- ◆大阪市の南東部に位置するベッドタウン。
- ◆大小の古墳が密集する古墳群がある。
- ◆かつてはプロ野球大阪近鉄バッファローズの本拠地・藤井寺球場があった。
- ◆面積は、8.89平方キロメートル  
(全国の市の中で5番目に小さい。)
- ◆人口 66,867人 (H23.9月末現在)
- ◆65歳以上人口 15,208名 (高齢化率22.7%)
- ◆地域包括支援センター1か所 (社会福祉協議会)



## 担当者から見た地域の特徴 (平成19年度時の評価)

- 民生委員活動・福祉委員活動が比較的活発であり、住民間のつながりが残っている。  
⇒一方で、その担い手の固定化・高齢化・重複化
  - 人材の発掘、育成が必要！
- 認知症に関するインフォーマル資源や 認知症の啓発の実績などはほとんどない。
  - 認知症に対する正しい知識・啓発が必要！
- 専門職間ネットワークが弱い。
  - 介護職、医療従事者等の連携の下で地域支援が必要！



## ビジョン 及び 方針

### ビジョン

- ①認知症の方とその家族を地域で支えるサポート体制づくり
- ②認知症をキーワードにした地域のつながりづくり

住民意識調査結果が、担当職員の背中を後押し！

### 事業方針

- ①必要だと感じたことはとにかくやってみる。
- ↓
- ②展開した内容を必ず関係者に報告(還元)する。
- ↓
- ③軌道修正や新たな課題を掘り起こす。



## NICE！藤井寺の取り組み

- ◆啓 発
  - ・キャッチコピーの設定
  - ・シンボルマークの公募
  - ・理解推進キャンペーン
  - ・認知症フォーラムの開催
  - ・ニュースレターの発行
- ◆人材養成
  - ・認知症サポーター養成講座
  - ・住民代表者への研修
  - ・団塊世代への働きかけ  
⇒アウトドアイベントの開催・ボランティアグループの立ち上げ
  - ・専門職サポート
- ◆家族支援
  - ・家族セミナー ⇒“家族の会”の創設
- ◆地域支援
  - ・徘徊対応模擬訓練の実施
- ◆専門職ネットワーク
  - ・専門職ネットワーク“いけ！ネット”との連携
  - ・【専門職向け】地域資源情報集の作成
- ◆調査等
  - ・住民意識等調査



## 主な事業より・・・

- ①キャッチコピーの設定・シンボルマークの公募
- ②認知症サポーター養成講座
- ③親父パーティー
- ④認知症徘徊対応模擬訓練
- ⑤専門職ネットワーク「いけ！ネット」の協働
- ⑥民生委員との連携強化
- ⑦報告会は、次のステップへの架け橋



① ・キャッチコピーの設定  
・シンボルマークの公募

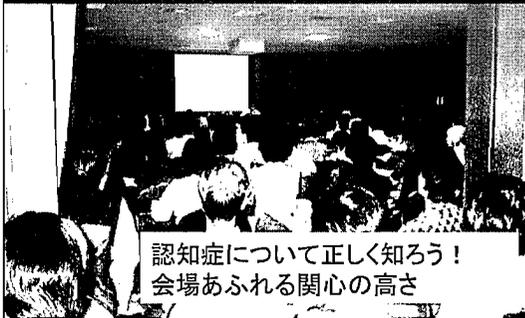
- ・ N 認知症になっても、
- ・ I いきいき暮らせる
- ・ C 町(CITY)って
- ・ E ええやん!



絶対に隠したいテーマにはしない!

② 認知症サポーター養成講座

～保健推進委員・福祉委員・民生委員・老人クラブ～



サポーター数 1,998名  
(平成24年1月31日現在)



## 拡大する認知症サポーター養成講座

～「郵便局」「理美容組合」「学校」多領域へ～

理美容組合研修にて



郵便局職員研修



短期大学にて



夏休みに...



### ③ 親父パーティーの展開



できることを探すワークショップ



認知症イベントを企画しよう!



歌！食事！仲間！みんなで飛ばした紙ひこうき！！

「親父パワーを地域のチカラに！！」をテーマに、長年社会で培った知識を出し合い、様々なイベントを企画運営。認知症の方に余暇の場を提供し、さらに多くのボランティアを巻き込みながら活動の場を広げていきます。  
「親父パーティー」という名前から男性ばかりが参加していると思われがちですが、実は半数が女性メンバーです。

## 親父パーティ広がる活動の場・・・



認知症のことをたくさんの人に知ってもらうため、親父パーティは、公園や集会所、サポーター養成講座の前座などで、歌を歌ったり、多様な取り組みを企画し実行。地域で支える大切さを伝えています。



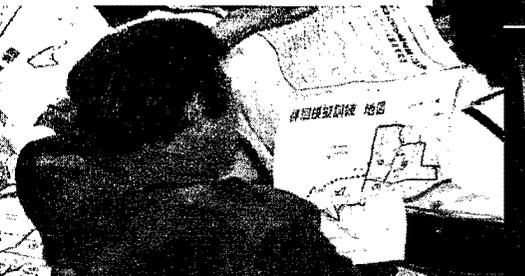
## ④ 認知症徘徊対応模擬訓練

徘徊者役は、市内のケアマネジャー

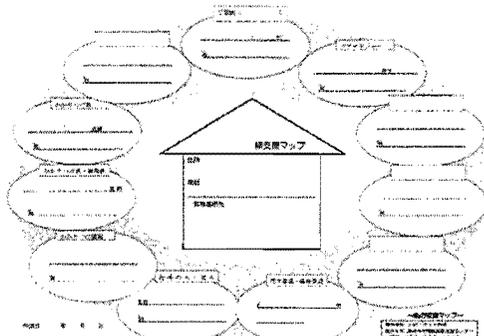
提供情報をもとに、徘徊者を捜し、正しい声のかけ方や、付添いの方法の参加型実践！！



地図を見ながら探す範囲をチェック



## ⑤ 専門職ネットワーク「いけ！ネット」との協働



正式名：『医療とケアマネネットワーク連絡会』（平成19年度から）

事務局：藤井寺市地域包括支援センター

参画機関：・介護保険事業者連絡会・3師会・病院・市  
・保健所

定例会：毎月第4火曜日、14時～15時



## 「いけ！ネット」の主な取り組み

### ◆交流会

- ・医療・介護職双方の交流会を目的とする他、アンケート報告や連携ツールなどの成果物を報告。

### ◆連携ツールの開発など ～ゆるやかなルールづくり～

- ・「医療・介護連携シート」……相談したい際に利用するアポイントメントシート
- ・「関係者間の連携体制図」……在宅時、入院時など各職種の動きを示したフロー図
- ・「私の支援マップ」……ひとり暮らし高齢者を中心に隣人、関連機関（人物）を一目で分かるようにしたシート
- ・「アンケート調査」……連携に対する意識調査、連携ツールの認知度を調査
- ・「在宅生活情報シート」……利用者が入院する際、ケアマネから病院へ送る情報シート
- ・「PRビデオの制作」……連携の大切さをテーマにしたPRビデオ。出演者は 医療介護従事者



## 「NICE！&いけ！ネット

### (専門職向け)地域資源情報ファイル作成へ」

#### ◆「いけ！ネット」と協働し、情報集作成

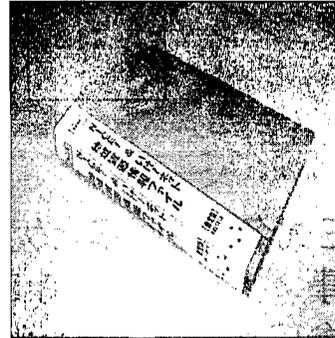
フォーマルを中心とした情報を集めるためのアンケート調査を実施。

#### 【平成19年度】

情報を集めるためのアンケート調査を実施  
⇒いずれの機関も、回収率100パーセント

#### 【平成20年度】

インフォーマル情報を加え、各機関に配布



#### ◆波及的動き

医師会、歯科医師会⇒認知症研修の共同実施

薬剤師会⇒認知症サポーター養成講座の開催



## ⑥ 藤井寺市民協と藤井寺市地域包括支援センターの連携強化に向けて

(NICE！藤井寺外の取り組み)

#### ◆実態把握

・アンケート形式で、民生委員と地域包括の連携状況を把握。



#### ◆職員紹介

・互いに、顔写真入りのチラシを交換。

#### ◆交流会・事例報告会

・連携が上手くいっている事例、上手くいかなかった事例の報告。  
・グループディスカッション

#### ◆後方支援

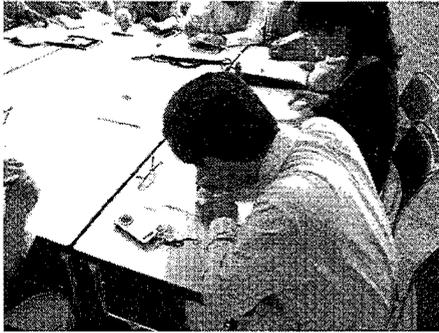
・民協が行っている高齢者実態把握調査の中で民生委員が「支援が必要」と判断したケースを地域包括支援センターに届け、情報の整理、同行訪問、担当ケアマネの紹介などを行い支援強化に努めている。

⇒多面的接点から実践的な連携強化を探る。

## 民生委員と包括の連携強化に向けて (交流会)

テーマ:『民生委員活動で困惑することと工夫』

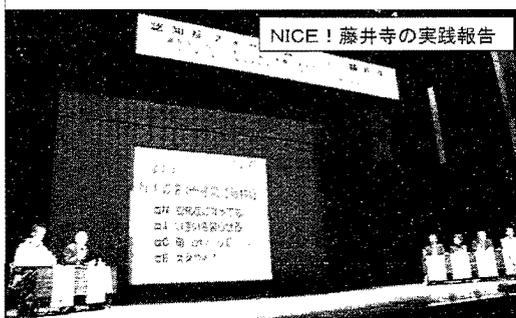
(ワークショップの様子)



民生委員が困惑する事例として、認知症に関する  
ことが多い。

⇒不定期ではあるが懇談会や事例検討会を継続

## ⑦ 報告会は、次のステップへの架け橋



実践報告は、  
・事業の振り返り  
・活動の周知  
・意見収集  
・ニーズの掘り起こし  
・仲間づくり...

最後に・・・



## 取りくみを実施して①(手ごたえ)

○認知症啓発等の実践がもたらすもの

- ① 関心の高まり
- ② 正しい知識
- ③ 活動への参加・見守り行動



○事業展開を進めるなかで、

思わぬ波及的効果やつながりが生まれてきた  
(思わぬ展開を上手く活用できた。)

＝認知症の取組みをすすめる手ごたえ

⇒事業成果の継続や発展を施策として担保する必要性

## 取りくみを実施して②(役割期待)

- 自身の職種や機関の役割の主張することは容易い。  
しかし、自身の職種や機関の役割期待について語ることは難しい……。 (少しずつ違いがある)

例えば…

- ◆本人(家族) ⇒ 地域役員
- ◆地域役員 ⇒ 社会福祉協議会
- ◆専門職 ⇒ 地域包括支援センター
- ◆地域包括支援センター ⇒ 行政など

➡ 誰のための支援か！ハートは熱く！頭はクールに！



## 取りくみを実施して③(他のチカラ)

- 『認知症の取組みは、待ったなし』…  
取組みを今こそぜひ、すすめていきましょう！

- ・出来ることから
- ・気がついた人や機関から
- ・小さなエリアから
- ・日ごろの活動のなかで

\* 全国各地で取組みが広がっていますが、  
キーパーソンは、さまざま。。

\* がんばり過ぎない！他人のチカラを上手く利用しよう！



認知症に対する取り組みに全国が注目！

NICE! 藤井寺



おやぢ  
親見父パーティ

藤井寺市地域包括支援センター



NICE! 藤井寺のシンボルマークに込められた想い

NICE! 藤井寺



N  
I  
C  
E  
→ 認知症になっても、いさぎよく暮らせる  
→ 町(CITY)って、ええやん! 藤井寺

このマークの5つの球体はそれぞれに自身、家族、友人、地域、社会を表現していて、太陽をイメージした中央を5つの球体が惑星のように包み込んでいます。家族・友人そして地域・社会に支えられ、自身によって輪が広がる…そんなイメージを表現してデザインされました。また、「NICE! 藤井寺」という合言葉には、「認知症になっても、いきいき暮らせる町って、ええやん!」という意味が込められています。認知症になっても自分らしく笑顔で暮らせる町って、きっと素敵です。



NICE! 藤井寺親父パーティー

「親父パワーを地域のチカラに!!」をテーマに、長年社会で培った知識を出し合い、様々なイベントを企画運営。日頃同じこもりがちな認知症の方に余暇の場を提供し、さらに多くのボランティアを巻き込みながら活動の場を広げています。「親父パーティー」という名前から男性ばかりが参加していると思われがちですが、実は半数が女性メンバーです。

★グループの特徴★

このグループの特徴…それは  
①リーダーを始め書記や会計など役職がないこと。全ての決定権は会議の場にあります。  
②自分がやりたい時に、やりたいことだけでいい。そんな気軽に気楽なボランティアだからこそ楽しめるし、続けられるのではないのでしょうか!  
“まずは自分が楽しもう!自分が楽しくないと相手も楽しくない!”が合言葉です。

また、全ての活動に共通している“もし、自分が認知症になったとき、こんな活動があったらいいのにな”という想いは、メンバーにとって認知症は他人事ではないという想いの現れです。あなたも是非楽しんでみませんか?ボランティアのイメージが変わるかもしれません。

あなたの優しさで笑顔になれるかたがたたくさんいます。認知症を知ってください。

認知症が“脳の病気”だと知っていましたか?2004年12月に『痴呆』から『認知症』に呼称が変更されました。これは、『痴呆』が本人の尊厳を欠く侮蔑的な表現であり、「何もわからなくなる」という誤解を生んでしまい、早期の発見や診断、適切な対応の支障となっていたためです。認知症の症状に最初に気付くのは本人です。認知症の人は何もわからないのではなく、誰よりも一番心配なのも、苦しいのも、悲しいのも本人です。相手を傷つけない言葉かけや態度で接してください。きっと不安でいっぱいです。さらに、家族さんが苦しんでいる事も知

周囲が気づかない、いろんな苦勞が家族に起きてきます。介護は長い期間にわたる事があり、家族だけで介護しようとするとうるさい生活がもたなくなり、介護保険制度やその他相談機関等を利用しながら、無理のない介護を続ける事が、本人にとっても家族にとっても大切になります。認知症になっても本人と家族が安心して元気にくらせるように、地域で支える意識やしくみがあれば、本人や家族はどんなに楽になるでしょうか。誰でも住み慣れた地域、大好きな町、自分の家で暮らしていきたいと思っています。

★NICEな親父・オカン達の活動内容(代表的な活動の紹介)★

**真の光** 認知症日帰りアウトドアイベント

日頃、外に出る機会があまり無い認知症高齢者の方を対象に、デイサービスなどでは味わえない体験や、太陽のもとで日楽しむイベント、学生・専門職などのボランティア参加もあり、新しい発見がいっぱいの楽しいイベント。他の様々な活動の原点がここにある。現在まで、計3回実施されている。

**真の春** 藤井寺市ってええやん!計画 (認知症啓発&ゴミ拾いながら音楽パレード)

認知症のことやグループのことを知って欲しい!という意見から生まれた活動。ゴミを拾いながら認知症啓発を行うイベント。休憩で立ち寄る公園で音楽会を実施。“エコでええこと(いいこと)”を合言葉に、ただのゴミ拾いじゃない!ただの音楽会でもない!もちろん、ただのチラシ配りでもない!楽しいからいいんです!

**真の秋** 公園を親父が変える!イベント

最近公園で子供が遊んでない!公園が寂しい!という声から生まれたイベント。公園を舞台に地域の方に集まってもらい、音楽会や昔遊び、不用品を使った抽選会等を実施。集まった方に対して認知症啓発を行いながら地域で支える事の大切さを伝えていく。また住民同士の出会いの場にもなっている。

**真の四** 一緒に歌いましょう(音楽会)

毎月、第2土曜の10時から11時に市役所地下1Fホワイエにて、定期的に開催する事で閉じこもりを防止して欲しいと開催。更に自分達がもし認知症になった時…こんなグループが街にいたら、楽して徘徊中でも寄り道してしまふんじゃないかな?声を掛けてくれるんじゃないかな?自分達の未来を見据えた夢のある活動です。

★受賞歴・関連記事★

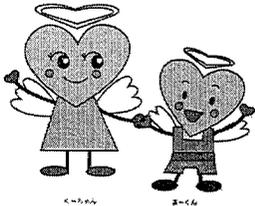
- 「『認知症でもだいじょうぶ』町づくりキャンペーン」にて「町づくり2008モデル」受賞
- 「第2回 Make a CHANGE Day (全国一斉ボランティアの日)」にて「優秀賞」受賞 (H22年度)
- 「第3回 Make a CHANGE Day (全国一斉ボランティアの日)」にて「特別賞」受賞 (H23年度)
- 新聞等記載状況
  - ※ 朝日新聞 (H20.11.12) (H20.11.15) (H23.1.15) (H23.2.6) 計4回掲載
  - ※ 月刊福祉 (H24年1月号) メンバーへのインタビューが掲載
  - ※ ふれあい (H22.9.1) ※ 神戸新聞 (H23.2.5)





# 地域支援体制の構築に向けて

久万高原町社会福祉協議会の実践例



久万高原町社会福祉協議会イメージキャラクター



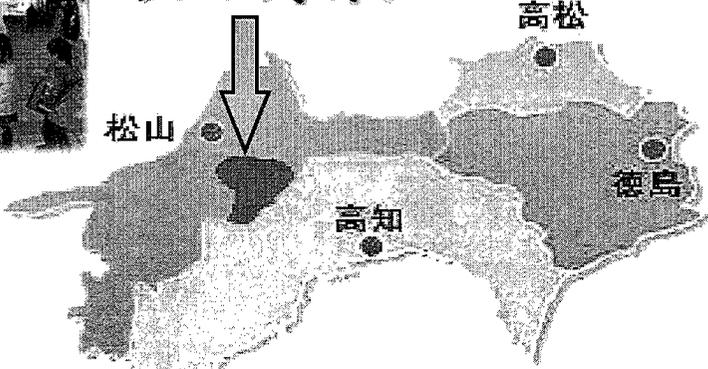
社会福祉法人  
久万高原町社会福祉協議会(愛媛県)

## ①地域概況 ②地域紹介 愛媛県久万高原町の位置



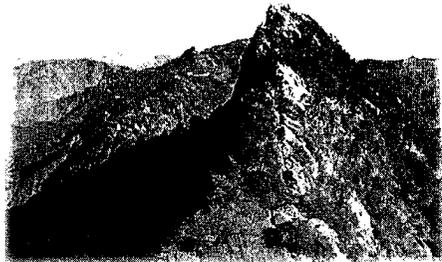
久万高原

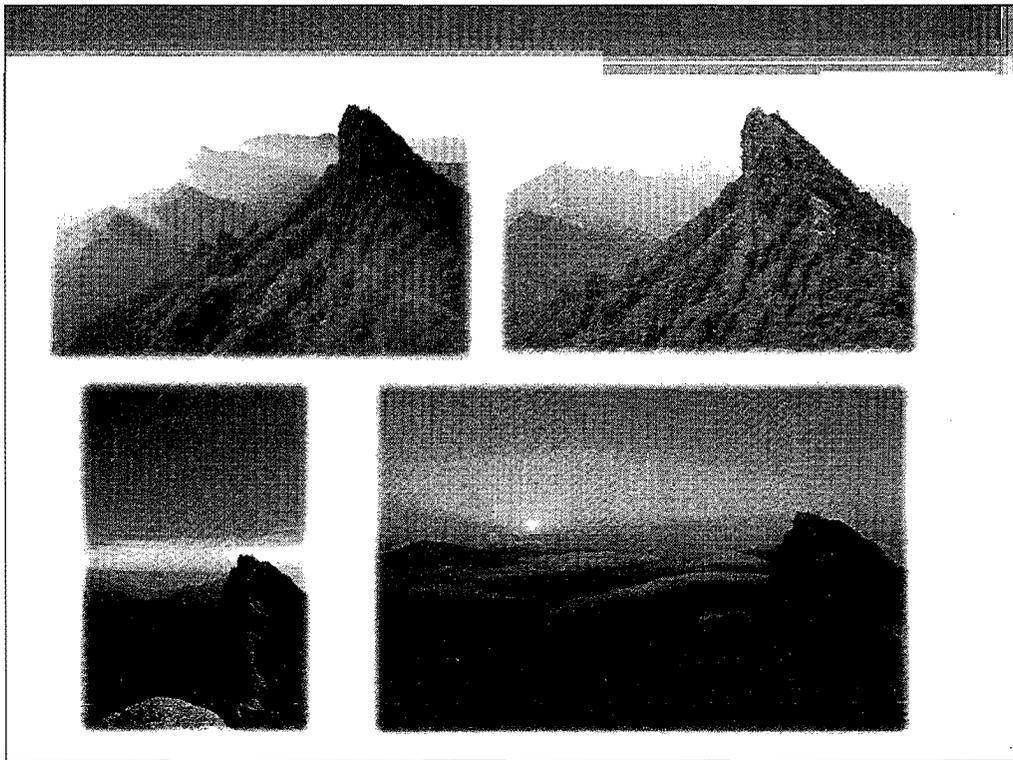
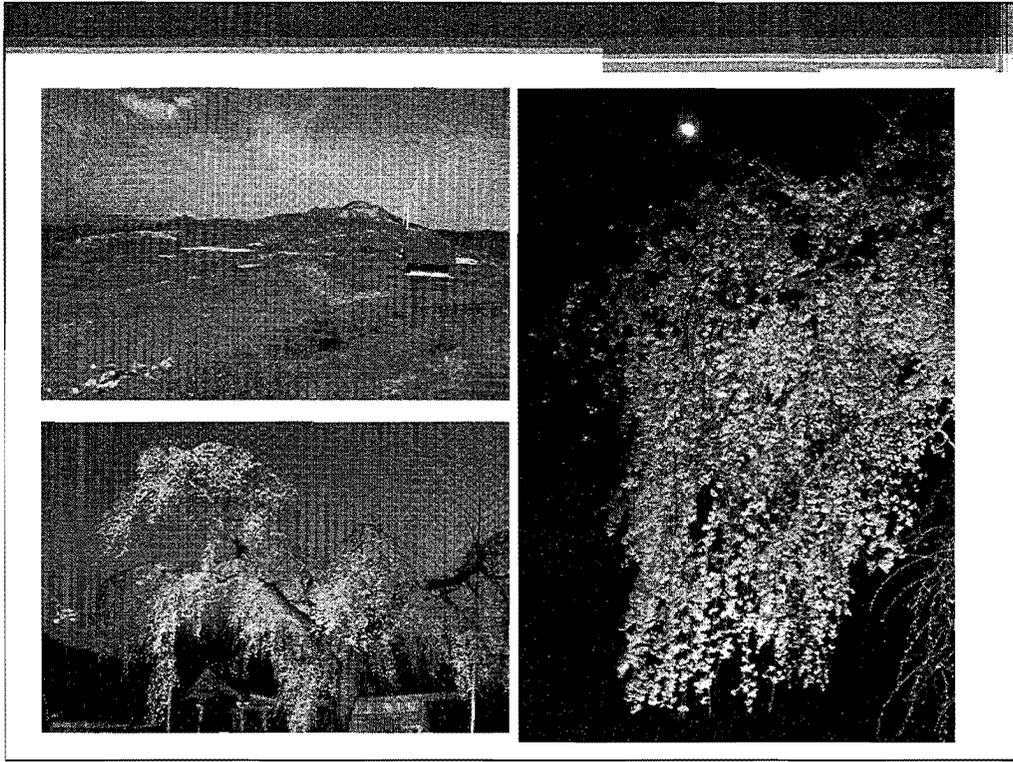
愛媛県久万高原町は、平均標高が800mの高原のまち。夏は涼しく、冬はスキーも楽しめます。



SHIKOKU ISLAND

四国やのに！







## 久万高原町の人口状況

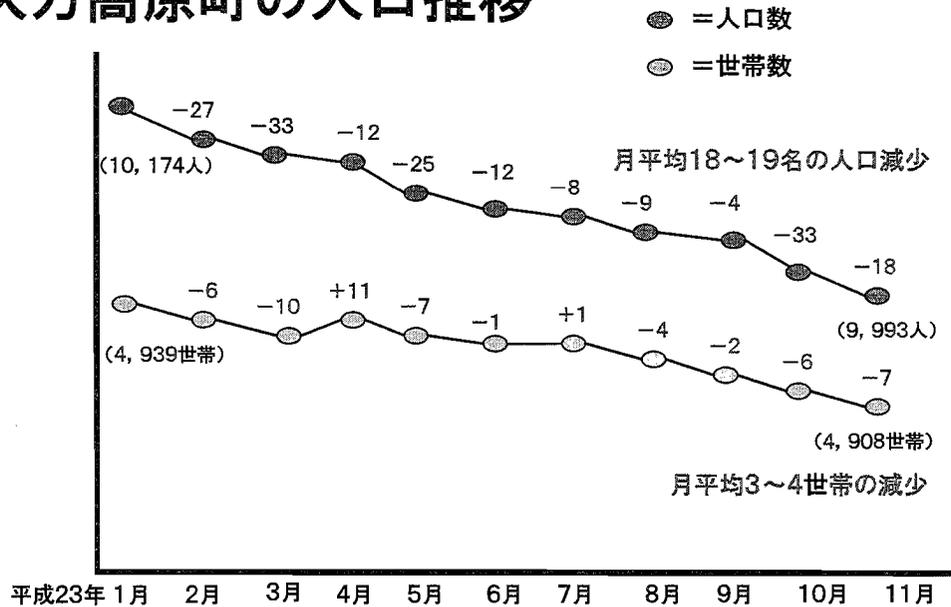
世帯数 / 4,908 戸

人口 / 9,993 人

内訳 ( 男 4,695 人 )  
( 女 5,298 人 )

※平成23年11月末現在

## 久万高原町の人口推移



### ③地域課題

久万高原町の高齢化率

**43.03%**

※愛媛県下1位の高齢化率

愛媛県内の高齢化率 = 26.06%

(平成23年4月1日現在:愛媛県長寿介護課調査資料)

## 高齢化に伴って・・・

- ・地域で共に支えあうことの難しさ  
→地域で『ちょっと気にかける』活動の展開
- ・そっと支える担い手の養成  
→地域の新たな担い手づくり
- ・成年後見(法人後見)の増加  
→法人で支えていくことの必要性

## 久万高原町社協法人後見受任状況について (年度別受任者数表 ※累計)

年度	類 型			受任者数計
	後見	補佐	補助	
17年度	2	0	0	2
18年度	1	0	0	1
19年度	6	0	1	7
20年度	5	0	0	5
21年度	2	0	0	2
22年度	2	0	0	2
23年度	2	0	0	2
受任者数計	20	0	1	21

法人後見受任状況について  
(被後見人等状態別 ※累計)

認知症	知的障害	精神障害	計受任者数
18名	1名	2名	21名

④私たちのビジョン！

住み慣れた地域で安心して暮らすことができる

➡つまり…

在宅生活に視点を置いて！  
在宅福祉の充実に向けて！

しかし、周りの理解がないと住  
み慣れた地域で暮らす事が難  
しい！安心して暮らす事が出  
来ない！

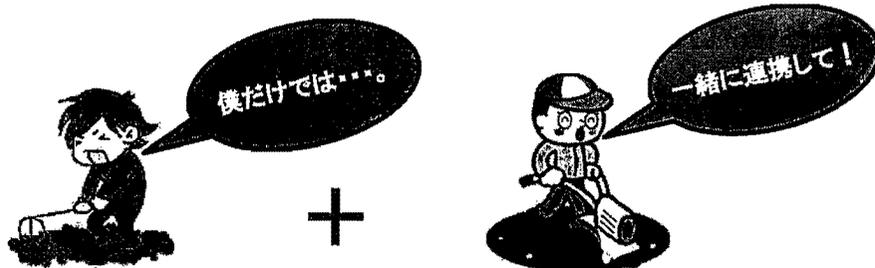
そこで・・・

⑤周囲の理解者を作るという  
ビジョンを実現していくためには・・・  
(方針・焦点)

地域を耕し続けていくこと！



1人(1つの団体)で耕すよりも・・・



久万高原町社協

+

『久万高原町(行政)』と連携して！

||

一緒に耕していく！

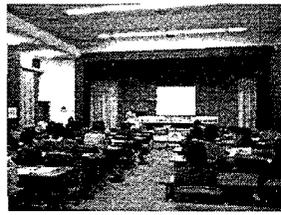
## ⑥具体的な仕掛けと取り組み内容



- 生活・介護支援サポーター養成講座
- 「団塊の世代の老い方・死に方・支え合い方」セミナー

## 生活・介護支援サポーター養成講座の実施

目的: 地域の中でそっと生活を支えてくれる地域の担い手を養成!



## 生活・介護支援サポーター養成講座の実施

目的:地域の中でそっと生活を支えてくれる地域の担い手を養成!



## 生活・介護支援サポーター養成講座内容

実施期間:平成23年10月21日(金)~12月11日(日)の間の7日間  
20時間のカリキュラム

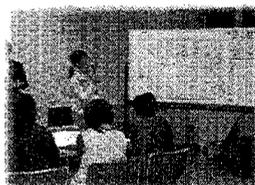
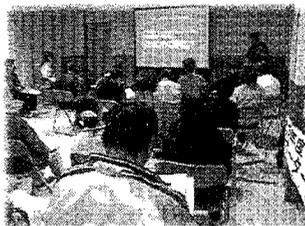
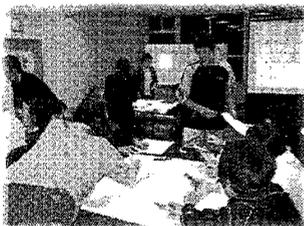
(実施カリキュラム)

回	月日	時間	内容	開催場所
第1回	10月21日(金)	19:00~21:00	開講式・オリエンテーション 「支え合い」のきっかけづくり	久万高原駅やまなみ
第2回	10月28日(金)	19:00~21:00	人の話をうまく聴く!ちょっとした『隠し味』を伝授!	久万高原町社協 美川支所
第3回	11月11日(金)	19:00~21:00	久万高原町の宝を活かすケアについて学ぶ!	久万高原町社協 柳谷支所
第4回	11月25日(金)	19:00~21:00	地域課題の解決方法を探してみよう!	久万高原町社協 面河支所
第5回	12月 2日(金)	19:00~21:00	障がい個性と捉え、地域で支える!(当事者の声を聴く)	久万高原駅やまなみ
第6回	12月 9日(金)	19:00~21:00	ドクターが教える!認知症を理解しよう!	久万高原駅やまなみ
第7回	12月11日(日)	9:00~17:00	演習『地域で支えあう!』 小倉くめさん特別講座	久万高原駅やまなみ

実施場所:JR久万高原駅やまなみ2階 ・ 社協各支所

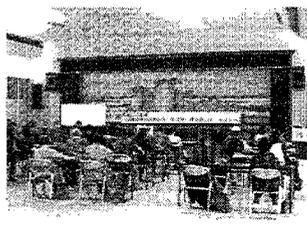
## 仕掛け側のスタンス

- ・参加人数でない！少数でいい！
- ・地域で何が出来るか？！  
(グループワークを中心に地域の声を聴く！)
- ・地域の『ちょっとしたこと』を、話してもらうための仕掛けづくり(顔の見える関係性づくり)
- ・住民の生の声を聞き、社協と共に地域を作っていく仕掛けづくり
- ・社協職員の向上(社協職員みんながソーシャルワーカー)



## 団塊の世代の老い方・死に方・支え合い方セミナー

『死』を考えるセミナーを展開！



なぜ『死に方』を考えるのか・・・？

『皆さんどうやって  
死んでいきたいですか・・・？』



『死に方』を考えると『生き方』が見えてくる！

### 団塊セミナーに参加して(感想抜粋)

- ・地域の中で何ができるか！私にもできることを見つけて、地域に恩返しができるようにしたい。(40～50代)
- ・地域で暮らすということに何が大切か理解できた。地域みんなで支え合い、安心して生きれるつながりを作っていきたい。(40～50代)
- ・地域に頼み上手になって、消しすみのようになろうとも地域に参加しできることをする。(60代)
- ・他人事ではなく自分で造る！(80代)
- ・横に手をつなぐ！(80代)

## 芽がでてきた・・・！



## その芽を大切に時間をかけて育ててみる・・・。



## ⑦その後の広がり

立派な花が咲くもんなんです！



認知症の方も地域の皆さんとともに…。

ふれあいサロンの様子

## ⑧全体的な成果と課題、今後の方向性

### 成果

- ★地域をリードしていく新しい担い手づくり
- ★一層の顔の見える関係性づくり(困ったことがあれば、とりあえず〇〇さんに！)

### 課題

- ★課題はつきもの！地域づくりにゴールはなし！

### 今後の方向性

- ・地域を耕し！耕し！耕し！続ける…。
- ・地域に種をまいてみる！
- ・でてきた芽を時間をかけて育て、花になるまで気長に支えて行く！

『待つこと！』のスタンスをあえて大切にする！

## 4. 參考資料



## 認知症対策等総合支援事業について

厚生労働省老健局高齢者支援課  
認知症・虐待防止対策推進室

1

### 認知症の方への支援体制

～医療・介護・地域の連携～

- 認知症の方ができる限り住み慣れた地域で暮らすためには、必要な医療や介護、さらには日常生活における支援が有機的に結びついた体制を整えることが重要。

本人、家族



医療

介護

地域

(適切な医療の提供)

- もの忘れ相談の実施
- かかりつけ医、サポート医による適切な医療や介護サービスへのつなぎ
- 認知症疾患医療センター等の専門医療機関による確定診断

(専門的なケアやサービスの相談と提供)

- 認知症予防のための地域支援事業
- 本人の状態に合わせた介護サービス
  - ・ 認知症対応型通所介護
  - ・ 小規模多機能型居宅介護
  - ・ 認知症対応型共同生活介護

(本人の権利擁護や見守り、家族支援)

- 認知症サポーター等による見守り
- 見守り、配食、買い物などの生活支援サービスや権利擁護などの地域支援事業の活用
- 市民後見人の育成及び活用
- 認知症の方やその家族に対する支援団体による電話相談や交流会の実施



市町村は必要な介護サービスを確保するとともに、それぞれの分野の活動支援、推進を図る。

2

# 介護保険制度の見直しに関する意見

(平成22年11月30日 社会保障審議会介護保険部会報告書より抜粋)

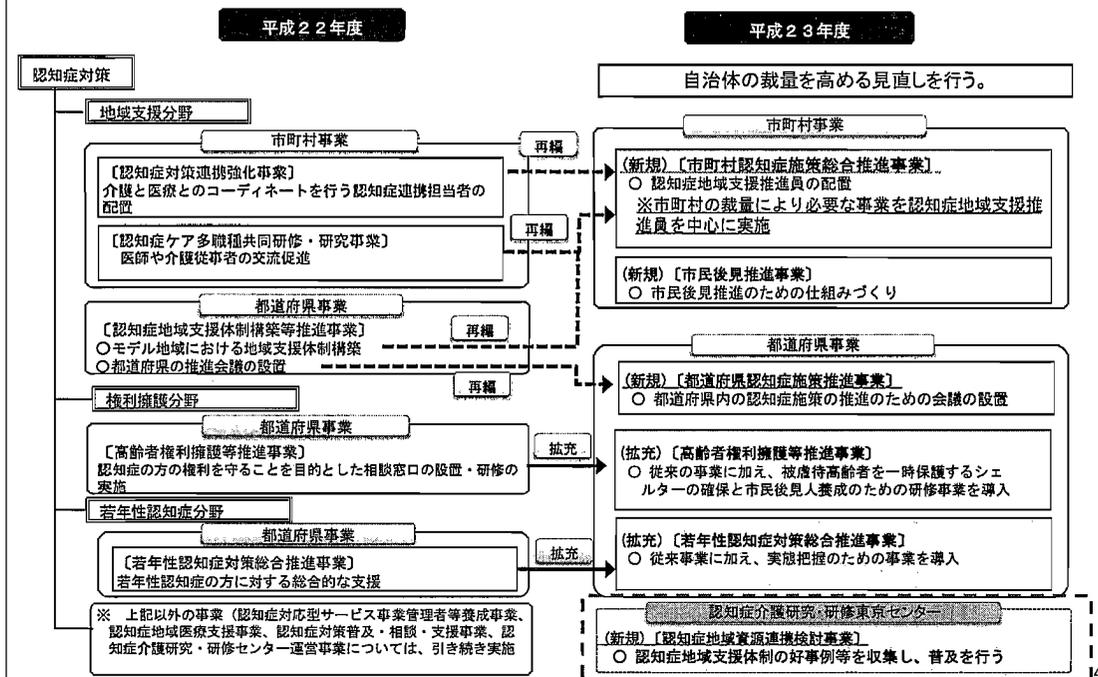
## (6) 認知症を有する人への対応

### (今後の対応)

- こうして整備された様々な関係機関の調整役として認知症ケアのサポートをするために、必要に応じて地域包括支援センター等に専門的な知識を有するコーディネーター(連携担当者)を配置し、認知症サポート医等との連携を図りつつ、医療と介護の切れ目ない支援体制を構築していくことについて検討すべきである。

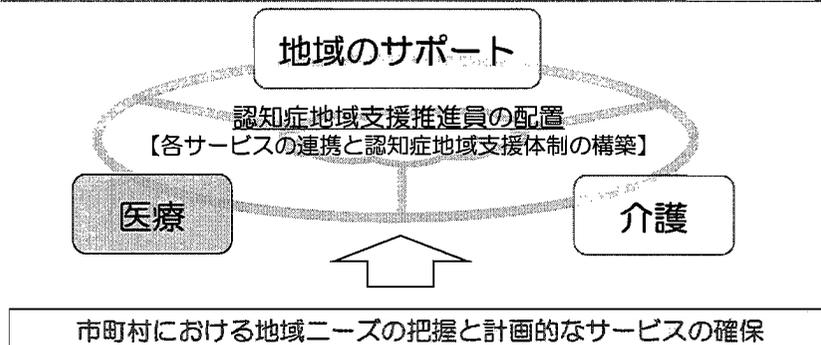
3

## 平成23年度予算における認知症対策等総合支援事業の再編・拡充について



## 認知症の方への支援体制の在り方 ～市町村認知症施策総合推進事業～

- 認知症の方ができる限り住み慣れた地域で暮らすためには、必要な医療や介護、さらには日常生活における支援が有機的に結びついた体制を整えることが重要である。
- このため、市町村において、医療機関・介護サービス事業所や地域の支援機関をつなぐコーディネーターとしての役割を担う認知症地域支援推進員を配置し、認知症地域支援推進員を中心に下記の取組を行う。
  - ① 認知症の人にその状態に応じた適切なサービスが提供されるよう、介護・医療・地域サポートなどの各サービスの連携支援
  - ② 地域の認知症支援体制を構築し、地域の実情に応じて認知症の人やその家族を支援する事業の実施



5

## 認知症地域支援推進員が行う業務の例

### (1) 各サービスの連携支援

認知症の人に対し、状態に応じた適切なサービスが提供されるよう、地域包括支援センター、認知症疾患医療センター等の認知症専門医療機関、介護サービス従業者や認知症サポーターなど、地域において認知症の人を支援する関係者の連携を図る。

(取組例)

- ・ 認知症の人やその家族が、状況に応じて必要な医療や介護等のサービスが受けられるよう関係機関へのつなぎや連絡調整の支援
- ・ 地域において認知症の人への支援を行う関係者が、情報交換や支援事例の検討などを行う連絡会議の設置
- ・ 地元医師会や認知症サポート医等とのネットワークの形成 等

### (2) 地域の認知症地域支援体制の構築

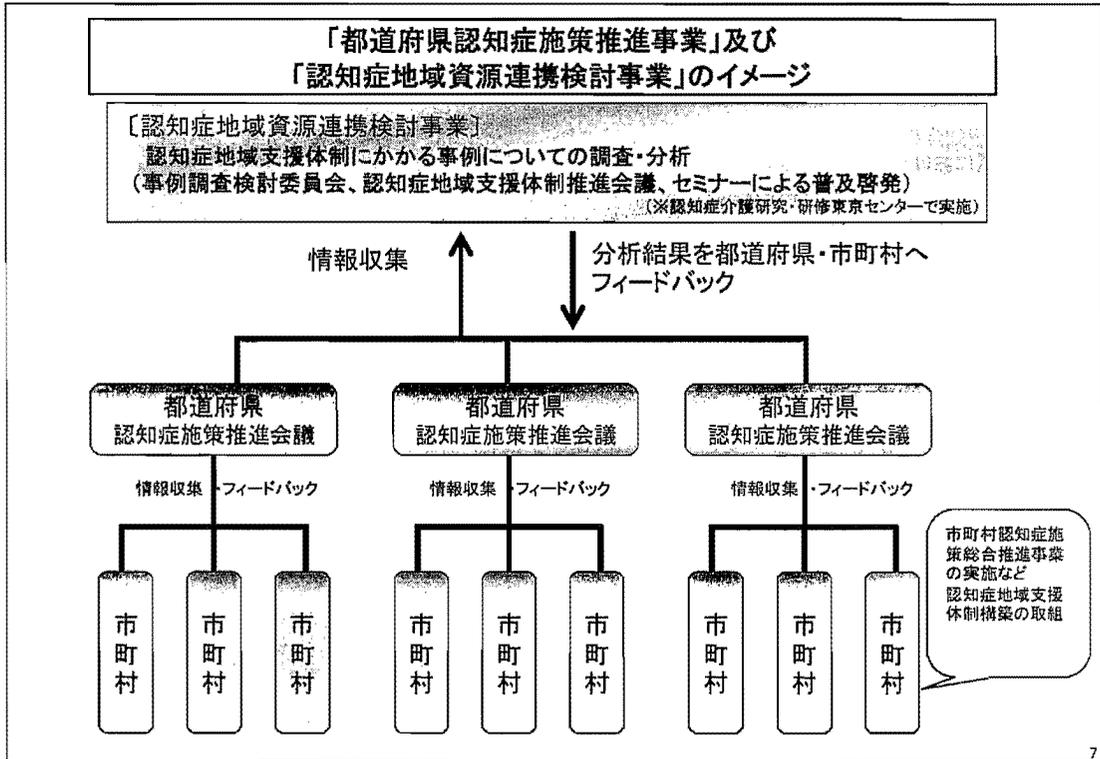
認知症地域支援推進員を中心に地域の実情に応じて認知症の人やその家族を支援する事業を実施する。

(取組例)

- ・ 認知症の人と家族を支える地域の人材やサービス拠点についての情報収集  
(地域資源マップの作成・普及・更新)
- ・ 若年性認知症の人本人の状況に応じた適切な支援の検討及び実施
- ・ 在宅介護サービス従業者に対する認知症研修の実施
- ・ 認知症の人を介護する家族等のネットワーク構築を目的とした交流会の実施
- ・ 多職種が参加する認知症の人の支援のための研修会・事例検討会の開催 等

◎市町村は実情に応じ、医療と介護の連携を図るため、地域支援推進員へ医療的見地からの助言や認知症の人を専門医療機関へつなぐための関係機関の調整等を行う認知症サポート医等の医師を配置している。

6



介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部を改正する法律の概要
<p>高齢者が地域で自立した生活を営めるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく提供される「地域包括ケアシステム」の実現に向けた取組を進める。</p>
<p><b>1 医療と介護の連携の強化等</b></p> <p>① 医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが連携した要介護者等への包括的な支援(地域包括ケア)を推進。            ② 日常生活圏域ごとに地域ニーズや課題の把握を踏まえた介護保険事業計画を策定。            ③ 単身・重度の要介護者等に対応できるよう、24時間対応の定期巡回・随時対応サービスや複合型サービスを創設。            ④ 保険者の判断による予防給付と生活支援サービスの総合的な実施を可能とする。            ⑤ 介護療養病床の廃止期限(平成24年3月末)を猶予。(新たな指定は行わない。)</p>
<p><b>2 介護人材の確保とサービスの質の向上</b></p> <p>① 介護福祉士や一定の教育を受けた介護職員等によるたんの吸引等の実施を可能とする。            ② 介護福祉士の資格取得方法の見直し(平成24年4月実施予定)を延期。            ③ 介護事業所における労働法規の遵守を徹底、事業所指定の欠格要件及び取消要件に労働基準法等違反者を追加。            ④ 公表前の調査実施の義務付け廃止など介護サービス情報公表制度の見直しを実施。</p>
<p><b>3 高齢者の住まいの整備等</b></p> <p>○ 有料老人ホーム等における前払金の返還に関する利用者保護規定を追加。            ※厚生労働省と国土交通省の連携によるサービス付き高齢者向け住宅の供給を促進(高齢者住まい法の改正)</p>
<p><b>4 認知症対策の推進</b></p> <p>① 市民後見人の育成及び活用など、市町村における高齢者の権利擁護を推進。            ② 市町村の介護保険事業計画において地域の実情に応じた認知症支援策を盛り込む。</p>
<p><b>5 保険者による主体的な取組の推進</b></p> <p>① 介護保険事業計画と医療サービス、住まいに関する計画との調和を確保。            ② 地域密着型サービスについて、公募・選考による指定を可能とする。</p>
<p><b>6 保険料の上昇の緩和</b></p> <p>○ 各都道府県の財政安定化基金を取り崩し、介護保険料の軽減等に活用。</p>
<p>【施行日】            1⑤、2②については公布日施行。その他は平成24年4月1日施行。</p>

## 医療や住まいとの連携も視野に入れた 介護保険事業(支援)計画の策定

- 地域包括ケアの実現を目指すため、第5期計画(平成24~26年度)では次の取組を推進。
  - ・ 日常生活圏域ニーズ調査を実施し、地域の課題・ニーズを的確に把握
  - ・ 計画の内容として、認知症支援策、在宅医療、住まいの整備、生活支援を位置付け

### 日常生活圏域ニーズ調査

(郵送+未回収者への訪問による調査)

- ・ どの圏域に
- ・ どのようなニーズをもった高齢者が
- ・ どの程度生活しているのか

地域の課題や  
必要となるサービス  
を把握・分析

調査項目(例)

- 身体機能・日常生活機能 (ADL・IADL)
- 住まいの状況
- 認知症状
- 疾病状況

### 介護保険事業(支援)計画

これまでの主な記載事項

- 日常生活圏域の設定
- 介護サービスの種類ごとの見込み
- 施設の必要利用定員
- 地域支援事業(市町村)
- 介護人材の確保策(都道府県)など

地域の実情を踏まえて記載する新たな内容

- 認知症支援策の充実
- 在宅医療の推進
- 高齢者に相応しい住まいの計画的な整備
- 見守りや配食などの多様な生活支援サービス

## 認知症対策の推進について

○ 今般の介護保険法等の改正により、下記の①から③について、努力義務を明記。

### ① 市民後見人の活用

今後、親族等による成年後見の困難な者が増加するものと見込まれ、介護サービス利用契約の支援などを中心に、成年後見の担い手として市民の役割が強まると考えられることから、市町村は、市民後見人を育成及びその活用を図るため必要な措置を講ずるよう努めることとする。(老人福祉法第三十二の二)

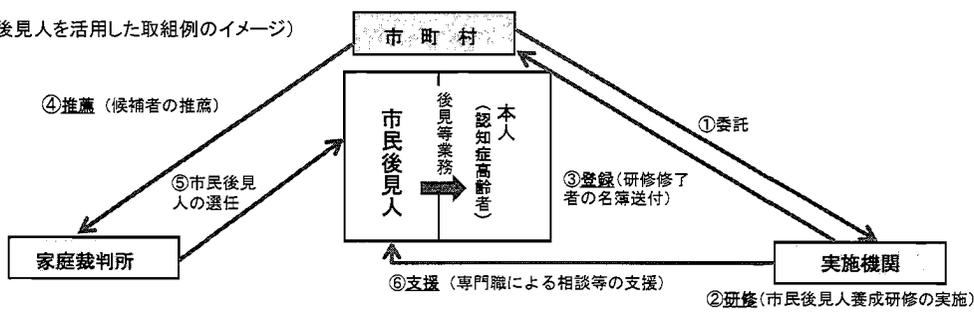
### ② 認知症に関する調査研究の推進

国、地方公共団体は、認知症の予防、診断及び治療並びに認知症である者の心身の特性に応じた介護方法に関する調査研究の推進等に努めることとする。(介護保険法第五条の二)

### ③ 市町村介護保険事業計画の見直し

市町村介護保険事業計画において、認知症である被保険者の地域における自立した日常生活の支援に関する事項について定めるよう努めることとする。(介護保険法第一百七条第三項第五号)

(市民後見人を活用した取組例のイメージ)

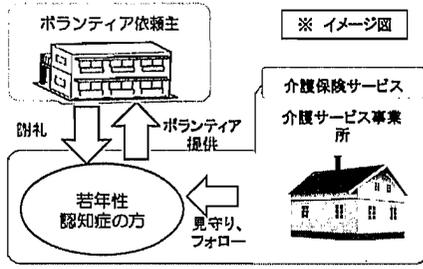


「若年性認知症施策の推進について」(平成23年4月15日付け事務連絡)の概要

ボランティア活動の謝礼を受け取れる例

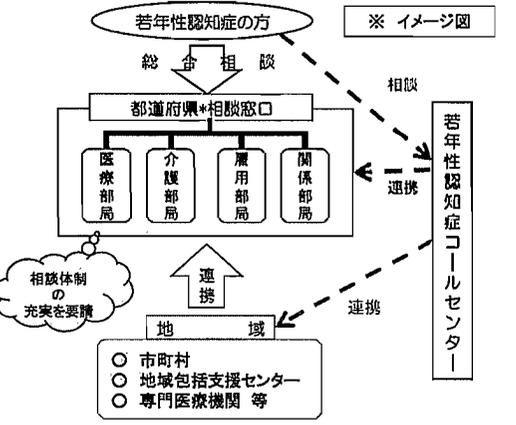
※ 以下の要件を満たす場合ボランティア活動の謝礼を受領しても差し支えないと判断される

- ボランティアの謝礼が労働基準法に規定する賞金に該当しない
- 介護サービス事業所は、若年性認知症の方がボランティア活動を送行するための見守りやフォローなどを行う  
(注) ボランティア活動の謝礼を、介護サービス事業所が受領することは介護報酬との関係において適切でない



若年性認知症の方に対応する都道府県相談体制の充実について

若年性認知症の方への支援は、医療、介護、福祉のみならず就労支援など多岐にわたることから、行政組織の相談対応窓口が複数にまたがり、一貫とした対応が困難。→各都道府県における相談体制のワンストップ化を図る



地域における若年性認知症の方に対する支援体制の立ち上げについて

平成22年度補正予算「地域支え合い体制づくり事業」などの活用により、介護サービスとは別に若年性認知症の方向けのアクティビティを行うNPO法人や、若年性認知症の方やその家族の交流会など地域の実情に応じた支援体制の立ち上げを図っていただくよう周知

## 5. アンケート結果



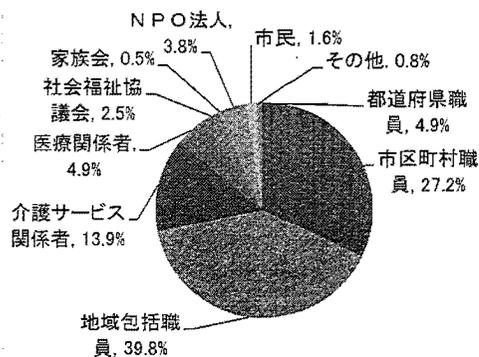
## 5-1) 全体集計結果(N=367)

### 認知症地域支援体制普及セミナーアンケート結果 アンケート回収状況

	参加者数	回収数	回収率
東京会場	155	114	73.5%
神戸会場	138	110	79.7%
仙台会場	200	143	71.5%
計	493	367	74.4%

### 認知症地域支援体制普及セミナーアンケート結果 回答者の立場

立場	人数	%
都道府県職員	18	4.9%
市区町村職員	100	27.2%
地域包括職員	146	39.8%
介護サービス関係者	51	13.9%
医療関係者	18	4.9%
社会福祉協議会	9	2.5%
家族会	2	0.5%
NPO法人	14	3.8%
市民	6	1.6%
その他	3	0.8%
計	367	100.0%



## 認知症地域支援体制普及セミナーアンケート結果

### Q1. 自地域の認知症地域支援体制づくりの取り組みへの自身の見方や考え方の変化 (N=367)

新たな見方や考え方を見つけた	162	44.1%
変わらないが、方向性の確認や方策の補強ができた	172	46.9%
特に変化はない	16	4.4%
その他	7	1.9%
未回答	10	2.7%
計	367	100.0%

#### 結果

91%が新たな見方や考え方を見つれたり、方向性の確認や方策の補強につながった。

### 主な記述

- 行政が与えるのではなく、地域が考えて行動できる「しかけ」が必要（都道府県）
- 「地域づくり＝まちづくり＝人づくり」だと思った（市区町村）
- 各地域の現状が違う中で、その地域にあった事業を展開していくために何が必要かを改めて感じた（市区町村）
- このような他市の状況報告の話を事業所、医師会、社協、市民の人も聞いて考える機会が必要（地域包括）
- 包括だけが行うのではなく、自治会や既存のグループと連携し、地域発の取り組みにしていかないと単年での活動で終わってしまう（地域包括）
- 自ら情報を集めたり、事業所だけの活動に終わらず、他方に協力してもらおうように「しかけ」を考えたい。（介護保険事業所）
- 地域に根差した施設を目指しているが、施設内の取り組みに留まっている。地域全体に目を向け取組むことが大切（介護保険事業所）
- これまでは「行政が動かない」という諦めが多かったが、行政任せではなく住民を交えて全体で考えていく必要がある（認知症疾患医療センター）

## 認知症地域支援体制普及セミナーアンケート結果

### Q2. 報告から自地域の今後の地域支体制づくりに活かせること (N=367)

区分	人数	%
具体的にあった	116	31.6%
参考になる点やアイデア、ヒントが見つかった	221	60.2%
特にはなかった	18	4.9%
未回答	12	3.3%
計	367	100.0%

#### 結果

他地域の報告から、91.8%に具体的に活かせることや、アイデア、ヒントが見つかった。

### 主な記述

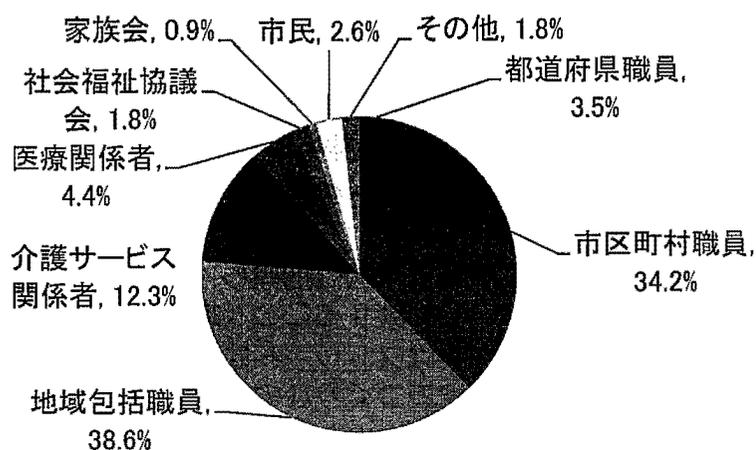
- 今ある組織（地域システム）を活用して、生きたシステムに変化させる必要がある（都道府県）
- 県としての役割、市町村の役割、それぞれの視点を整理できた。その中で、県として啓発していくことや、市町村、包括への支援のあり方についてヒントを得られた（都道府県）
- 住民との協働の仕掛けづくりのヒントが多々あった。「認知症」をキーに町づくりを今後も住民と共に進めたい（市区町村）
- 自分の地域ではなかなか支援体制の構築が出来ないので、他市の取り組み全てが参考になる（市区町村）
- 地域の困りごと、ケアマネジャーの困りごとなどしっかり聞くことが基本（地域包括）
- 今さらながら地域の実態を具体的に把握し、整理し、住民・関係者に示し、取り組みについて相談すること（地域包括）
- 個別支援と地域づくりが実はストレートに結びついている。何のために、誰の為、の支援や地域づくりなのかヒントをいただいた（介護保険事業者）

## 5-2) 東京会場アンケート結果 (N=114)

参加者	155 人
回収数	114 人
回収率	73.5%

### アンケート回答者の立場

区分	人数	%
都道府県	4	3.5%
市区町村	39	34.2%
地域包括	44	38.6%
介護サービス	14	12.3%
医療関係者	5	4.4%
社協	2	1.8%
家族会	1	0.9%
NPO法人	0	0.0%
市民(地域住民の立場)	3	2.6%
その他	2	1.8%
計	114	100.0%



## 1. セミナーに参加して最も印象に残ったこと

No	最も印象に残ったこと	立場
1	岸和田市の「まあい会」や鎌倉市の民生委員の自主的活動、具体的な活動や活動に至る経緯が分かった。	都道府県
2	永田先生の話の中で成果を急ぎ、残っていかない取り組みも散見されることが残念であったが、正にその通りで、息の長い取り組み、自動的に動いていく「しかけ」が必要だと感じた。宇都宮の聞き取りシート・暮らしの応援帳、まんぷくのハルエさんは素晴らしい。鎌倉すごい。何かをしたい人はたくさんいる。	都道府県
3	まずは行動に移すこと、それを長く続けることが大事だと思った。	都道府県
4	皆自分の住んでいる街を愛しているのだと思った。動くと見えてくることをつなげる、形にしていくのだな。	都道府県
5	「認知症」とか「高齢者」とかそのような枠組みにとらわれることなく、「地域の住民」が生活しやすい街づくりをどのようにすすめていくのが大切だと思った。	市区町村
6	・従来から行っている事業を少しリニューアルし、新たな視点として組み立てを行っている点などは、予算化も必要なく、とても良い方法だと思った。 ・地域の人達のつながりと行政の後方支援がうまくかみあっているイメージがつけられて良かった。	市区町村
7	・認知症サポートリーダーのこと ・宇都宮の人の発表全て	市区町村
8	・民生委員がはじめた自主活動 ・行動してから予算化	市区町村
9	各自自治体での取り組みはそれぞれ興味深いものだったが、鎌倉市の青空サロンの「まずやってみる」という姿勢や自宅を開放されたやよいの会の活動には感心させられた。	市区町村
10	各地域の特色・特徴にあった支援のあり方がある事	市区町村
11	各地で様々な取り組みがされていて、今の自分の区の動きの改善点・取り組むべき方向性を考えていきたい。	市区町村
12	各地の取り組みの1つ1つに啓発された。	市区町村
13	鎌倉市の発表に地域の人がいたこと。	市区町村
14	鎌倉市の民生委員の活動	市区町村
15	鎌倉市のように実際にやっている人達の声というのは響く。	市区町村
16	岸和田市の活動…当事者と一緒の活動が出来ている、活動のプロセスが良いと思う。	市区町村
17	既存の事業を活かすなど、出来ることからやるのが大事なのだなと思った。	市区町村
18	・具体的な事例で認知症の人に限定せず、地域に必要とされることをキャッチして、“つなげる” “つながる”ことが上手いくコツなのかなと印象に残った。 ・青空サロン、宇都宮のシートはいいなと思った。	市区町村
19	国の施策は事業ばかりたくさんあって、どこから取り組めばよいのか分からず、結局今年一年手つかずだった。しかし、ケースの中から必要なことが見えてくる、本人を中心に必要なものをつなげていくという話を聞いて、ケースの積み重ねから必要な支援を施策に反映していけばいいと感じた。	市区町村
20	継続したぶれない取り組みを実践している姿勢が大変勉強になった。	市区町村
21	継続的な活動のためには基本方針をブレずに持ち続けること、仲間を増やしていくことが大切だということを、全体を通して感じた。	市区町村
22	好事例で良かった。時間が短い。3事例で良かったのではないかな?	市区町村
23	様々な活動がとても参考になった。	市区町村

No	最も印象に残ったこと	立場
24	困難ケースの対応にばかり追われているが、包括的ケアをきちんと考えていくことが困難ケースを少なくしていく道なのかなと感じた。	市区町村
25	それぞれの地域で、様々な取り組みが進められていること。それらに関わっている人々が、それぞれ認知症の人や家族、地域で暮らす高齢者を、どうすれば支えられるかという素直な気持ちをもって臨んでいること。	市区町村
26	それぞれの地域の人のつながりがとてもスムーズだと思った。	市区町村
27	・地域会議の活用や認知症サポーターを、いかに地域の力として活用していくかなど、具体的な事例から学んだ。 ・委託包括の事例が多く、自分の自治体に重ね合わせることが出来た。	市区町村
28	地域ケアの重要性	市区町村
29	地域住民の意識の高さ、包括職員の熱心さ、それを作る行政の環境づくりの重要性。	市区町村
30	地域の自主活動について(鎌倉市)。我が市でもこのようなムーブメントが起こるしかけて考えていきたい。 まずはやってみる！いい。	市区町村
31	地域の事情に合わせた地道な取り組みをしっかりと継続的に行っていることに感激した。	市区町村
32	地域の取り組みを市町村職員が把握して理解している所。	市区町村
33	地域への課題の投げかけから始まり、目指すビジョンに向けて様々なイベントやネットワークを構築していくプロセスがどの市においてもしっかりと、それもじっくりと時間をかけて練られていた。その実動部隊はいずれも地域の多様な人達、地域に眠っている力の存在をまざまざと見せつけられた。	市区町村
34	とにかくやってみる、が結果的に成果につながっている報告が多く見られた。	市区町村
35	どの発表も良かったのだが、今の私共の状況と鑑み、これなら取り入れることが出来そうだったと思ったのは鎌倉市のケースだった。	市区町村
36	どの自治体も印象に残った。	市区町村
37	認知症という点、どうしても認知症の視点からしかとらえられないが、今日の発表では様々な視点から取り組みをしていることが印象的であった。	市区町村
38	目標・視点がぶれないこと。	市区町村
39	・サービス事業者をメンバーとして活動していること ・自主サークルの支援として市民の力を活かすこと ・フォーマルな機関(HC・市・社協・医師会など)の連携が何より必要	地域包括
40	宇都宮市・山鹿市の活動は、これから取り組もうとしている地域にとって“やれそう”なヒントをたくさんもらった発表だった。	地域包括
41	宇都宮市の「私の気持ちシート」、鎌倉市の「かかりつけ医マップ」。	地域包括
42	宇都宮市の取り組みを聞いて、とても勉強になった。同じ包括の立場からみてプレッシャーを感じる。	地域包括
43	顔の見える関係から「協働出来る関係」。	地域包括
44	活動場所にとらわれない。鎌倉市の市民主体の自主グループが印象に残った。	地域包括
45	鎌倉市「青空サロン」	地域包括
46	鎌倉市の地域包括支援センターと民生委員等との活動。	地域包括
47	鎌倉では住民自身が元気にしようと取り組んでいて素晴らしいと思った。	地域包括
48	岸和田市の発表を聞き、きっかけを見過ごさないことの大切さを改めて感じた。	地域包括
49	行政力の格差を感じた。	地域包括
50	熊本県の将来的には施設のいらぬ町づくりの発想に驚いた。	地域包括

No	最も印象に残ったこと	立場
51	・鎌倉市の発表、住民の人が発表に出てきたのが印象的だった。住民と行政、包括の一体感が感じられた。住民の人の安心感は大いと思う。他も大変良かったと思う。 ・宇都宮市の先進的取り組み、山鹿市の誠実で堅実な取り組み、“理念”“目指す目的”の明確化が良い。	地域包括
52	・行政職員が協力的であること。 (永田さんが資料 p.7 で「脱領域」について語っていた。当地域では施策を検討する会議で行政担当者の一部に「これはウチの仕事ではない」と発言する人がいて、当事者意識が低く、もどかしさを感じている。)	地域包括
53	様々な地域で色々な取り組みが色々な工夫でされているところが印象的だった。	地域包括
54	様々な報告事例を聞き、まず出来る事から始めてみる事が重要と感じた。 同時に私達にとっても大きな課題である医療連携の取り組みが参考になった。	地域包括
55	自主活動しているサロン。自宅開放などの発想があまりなかったから新鮮だった。 認知症サポーター、ステップアップ研修	地域包括
56	自主グループなど、地域の人の活動が一番重要だということが分かったと同時に、行政のバックアップも大切というの分かった。	地域包括
57	実践的な話でどの報告もとても印象的だった。日々の業務に追われ、仕組み作りがおろそかになっていると思っていたが、それは私の言い訳であって、「出来ることからはじめてみて下さい」という言葉が印象に残った。	地域包括
58	自分が担当している地域をまず知る必要があり、その知る方法を検討していくことから始めることが第一歩ではないかと感じた。又、サポーター養成講座をどの地域でも積極的に実施していて、その後のフォローアップ・活用を上手にしていることが地域支援の一つになると感じた。	地域包括
59	全て良かった。	地域包括
60	それぞれ特色がありすごいと思ったが、鎌倉は行政主導でない所がすごいと思った。	地域包括
61	体制づくりに協力的な行政や地域住民がたくさんいて羨ましいと思った。	地域包括
62	地域づくりはプロセスが大事とのこと。深く実感した。	地域包括
63	地域とのつながりを断たない支援が必要。	地域包括
64	地域の取り組みが同じではなく、色々な地域性を活かしている事。	地域包括
65	地方の人達の協力体制が存在しやすい事。ボランティア、地域の活動、SOS のネットワーク等のつくりは、個人情報の規制や権利意識の問題としてまとめにくい現状がある。	地域包括
66	出来ることから始める。	地域包括
67	出来ることからやっていく。岸和田市・鎌倉市の報告で、大きな市の活動もそういったところから始まっているんだ、と思った。	地域包括
68	独特な活動、皆すばらしい。まんぶく会はとても楽しそうだった。	地域包括
69	都道府県職員が主催でも認知症地域支援体制は中々進まないことが分かった。それを民間業者、地域包括支援センターが主で行う事は難しいと思う。でも、必要な事なんだな。	地域包括
70	二次予防教室修了者の通える場があればと再認識した。“個別支援と地域支援は同じライン上にいる”ということ。	地域包括
71	認知症になった人が住民として普通に過ごせる場所づくり	地域包括
72	まず動いてみる	地域包括
73	皆のプレゼンの分かりやすさと信念を感じた。この自治体の住民の皆は幸福だと思った。	地域包括

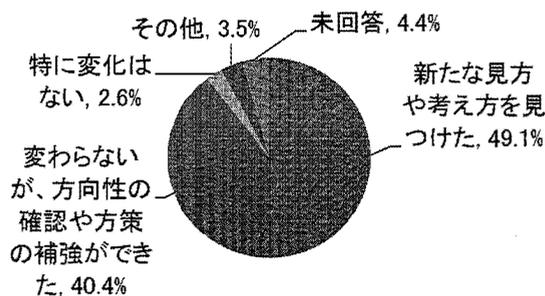
No	最も印象に残ったこと	立場
74	・認知症の人を全て同じように支援するのではなく、個人・地域に特化して集中して行う。 ・行政発信ではなく、包括からの自然発生である活動の宇都宮の話が印象に残り、参考にしたいと思った。	地域包括
75	目標・理念をしつこく探究し続けること。自分の街に必要なことを追求していくこと、という山鹿市の姿勢に気づかされることが多かった。	地域包括
76	予算や参加者がいるか…などなど、心配ばかりして踏み出せない事が多かったのだが、今回参加して「ダメモトでやってみる事の大切さ」を学び、勇気もらった。	地域包括
77	連携は大きな事をしなければと考えず、できる所から連携をはじめていくことが大切という事が分かってよかった。	地域包括
78	“地域”を自分の足と目で感じる事。	介護サービス
79	・日々の暮らしの様々な場面で「支え」になってくれる「人」がいること。 ・若年～少数だからこそ個別で出来ることがある。 ・広報で募集した一般市民を巻き込む→サポートリーダー	介護サービス
80	背空サロンの報告。アウトドアというところ(寒い中でも集まった)が新しいシニアらしくていいなと思った。個性的でローカルでアバウト、無理がなくていい。	介護サービス
81	インフォーマルサービスの展開	介護サービス
82	宇都宮での取り組みの認知症高齢者「等」の心意気だろうか。	介護サービス
83	鎌倉のやよいの会の活動。個人でもここまで出来るんだな、と本当に感動した。一人でスタートして発展している。本当に地域に根ざした活動でとてもステキだった。	介護サービス
84	自主活動を行政が支えてくれたこと。やったことを計画として上げて、続けていくこと。	介護サービス
85	自分の地域で認知症に対する取り組み等がほとんど聞こえてこないから、他地域がここまで取り組んでいる事に驚いた。	介護サービス
86	生活してきた地域で最期まで生きていく為に、一番その人を知りうる地域がその人を助けていこうという活動と、実際に動いている地域がこんなにあることが印象的だった。	介護サービス
87	専門医になかなかかかってももらえない、このままでは病状が進んでしまうのではないのか…、と地方ではまだまだ認知症に対する医師の認識が薄いから行政の働きを期待したい。	介護サービス
88	地域活動の大切さを感じた。	介護サービス
89	まだまだ関係者に限られた活動かなと感じた。認知症対策はもっともっと多くの人達の関与が必要。	介護サービス
90	山鹿市の佐藤氏の言葉、「地域の中で認知症の人が地域住民として普通に過ごせる場所、将来的にはまち全体が生活の場、施設のない町づくりを目指している」力強い言葉。	介護サービス
91	鎌倉の発表がとても素敵だった。	医療関係者
92	地域作り展開の3つの要点	医療関係者
93	認知症の患者を支えるために様々な活動が行われていることを知り、とても勉強になった。	医療関係者
94	まだまだ自地域の資源に目が届いていないと実感した。もう少し広い視野と考え方で物事を考えていきたい。	医療関係者
95	山鹿市の取り組み「施設がいない町へ」「地域で支える」。私は認知症疾患医療センターのある病院にて勤務している。日々、重度の認知症の人達のケアを行っているが、「施設のいない町にしていきたい」という取り組みにとっても感銘を受けた。高齢者にとって住み慣れた場所と、人の中で出来るだけ長く生活していけることはとても素晴らしいと思う。	医療関係者

No	最も印象に残ったこと	立場
96	青空サロンの取り組みのきっかけ	社協
97	自分の目と足を使って地域を知ることの大切さ	社協
98	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異種他業種のグループが迷走しないための基本方針</li> <li>・取り組みのプロセスが大事→考える</li> <li>・宇都宮市の、地区ごとに独自の取り組みが実施されていること。</li> <li>・相談窓口の徹底広報→相談件数が増加した。</li> </ul>	家族会
99	各地の行政が認知症支援のために積極的に動いていることがよく分かった。	市民
100	それぞれの地域の活動がすごいと思ったが、やはり行政が力を入れないといけないと思った。	市民
101	山鹿市の事例。地域で本人と家族、地域住民が共に住める町づくりの目標がぶれずに進めている事。	市民
102	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボトムアップしていく、あるいはネットワークを強くしていく。様々な取り組みがパースペクティブにみられたのは良かった。一方、踏み込んで考えてみると、まだまだ育てていく必要も強く感じた。</li> <li>・行政の姿勢が重要なことがよく分かった。</li> </ul>	その他
103	包括の役割	その他

## 2. セミナーに参加して、自地域の認知症地域支援体制づくりの取り組みについて、自身の見方や考え方に変化があったか？

N=114

区分	人数	%
新たな見方や考え方を見つけた	56	49.1%
変わらないが、方向性の確認や方策の補強ができた	46	40.4%
特に変化はない	3	2.6%
その他	4	3.5%
未回答	5	4.4%
計	114	100.0%



### 見方や考え方が変化した内容

No	見方や考え方が変化した内容	立場
1	鎌倉の取り組み。国のモデルではなく自らが考え動く、自分達の活動の素晴らしさを認識する、大変参考になった。	都道府県
2	対策について、医療機関の受診や介護サービスの利用という部分を重要視していたが、予防活動の重要性についても感じる事が出来た。	都道府県
3	新たに何かを立ち上げるのではなく、今ある事業などを活かすこと。講座や研修などをきっかけにする。	市区町村

No	見方や考え方が変化した内容	立場
4	・地域はそれぞれの現状が違う中で、その地域にあった事業を展開していくためには、何が必要かを改めて感じた。 ・地域での支え合い、医療機関の協力をどのようにしたら得られるか等、自分の町と照らし合わせて聞いていた。	市区町村
5	関係機関との連携を構築していくこと。まずは実態把握から。	市区町村
6	岸和田市の発表であった“まずやってみて”計画にのせる、という発想が自分に足りなかったなと気づいた。	市区町村
7	行政として、後方支援の立ち位置でいる事。	市区町村
8	行政として地域が活動しやすい環境をつくるのが大切。	市区町村
9	行政としての目標と具体策の明確化(拠点(推進の)をしっかりと置く(事務職の関わり)。	市区町村
10	行政はイベントを一つ開いて安心する。受けた市民はそれを見ても正直意味が分からないと感じているはず。全ては地域への問題提起から始まる。そのプロセスが大事なのであって、課題を市民が、地域が理解していないまま、独りよがりにも動いても響かないし、続かない。まずは課題・問題を地域に投げかけてみる。現状を伝えた後、協力者を見つけ、輪を広げる。	市区町村
11	山鹿市のお話を聞き、やはり何を指していききたいか?というビジョンを持つ・明確にしていく必要があると思った。	市区町村
12	グループホームや小規模多機能などの拠点を認知症対策の拠点にする、など様々な工夫があった。	市区町村
13	現行の事業を結びつけていく展開方法についての考えが生まれた。	市区町村
14	所属の今現在やっている事業を点ではなく、上手く結びつけていくと、点が線に、線が面にと広がり、つながっていく様な気がして、バラバラなのももったいなく感じた。縦割りの弊害だろうか。	市区町村
15	積極的に地域のことを考えたいと思った。	市区町村
16	・地域支援推進員の役割を明確にしたい。 ・包括と地域関係者とのつながり強化	市区町村
17	地域独自の創意工夫	市区町村
18	地域の資源を知ること、そしてまずはやってみること、気持ちを新たにした。	市区町村
19	地域包括支援センターが中心となって地域との関係づくりをしている地域がほとんどだったから、行政主導ではなく、地域包括支援センターを中心に行政がバックアップして体制づくりをすすめていくのが良いのではないかという見方が出来た。	市区町村
20	出来ることから1つ1つ積み上げながら、それらを体系的に進める。地域の中には支える力がある。どうコーディネートするかが大切。	市区町村
21	出来ることからすすめていく。行政～横のつながり。	市区町村
22	認知症サポーターをより「サポーター」としていく取り組み。	市区町村
23	認知症地域支援体制づくりについて、まだ模索している状況。現在活動している内容は充分ではないにしても、それなりにやっているのだが、まとまっていないことの認識が出来た。	市区町村
24	認知症の人や地域のために何かしたいと思っている人はたくさんいる。市が見えてない活動や、人の思いを現場に行き行って拾いたいと思った。	市区町村
25	本市の取り組みはまだまだ課題だらけだ。整理して今後につなげたいと考えている。	市区町村
26	自らの市町村の資源探し	市区町村
27	目標・理念をしっかりと持つこと。忙しいが職場内で話し合いの機会がほしいと思う。	市区町村

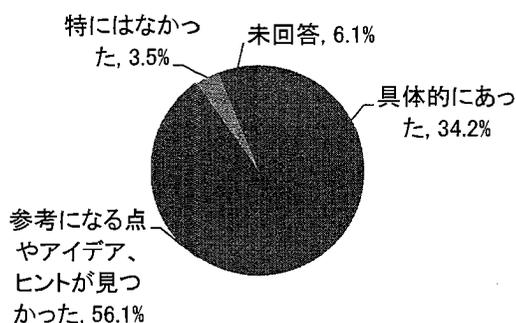
No	見方や考え方が変化した内容	立場
28	やはり、個別事例を大切にしていけることが全体のネットワーク構築につながっていくのだという事が実感出来た。地域の人達とのコミュニケーションの機会をもっと増やす必要があると感じた。	市区町村
29	平成 23 年度介護予防事業に参加していた人を、平成 24 年度はサポートする側の立場にし、住民の中のつながりサポート体制をつくらうか…と考えた。	地域包括
30	新しいこと・会を設けることなく、既存の会議体を活用することで認知症に特化しない地域支援づくりが行える。	地域包括
31	委託をされている包括としては、行政からの発信で全市で同じように取り組みをしなければならぬと思っていた。そうでないと市民の方から不満があるのではと恐れていた。	地域包括
32	居場所づくりや地域ケア会議の運営、参考になった。	地域包括
33	今現在、二次予防事業の人達からの要望に応じて、体操教室の開催を準備している。鎌倉の活動が参考になった。	地域包括
34	思いきってやってみれば道が見つかるという気持ちでやってみようと思った。	地域包括
35	介護予防・二次予防の卒業生の対応に困っていたが、やってみる！	地域包括
36	変えていきたいが、一包括職員としては何も出来ないと思った。	地域包括
37	顔の見える関係→協働の関係へ実践していきたい。	地域包括
38	岸和田市の具体的な方法が分かりやすく、これなら出来るかも！と思った。	地域包括
39	岸和田市の報告から、若年性認知症の人と家族を支える方法として、自由でゆるやかで暖かな支援の方法を知ることが出来た。型にはまらないように頭の切り替えが出来た。	地域包括
40	行政の役割を感じた。	地域包括
41	行政を巻き込まないと難しいことを再確認した。	地域包括
42	現場の声(鎌倉市)が聞いてとても良かった。	地域包括
43	講座(インプット)→活動(アウトプット) インプットした知識・情報をもとに活動につなげていく。	地域包括
44	地道に活動を続ける事が大切だと改めて認識した。	地域包括
45	若年性認知症の人の支援の難しさを感じていた。岸和田市の発表を聞いて、「とりあえずやってみよう」に心が揺れた。歩こう会が楽しそう。	地域包括
46	相談出来る人には積極的に話していこうと思う。	地域包括
47	体制を整える形にこだわらず、出来るところからやっていく。矢澤民生委員のやってみて問題があればその中で解決する、やってみれば協力者もいるという言葉が力強かった。	地域包括
48	地域住民との交流機会が少なすぎるから特に取り組みたい。2 次予防終了者を活かすというアイデアも素晴らしいから取り入れたい。	地域包括
49	地域の実態の把握方法。企画の段階から多くの関係者を巻き込んでいる。	地域包括
50	地域の取り組みについて再度考える。	地域包括
51	地域包括ケアシステムを、認知症を切り口に取り組みたいと考えていた。多くのヒントをもらい、早速活用させてもらう。	地域包括
52	どのようなことに関しても個別対応していき、その人が持っているネットワークを大事にしていくこと。	地域包括
53	認知症の人と家族との交流。家族だけ参加してもらうことが家族支援との考えがあった。1 人の認知症の人に数名のサポーター	地域包括

No	見方や考え方が変化した内容	立場
54	何を指して行うのかを明確にし、きちっとした理念を掲げれば既存のネットワーク・組織・住民活動で充分良い認知症地域支援が可能かと思う。鎌倉市のように行政と包括、医師会などのプロが住民の中へ飛び込み、一体感を持って本気で行わなければいけないと感じる。	地域包括
55	方針をしっかりとプロセスも大切に	地域包括
56	本人・家族を中心とした地域での支え合いを強化していく必要がある事を感じた。	地域包括
57	山鹿市の資料にもあったように、動ける認知症の人への対策が必要と思う。鎌倉市で緊急ショート事業 14 箇所受け入れ開始予定に驚いた。	地域包括
58	連携や継続していくための参考になった。	地域包括
59	地域の力、継続は力、最初の一步。	介護サービス
60	個人でも出来ること、法人として出来ること、今はまだ具体的には浮かばないが仲間を増やすことが本当に大切だと感じている。	介護サービス
61	自分の地域でも何かやっているのかもしれない、広報や案内が不十分で認知度が低いのかも。自ら情報を集めたり、自分の事業所だけの活動に終わらず、他方に協力してもらおう「しかけ」を考えたい。	介護サービス
62	自包括支援センターにもっと働きかけ、協力してやっていけたらいいのではないかと思う。	介護サービス
63	潜在的認知症及びその家族への支援の必要性が大	介護サービス
64	地域の人の関わりの中から信頼関係につなげ、助け合いの環境にしていきたい。	介護サービス
65	毎日毎日の生活に生じる“不自由”に、一緒にやってくれる人というレベルの支援はどうしたらよいか。特別のことではないのに一番難しいかもしれないが、これをなんとかしないと…と感じた。	介護サービス
66	町づくり、地域づくり、自主活動、出来るところから	介護サービス
67	問題意識を持っている者が、積極的に手を挙げて取り組むことが必要であること。また、地域に根ざしたスタイルを貫くということ。	介護サービス
68	来年度、高齢者住宅が近隣住民の中でサロンづくりを検討している。力の入った取り組みが参考になった。	介護サービス
69	地域における認知症の本人や家族が抱えている問題に耳を傾けて、地域支援を模索していくこと。	医療関係者
70	民生委員の人の活躍を知ることが出来た。認知症の患者を支えるため、協力していきたい。	医療関係者
71	個別支援の延長上に地域づくりがある。	社協
72	まず地域の実態に目を向ける。その中から必要なことを見つける。	社協
73	交流会を、町田市という地域全体に展開することも視野に入りたい。※「つながりの場」を今は意識的に作ること。「町田・つながりの開」の理念：認知症になっても安心して暮らせる町づくり	家族会
74	認知症予防について、市民の関心が強いということが確認出来、自分達の目指すことに自信がついた。	市民
75	初めてだから情報収集が主。	市民
76	・鎌倉での民生委員の自主的自発的活動には感銘を受けた。 ・山鹿市のサポートリーダー養成講座のような取り組みで全体の底上げが必要だと感じた。	その他

### 3. 報告を聴いて、自地域の今後の地域支援体制づくりに活かせることがあったか？

N=114

区分	人数	%
具体的にあった	39	34.2%
参考になる点やアイデア、ヒントが見つかった	64	56.1%
特にはなかった	4	3.5%
未回答	7	6.1%
計	114	100.0%



#### 自地域の今後の地域支援体制づくりに活かせること

No	今後の地域支援体制づくりに活かせること	立場
1	岸和田からの報告。まず動いて実績を作り、最後に計画に落とし込む。担当者が変わっても施策としての継続性を保つ、大事なことだと思った。	都道府県
2	まずは今我々の地域でしていることを、関係スタッフが共有することから力が産まれるのだと思う。	都道府県
3	・住民の人との協働について ・サポーターの人の今後の活躍について	市区町村
4	・民生委員とのつながりに会議を活用、今後活かしたい。 ・高齢者世帯、一人暮らし、障害家族世帯など、応援帳の活用	市区町村
5	SOS ネットワークのメール配信。本市においては既に行っていることだが、さらに一步踏み込んだ形で「希望者には顔写真付きで配信」というような取り組みをしたい。	市区町村
6	委員への資料の提示方法等	市区町村
7	医療分野との連携、今後の認知症施策の方向性、自分たちの取り組みが今どこにあるのか…の立ち位置が理解出来た。また、一步一步進めていく重要性を感じられた。	市区町村
8	介護予防教室、場所のヒント	市区町村
9	各区の認知症事業担当者を集めて、各区の取り組みを発表したり、工夫を見つけてもらう、刺激を受け合う…というような機会をつくること。	市区町村
10	既存の活動を見直してみようと思った。出来ることから始めると良いと思った。	市区町村
11	若年性認知症に対しての支援が出来ていない。何か少しでも、ひとつでも出来ればと思った。	市区町村
12	地域ごとの会議の重要性。地域住民の自主活動。	市区町村
13	地域の主体性を大切に、やらされ感の無い、地域がやれる範囲で無理のない範囲で体制づくりを進めていくことの大切さ。	市区町村
14	認知症サポーターの活用、ステップアップ	市区町村
15	認知症サポーターの次の研修を考えていたから良かった。	市区町村
16	勉強会というのではなく、地域の人達の参加型でざっくばらんにやっていくのも良いのではと思った。	市区町村
17	包括が日々感じていることを聞く場面が足りない。増やしたいと思った。	市区町村

No	今後の地域支援体制づくりに活かせること	立場
18	包括が連携している人達へのサポーター養成講座の開催。	市区町村
19	ボランティア、地域の活動	市区町村
20	本市は都市型であり、今回紹介してもらった事例をそのまま導入することは出来ないが、今後のヒントをもらったように思う。	市区町村
21	まずは地域ケア会議で提案をしていきたいと思う。	市区町村
22	まだまだやれてないことが沢山あると思った。今やれることを探すことから始めてみたいと思う。	市区町村
23	民生委員の人や地域の人力がなくては実現しないことがたくさんあると思う。地域をよく知り、よく会話していくことがまず大切だと思った。	市区町村
24	もうちょっと再考したいと思う。	市区町村
25	やはり、厚生労働省の枠だけでなく、ソーシャル・ネットワークなど他事業施策を活用した取り組みや高齢者の犯罪対策など総合支援の重要性を感じた。	市区町村
26	認知症「かかりつけマップ」の存在。また、公園で開催出来る事に驚いた。	地域包括
27	1人1人に向き合うことの大切さを再確認出来た。	地域包括
28	背空サロン。会場がなくても、どこでもOK。	地域包括
29	今更ながら地域の実態を具体的に把握し、整理し、住民・関係者に示し、取り組みについて相談すること。	地域包括
30	色々な人が、何ができるのか、という思いを持っていることが分かった。色々な人と会い話すことで、その人・地域で出来ることを形に出来る。	地域包括
31	岸和田市の発表がすすめ方という点で具体的だった。	地域包括
32	現在行っている地域でのサロン活動など、今やっている活動をつなげて、地域支援を強化していく事が必要だと感じた。	地域包括
33	交流の場に行くとも身体も活性化される！家にも話し相手は限られている。	地域包括
34	これまで以上の横のつながりを拡大するために、地域の関係者を集めた会議をしている事。	地域包括
35	困難ケースや予防給付に追われる日々だが、もっと地域に入って求められていることを形にして進めていきたい。	地域包括
36	サロン立ち上げについて	地域包括
37	市区町村職員がしっかりしていると、方向性が見えて相談しやすいと思った。	地域包括
38	自分に出来る事を地域の声を聞いてやってみる、という事を始めてみようと思った。	地域包括
39	たくさんあった。資料にマーカーをひいた部分が多々ある。	地域包括
40	担当地区の特性や住民意識を見直し、課題を明らかにしていなかったため、支援体制づくりが上手くいっていなかったことを反省した。	地域包括
41	地域ケア会議、サポーター養成講座、住民の活動との連動をうまくやっていくことが有効と感じた。	地域包括
42	地域住民のキーパーソンを見つけると、鎌倉市のような取り組みが叶うと思った。	地域包括
43	地域性があるから全て真似をして上手くいくとは思えないが、一番いいのは住民主導で住民の中から声があがるのが理想だと思った。	地域包括
44	地域や関係機関との連携のヒントが得られた。	地域包括
45	どこに1歩踏み出すか混乱の状態。大阪・鎌倉の取り組みは参考となった。	地域包括
46	とりあえずやってみようという気持ちによってはじまっていくこと。	地域包括
47	認知症サポーター養成、ステップアップ研修、サポートリーダーの育成	地域包括
48	認知症高齢者等対策会議の設置	地域包括

No	今後の地域支援体制づくりに活かせること	立場
49	認知症サポーターの活用など	地域包括
50	認知症の人をとりまく、つながっている、社会資源シート。地図におとす→地域包括ケア会議に活かす	地域包括
51	予算がない→モデル事業の活用。お金がなくても出来ることはある。しかけづくりの重要性和継続性。	地域包括
52	予防 ・現在活動のない地区でのサロンづくり(民生委員とともに) ・認知症の支援については地域を限らず、今あるもので出来るところから取り組みをやってみようと思う。	地域包括
53	青空サロン等、気軽に始められる事から活動していければと思う。	介護サービス
54	顔を見て伝える。	介護サービス
55	専門職、市民(主に民生委員)といった二層の研修ではなく、一緒に学ぶことで連携の基本も作る。	介護サービス
56	何かしなければと思うが、具体的には浮かんでこない。	介護サービス
57	認知症サポーター養成が「受け身」になってしまうと、地域の人達の意識の向上につながる事を感じた。地域アセスメントの重要性を感じた。サポーターへのフォロー研修もどんどん企画したい。	介護サービス
58	広く思うと大変だし無理と思うが、最初は個人的な、身近なところから始めればよいのかなと思った。	介護サービス
59	深く考えすぎず、簡単なことからまずは始めるということ。	介護サービス
60	行政・民生委員など、また、インフォーマルな関わりが必要だと思った。	医療関係者
61	まずは動いてみる事。それからでもいいのかもしれない。動く事で協力体制の系をつないでいければと思う。	医療関係者
62	これは必要ではないかと思ったことはやってみる。	社協
63	出来ることからやってみる。	社協
64	情報交換会、結論を出さない。悩みをはき出すだけ→解決のきっかけになる→取り組むプロセスが大事 サポーター養成研修→その後のフォローアップ研修、サポーターの受け皿など要検討	家族会
65	鎌倉市の「ふれあいサロン」立ち上げを含め、参考になった。	市民

#### 4. 参加しての感想、自地域での取り組み

##### 感想

No	感想	立場
1	市町村、地域包括支援センターにおいては総合相談+虐待対応等に注意が向いていて、認知症地域支援体制への取り組みにはインセンティブがないと(又は少ない)と考えているところが多く、県としても積極的に取り組みを増やしてもらわないといけないと強く感じている。県でも今後、行政・包括に様々な機会に訴えていきたい。本日は勉強になった。スタッフの皆、良いセミナーに感謝。	都道府県
2	4地区の取り組みを聞き、どの地域もそれぞれ特色があり参考になった。また、どの地域にも共通していたのは、地域を中心とした取り組みだったから、その点を今後の私の自治体の体制づくりに活かしていければ良いなと思った。また、地域包括との関係もきちんと作っていかないといけないと思った。	市区町村
3	研修に参加すると自分の中でも地域を「こうしたい！」というイメージや事業のアイデアが浮かぶのだが、職場に戻ると日々の業務に忙殺されてしまい、全く進まないのがとても残念。	市区町村
4	このような形で出来ていることを確認することは大切と感じた。	市区町村
5	今後とも継続して欲しい。特に医療との連携(医師・訪問看護)を重点課題として取り上げて欲しい。医師から見た「地域での取り組み」を知りたいし、同じテーブルにつく働きかけを後押し願う。	市区町村
6	指針を常に持ちながら、その理想を語り合う仲間を増やししながら現場に行き、1人の高齢者のその人の生活を考えることが地域の今を作ることになると感じた。大変勉強になった。	市区町村
7	自分にも何か出来そうだと思う研修だった。	市区町村
8	事例等を聞くことの大切さを痛感した。	市区町村
9	地域で活動している人から生の声を聞いたのがとても良かったと思う(鎌倉市)。	市区町村
10	時間配分が悪く、質疑応答の時間が少なくて残念。最後の10分は発表者の言葉を聞くのではなく、質疑に回した方が良かったのでは…。	市区町村
11	地域の中に色々な点はみえるが、行政がどのように関わって、面にしていけるか…いつも考えているが、地域性や包括のやる気や力などから、どうしていったらいいか悩んでいる。	市区町村
12	地域の人が顔を見せてくれ、このセミナー自体、みんなで考え作っていく…という姿がみえて良かった。	市区町村
13	どの地域も、包括支援センターがとても力を入れて活動しているから素晴らしいと思った。	市区町村
14	どのように具体的に展開していくべきかと悩んでいたが、現在の段階でも取り組むことが可能な方法を知ることができ、参加して良かった。地力・地域力を引き出すように頑張りたい。	市区町村
15	認知症地域支援体制の普及のヒントを得ただけでなく、今後、行政職として常に持っておくべき視点・ヒントを得ることが出来た。非常に有意義なセミナーだった。ここで得た様々なヒントを活かし、いずれは本市の取り組みがこのセミナーで発表出来るよう頑張っていきたいと思う。	市区町村
16	非常に有意義であった。	市区町村
17	毎回、研修やセミナーに参加するたびに心が熱くなる。何が不足していて、何が求められているのかアンテナを広くはり、感じ、実行していきたい。	市区町村
18	有意義な時間に感謝。職場内へ持ち帰り、話題提供させてもらおう。	市区町村
19	来年度、補助事業に取り組むにあたって良いヒントが得られた。	市区町村

No	感想	立場
20	・永田先生はじめスタッフの人、報告者の人、皆感謝。 ・今後ともお互いに頑張っていきたい。 ・人のつながりが大切と実感出来た。	地域包括
21	今行っている小さな取り組みの積み重ねで頑張っていきたいと思う。	地域包括
22	家族介護者や地域の人も含めたネットワークの難しさを痛感している。今回の貴重な話をもう一度思い返しなが、今後活かしていきたい。	地域包括
23	鎌倉市の報告はとても分かりやすかった。	地域包括
24	行政の人、地域の認知症ケアについて本気で考えてくれていることが分かって嬉しかった。	地域包括
25	具体的な活動、特に住民の人の活動はとても参考になった。市がどのくらい力を入れてるかで認知症の地域ケアは違ってくる。市へ働きかけをしていきたい。	地域包括
26	時間・場所・発表者、いずれの選定も大変良かった。	地域包括
27	事業立ち上げに向け、保健師私1人であり、不安だった。思い切ってやってみる！その言葉で勇気が出た。またこちらのセミナーに参加したい。	地域包括
28	自分の市でも頑張っていることが多くあると思った。	地域包括
29	全国的な規模である事に感心した。地域の人の力を開発・支援する事の意味や役割がある事を知った。	地域包括
30	全体的に聞いて良かった。	地域包括
31	とても参考になった。	地域包括
32	とても有効な研修だった。	地域包括
33	とても良い報告を聞くことができた。全国で活躍している人達からパワーをもらった。	地域包括
34	どの地域の取り組みも素晴らしく、本当に参考になった。	地域包括
35	どの人も素晴らしかった。特に岸和田市の職員の人、声のトーンが聞きやすく、分かりやすかった。	地域包括
36	なかなか話を聞く機会がないから、貴重な話を聞くことが出来てとても良かった。	地域包括
37	今取り組んでいるから、振り返りながら聞くことが出来た。実践報告を実際の活動に活かしたいと思う。警察との連携に悩んでいる(関係薄い)。少し住民活動とは離れるが、国の支援推進員研修で受けた「家族支援」の話は職員研修・住民の活動両方に活かされていて、反応も良い。ホッとメッセージプラス寸劇で「大笑い」な楽しい研修になっている。地域支援は大変だが楽しい。	地域包括
38	認知症ケアをチームで育てる研修プログラムを参照したい。	地域包括
39	認知症サポート支援はとても難しいこと。今の世の中では生きていくだけでも大変なのに、他人への気遣いは余裕がないと出来ない。今回、4つのケースは予算があって出来ていること。現実には難しい…。	地域包括
40	包括支援センター職員として、各地区の包括の現状が違う。私の地区の包括数は少ない為、予防給付におわれているのが現状。行政より3職種の役割を求められている。今日のセミナーを受け、本来の役割をしたいと思った。	地域包括
41	包括に戻ったら本日の内容を伝達研修したいと思った。そして明日からの仕事に活かす。	地域包括
42	報告件数が2ヶ所位で良かったと思う。1つ1つの取り組みを、もう少し深く聞けた方がよかった。若年性認知症の人達への取り組みをテーマにしてもらえると嬉しい。	地域包括
43	無料で受講出来、感謝(出張しやすかった。年度末で予算も残りわずかだったから)。この無料を活かして平成24年の取り組みを具体化していきたい。	地域包括
44	もっと警察にも協力してもらえると良いと思った。	地域包括

No	感想	立場
45	やりたいこと・企画・アイデアはあるが、他にやることがあり、出来ないのがはがゆい。本区も住民と一体となって認知症等、高齢者などの支援に取り組んでいきたい。	地域包括
46	「まず小さいネットワークから」「一人から」小さい結果の積み重ねが重要だと感じた。	介護サービス
47	介護サービスの利用では福祉は成り立たなくなってきたいて、地域で高齢者が支え合う、という気持ちと動きが必要。私の勤めるデイサービスでは、本当は法律ではアウトだが、これしなきゃこの人死んじゃうよね、というスタンスで寄り添って一緒に過ごすこと、個を大事にしている。地域に広がればと思いつつ…	介護サービス
48	介護保険以外のことに目を向けることが出来た。小さなことから始めることが出来ることが分かった。	介護サービス
49	行政・地域・住民と様々な立場で話してもらったが、やはり民の力を改めて心強く感じた。	介護サービス
50	若年性の認知症のセミナーがもっとあったらいいなと思う。	介護サービス
51	人ってステキだなと思った。介護と看護、医療と福祉、連携、連携っていつまでこれが続くのだろうか。でも、少しずつ変わっていつている気がする。本人をど真ん中においてしっかり考えていきたいと思う。	介護サービス
52	とても勉強になった。	医療関係者
53	他地域の活発な取り組みに頭が下がる。私は疾患センターだが、センターからも何か取り組みを発信出来るように頑張りたい。	医療関係者
54	参加して良かった。	市民
55	やよいの会の取り組みは、個人でしていることに感銘した。自由に1対1で話せるのはとても心が休まると思った。	市民
56	「介護予防」と「介護サービス(ケア)」、あるいはそれ以前の生活領域とか、どう連携していくのかももう少し実態が知りたいと思った。視覚情報としてDVDがもう少し有効に使われても良いと思う。	その他

### 自地域での取り組み

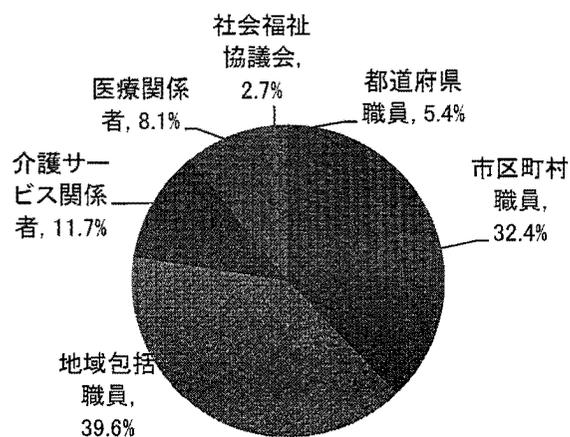
No	内容	立場
1	「町田市つながりの開」主催で“認知症本人と介護家族者の交流会”を昨年4月より隔月に実施。カラオケ、おしゃべり、流しそうめん、もちつき、散策…イベント企画しながら。この4月は本人13名、介護家族14名、サポーター18名の45名参加。“本人と家族が共に過ごせる時期に”を合言葉にしている。もっと広く伝え、参加者を増し、将来は地域包括支援センター単位でこの取り組みが出来ればと思う。	家族会

## 5-3) 神戸会場アンケート結果(N=110)

参加者	138人
回収数	110人
回収率	79.7%

### アンケート回答者の立場

区分	人数	%
都道府県	6	5.5%
市区町村	35	31.8%
地域包括	44	40.0%
介護サービス	13	11.8%
医療関係者	9	8.2%
社協	3	2.7%
家族会	0	0.0%
NPO法人	0	0.0%
市民(地域住民の立場)	0	0.0%
その他	0	0.0%
計	110	100.0%



## 1. セミナーに参加して最も印象に残ったこと

No	最も印象に残ったこと	立場
1	社協さんの熱心さ。講師としてお招きしたい。	都道府県
2	丹波市の取り組み事例について、短期間に着実に積み上げてこられたことが印象的だった。	都道府県
3	兵庫県の先進的な取り組み	都道府県
4	兵庫県の取り組み	都道府県
5	富士宮市の発表を聞き、いかに地域力を上げるかを地域に持ち帰って考えないといけないと思った。	都道府県
6	本人、家族の声、個から集団	都道府県
7	・丹波市の医療との連携について。当市では医療との連携はできていないと痛感。 ・富士宮市と人口規模は同じなので、徘徊ルールについて	市区町村
8	医療、介護、福祉、本人、家族、地域など、本人をとりまく全ての環境を見ることが、連携をとることに大きな意味があると思った。	市区町村
9	インフォーマルも含めたネットワーク構築の大切さ	市区町村
10	オレンジリング、認知症サポーターはあるものの、一般高齢者への理解のためのシルバーサポーター、ゴールドサポーターがあることを知った。	市区町村
11	各市からの報告	市区町村
12	各種ネットワークのできていることを知った。	市区町村
13	行政が引っ張っていく。行政の一方的な思いだけでなく、地域住民の方が望む地域になるため、主体的に考え、やれることをやることの大切さ、住民の力を感じた。	市区町村
14	個別支援と地域支援をどう線で結ぶか、そのために行政がすべきことは何か、ということ。	市区町村
15	市民活動の場を整備するのが行政の仕事である。	市区町村
16	シルバーサポーター、ゴールドサポーター	市区町村
17	専門職+住民	市区町村
18	体制づくり	市区町村
19	丹波市を目標としたい。	市区町村
20	地域で自分たちが主体的にやりたい事をやる環境づくりのスタンスでやれば、地域が核になる。	市区町村
21	地域と住民の力を引出し、活動することを改めて感じた。	市区町村
22	地域に住む認知症本人・家族の思いを、地域の人たちに伝えていく。地域の人たちがどういう町づくりをしたいのか、認知症の方を支えるのかを自らが考え、行動していく。市の職員がその行動等を支援していく。住民と一緒に考えていく。	市区町村
23	中長期的なビジョンを持っているため、単年度で終わりになっていない。	市区町村
24	どこの市町村も認知症の方の立場に立った支援を様々なアイデアで実施しており、今後、自地域で活用していきたい。綾部市サポーター3段方式。	市区町村
25	どの報告も住民主体と何度も言っておられたこと。	市区町村
26	永田先生の講演	市区町村
27	認知症地域支援推進員として、専門配置できることの意義がよくわかった。直営で設置ができるのが理想的。	市区町村
28	認知症の方を支援するにあたり、一番大切なことは、本人とその家族が何に困っていて、どう助けてほしいのかが一番肝心だということ。	市区町村
29	兵庫県の取り組み経緯について	市区町村
30	富士宮市、丹波市、綾部市社協のそれぞれの事例。	市区町村

No	最も印象に残ったこと	立場
31	富士宮市。サポーターの支援は市民活動の一つであり、活動しやすい環境づくりが行政の役割ということ。	市区町村
32	富士宮市さんが言っていたサポーターは活用するものではない。「市民活動の一環」。	市区町村
33	富士宮市の佐野さんのケース	市区町村
34	富士宮市の事例は具体的で印象に残った。	市区町村
35	報告者の皆さんが非常に明るく、楽しそうに取り組みの報告をいただいた。地域支援への取り組みが自身のライフワーク(楽しみ)に変わってきているのでは？と感じている。	市区町村
36	「基本方針」のポイント、「しかけ」のポイント、「取り組みプロセス」のポイント。	地域包括
37	「サポーターの活用」ではなく、サポーターが活動しやすい「しかけ・しみ」。環境整備が行政の役割。改めてその必要性を感じた。	地域包括
38	ネットワークのしかけづくり。・ルールについて	地域包括
39	・富士宮市の実践。サポーターを「活かす」ではなく、自分たちで活かしたくなる場を作る。 ・綾部市の実践。地域でやれることを教えてもらうという話。キャッチコピーの活用。	地域包括
40	3つの地域実践報告がよかった。分かりやすく、系統立てて展開され、きちんと振り返られていることがわかった。最後のQ&Aもよかった。	地域包括
41	いつもいろいろなアイデア、ヒントをもらうが実践しなくてはだめ。	地域包括
42	いろんな種をまく。一緒に取り組む仲間を増やす。	地域包括
43	各市町村が様々な認知症ネットワークに取り組んでいる所があることが分かった。	地域包括
44	各地域市民一人一人が「自分の地域をよくしていきたい」という目標を持って活動されていることがわかった。	地域包括
45	各発表者の地域実践の素晴らしさに比べて、自地域は遅れている。”仲間がほしい”と思った。	地域包括
46	各報告とても参考になった。	地域包括
47	行政からの指示待ち包括化していると思う。日本人で同じ制度を受けられるのに、地域、自治体での格差を感じた。公平・公正であることを自治体をもっと認識してほしい。	地域包括
48	現場に出て現状を市へ伝える。	地域包括
49	サポーター養成講座をしているが、そのあとのサポーターの認識がどこまであるのか、サポーターから問題提起がないのに考えている。	地域包括
50	支援体制構築にかかる参考例が理解できた。	地域包括
51	しみを作ったら終わりではないということ。	地域包括
52	実際の具体例をたくさん聞いたことが良かった。	地域包括
53	自分の立場で今何が出来るか、地域の一員として考えることの大切さ。会議ばかりでなく、やってみながら当事者につなげる事。	地域包括
54	住民、関係者等とのつながりを大切に取組まれていることを報告から感じる事が出来ました。(綾部市、富士宮市)	地域包括
55	住民が「こういうことをしたい、やりたい」と思っておられることをできるようにしていくこと。	地域包括
56	丹波市の発表の中で、「認知症は怖くないですよ」と地域に伝えていくところが印象に残った。当市でも認知症サポーター養成講座を地域に外向いて開催しているが、アンケートには「認知症は怖いとわかりました。それより予防の方法を教えてください」という回答があり、伝え方の難しさを痛感している。	地域包括
57	地域が主体となって、住みよい町になっていけるように関わることの大切さを考えた。	地域包括
58	地域住民が自ら気づき、行動できる支援を包括が担うこと	地域包括
59	チームで取り組むこと	地域包括

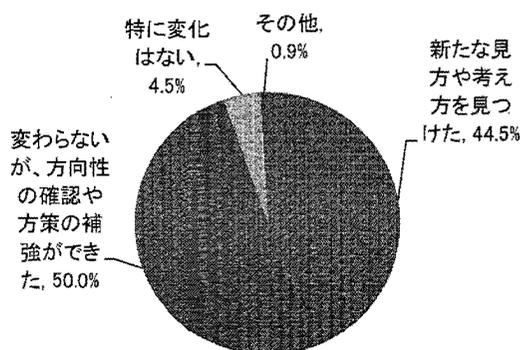
No	最も印象に残ったこと	立場
60	できないことばかり考えついて、途中しんどく感じたが、まずはできることから地区の力を信じて関わり続けようと思った。	地域包括
61	特別な事をしなくても認知症の方が教えてくれる。本人の参加。	地域包括
62	認知症地域支援体制づくりについての基本的な考え方を理解できた。	地域包括
63	ネットワークづくりに取り組む姿勢が地元を中心にされており、現場で活動する身としては参考にしたいと思った。	地域包括
64	年単位の継続が必要	地域包括
65	1人よりみんなでやれば気が楽。つながっていくのは本当に素敵なこと。	地域包括
66	兵庫県の取り組みを教えて頂き、流れや方法などよくわかる講演だった。	地域包括
67	兵庫県がビジョンを持って計画的に取り組みをされ、次に市町村を主体にと移行され、市町村と一緒に取り組まれる姿勢に、自分の働いている所も参考にして積極的に取り組んでほしいと思う。	地域包括
68	ファシリテーターの進行が非常にうまかった。	地域包括
69	富士宮市、光孝さんの情報。	地域包括
70	富士宮市の若年性認知症当事者の佐野さんの生き方、周囲の支援。たとえ認知症になっても佐野さんは佐野さんであって、何も変わらない。	地域包括
71	富士宮市の取り組み	地域包括
72	包括では、あれもこれも目の前の仕事をこなすことで悩んでいたが、目の前の一人の人を支援していくことでもネットワークを構築できると学べた。	地域包括
73	皆、手探りでも頑張っている。もっともっと地域の事を聞きたいと思った。	地域包括
74	みんなに居場所があるまち綾部、を地域福祉の目標としている綾部市の山下さんの報告。	地域包括
75	アクトープバランスという言葉を知った。もっと詳しく知りたい。相反する要素をどのように理解して実践に活かすかという視点が必要。	介護サービス
76	各市町村(行政)が本気でやっていると感じた。(今日の市町村は)各行政のスタッフの資質、意欲に行政格差があると感じた(自地域と比べて)。	介護サービス
77	個人の熱意と、その人を取り巻くチーム力を感じた。	介護サービス
78	様々な取り組みがあることを知り、感銘を受けた。	介護サービス
79	市町村と医療機関、介護施設が連携を強めるためには、各々が自分たちに何ができるのか、ちゃんと考えるべき。誰かがどこかがやるだろう、では進めることができない、と実感した。	介護サービス
80	市町村の取り組み。ネットを組むことの大切。現場の悩みを吸い上げる制度への取り組み。	介護サービス
81	市の職員が個別ケースに深く関わってくれることが印象的だった。	介護サービス
82	助け合う事、支えあうこと。住民自ら発信できるしくみが大切だと思った。	介護サービス
83	縦割り事業になってしまうことが多いが、地域で支えることの大切さと、見方、考え方を変えることで、地域に根差した支援づくりができるのだと感じた。	介護サービス
84	当事者に届いているか、という事を真ん中に据えて大事にしていくこと。	介護サービス
85	認知症センター方式を利用した実践の話を持期待しての参加だったが、各地域で認知症の方と関わる体制づくりの話は興味深かった。時間がなく足早になったのが残念だったが、少しずつ、連携の輪が広がっていると感じた。	介護サービス
86	富士宮市の認知症サポーターの活動の話は、地域に根付いた活動で、次につながっていくもので素晴らしいと思った。	介護サービス
87	稲垣先生の言葉で、サポーターとは、専門職が何かの支援を要求するのではなく、住民が何をしたいかを大切にすること。	医療関係者

No	最も印象に残ったこと	立場
88	各市町村の取り組み事例について具体的で、①地域の強みを生かす「資源は必ずある」、②地域でサポーター養成→活用の考え方、市民活動は各々やれる範囲で、やりたいことをするもの→そのしくみ作りが大切。	医療関係者
89	各地域、認知症の方に対しての支援体制が整備されていると感じた。	医療関係者
90	地域の人と一緒に地域を作っていく姿勢。	医療関係者
91	認知症があっても安心して暮らせる町づくりをしたい、という担当者の熱い気持ちが印象に残っている。	医療関係者
92	認知症サポーター養成に参加した人と、たまたま出合ってサークル活動に結びつく地域性。いかに普及啓発が浸透していないかがわかった。	医療関係者
93	徘徊していなくなったおばあさんの話。	医療関係者
94	兵庫県が県として様々な事業に熱心に取り組まれていることに驚いた。	医療関係者
95	養成したあと活用することを考えるのではなく、本人たちが活躍したくなる環境を作っていくことの大切さ。	医療関係者
96	・富士宮市の報告で、住民からのニーズで支援策という事を、今更ながら情報収集したい。 ・丹波市の報告で、一步前へ進めるよう考えて進めたい。	社協
97	富士宮市、綾部市の報告。個別ケースを丁寧に積み上げ、地域づくりにつないでいくという共通点。ビジョンを持って、という大切さを学んだ。	社協
98	富士宮市の報告	社協

## 2. セミナーに参加して、自地域の認知症地域支援体制づくりの取り組みについて、自身の見方や考え方に変化があったか？

N=110

区分	人数	%
新たな見方や考え方を見つけた	49	44.5%
変わらないが、方向性の確認や方策の補強ができた	55	50.0%
特に変化はない	5	4.5%
その他	1	0.9%
計	110	100.0%



### 見方や考え方が変化した内容

No	見方や考え方が変化した内容	立場
1	行政が与えるのではなく、地域が考えて行動できるしかけが必要と思った。	都道府県
2	住民や関係機関への啓発や資料の提示方法等。医師会への働きかけ方。	都道府県
3	ちゃんと「担当」という位置づけを明確にすること。	都道府県

No	見方や考え方が変化した内容	立場
4	・自分の地域の強みって何だろうと、考えさせられた。 ・これからどんどん高齢者が増えていくことが分かっている、今でさえ大変なのに、この先、どう支援していけばいいのか、そのうち身体が足りなくなるのでは、と不安でいっぱいだったが「それは自分の地域だけではない！」と気づかされた。他地域の方々とも交流していきたい。	市区町村
5	市、包括、社協の協働と地域住民の協力と自主性が不可欠。地域住民からのつきあいが欲しいというのが正直なところ。市主導ではしがらみが多い。	市区町村
6	市民の力を引き出す方法を具体的に考え、試していく。地道な活動が必要。市民と課題を共有すること。	市区町村
7	住民や本人・家族の声をうまく施策につなげる。	市区町村
8	大切なのは認知症の人の思いを知ることから始まることを改めて感じた。	市区町村
9	地域から出た声に丁寧に対応して、施策に活かしていく。	市区町村
10	地域住民への”しかけ”の方法	市区町村
11	地域づくり＝まちづくり＝人づくりだと思った	市区町村
12	地域によって体制づくりの進め方や取り組み方は違い、今日の事例がすぐ自分たちの地域で活かすことはできないと思うが、報告者の方に共通していた熱意が一番大切だと思った。	市区町村
13	地域の支援者に向けたしかけづくり、意識付けを行うこと。	市区町村
14	地域の支援体制づくりについてはまだこれからです。関係機関と自治会などと一緒に、まず話し合うことから進めて行きたい。丹波市さんの取り組み体制の構築はとてもよくわかる。	市区町村
15	当事者や家族が困っている事、それを支援解決する為に地域の方にできることなどを勝手に決めないで、それぞれの人に直接聞き、支援づくりの中核にすること。	市区町村
16	独居者に対するネットワーク	市区町村
17	認知症サポート医との連携について、検討が必要と思った。	市区町村
18	認知症の方やその家族の思いや立場に立った支援をするために、家族会や介護者の集い等で、当事者の方たちの思いを聞き取りして、それを反映させた支援を考えていかなければならないと感じた。	市区町村
19	認知症のことを啓発していくこと	市区町村
20	認知症の体制づくりについては、知識が浅かったので、地域支援体制づくりってこういうことか！と、ちょっと前向きになりました。今日来て本当に良かったです。	市区町村
21	年度終わりや担当者が変われば継続につながっていなかったが、根気強く取り組んでいきたい。	市区町村
22	本人支援を通してのまちづくり	市区町村
23	まず今ある総合相談の内容をまとめ、課題を考え、行動する。認知症サポート医との連携を考えていく。	市区町村
24	「ひとつ」をこなすことを目的としない。そのプロセスを活かしていきたい。	地域包括
25	・市担当課と話し合う機会を作りたい(自分からだけ発信しすぎないように) ・行政を巻き込んだ活動	地域包括
26	・社協が法人母体の包括なので、地域づくりについてもっと協働していきたいと思った。 具体的にアクションを起こしていきたい。 ・SOS徘徊ネットの具体的なしかけについて	地域包括
27	SOSネットワークづくりに光が見えた。	地域包括
28	綾部市のサポーター養成の取り組みはとても参考になった。話を聞くのみでなく、実際の支援につなげる仕組みづくりに具体的に取り組みたい。	地域包括

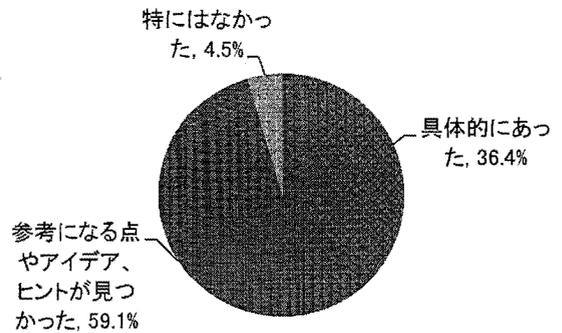
No	見方や考え方が変化した内容	立場
29	各ケースへの働きかけを土台におくこと。当然であるが、弱いので、家族、利用者に届く事業にしたい。	地域包括
30	キャラバンメイトの普及を実施していない市町村へ要請していく。	地域包括
31	現在実行していること、これからやろうとしている事が、方向性として間違っていないと思える。一歩ずつですが…。	地域包括
32	現場に出向き、仲間を増やす。	地域包括
33	個別のケースを大切にしていくこと。ひとりひとりの声をしっかり聞く事。	地域包括
34	サポーター、地域の方の理解を得る努力を一人ではなく、色々な職種も入ってもらってケアしていきたい。	地域包括
35	サポーターの活用のしかたなど	地域包括
36	自地域は行政に事業所・医師会・市民の方々には色々求められる傾向があり、なかなか地域活動が難しい。社協も市に求められるので難しい。自地域はこういう地域支援体制づくりの他市の状況報告の話を事業所、医師会、社協、市民の人も聞いて考える機会が必要だと思った。	地域包括
37	自分の自治体において、地域あるいは住民の方へどの様に、普及・啓発に取り組むべきかを考える機会となった。	地域包括
38	若年性認知症の方への支援	地域包括
39	職場内での課題の共有から、前向きに実践しようとする行動を共にできる人を巻き込みながら提言していく。根気よく、包括の管理者の方向性でできないのもデメリットである。	地域包括
40	制度の中でつなげられない方は、地域の中でつなぐ。そのためにはまず自分自身が地域の中に更に入っていくことだと思った。地域の持っている力の発見・強み発見、一緒にそれらの活かし方を考えていけたら。	地域包括
41	取り組みの流れやポイントの確認ができた。	地域包括
42	専門職と住民が一緒になって支援を進めて行くこと。支援のしくみを作ったら発信していくこと。	地域包括
43	その人らしさ、個人を尊重していると感じた。どうしても介護者の負担の緩和に重きを置くこと(事態)になり、本人の気持ちに寄り添えないと胸が痛んだ。	地域包括
44	地域との連携。認知症を切り札に専門職と地域住民が共に考え、困っている人を教え合うことが出来る地域としていく。	地域包括
45	地域の住民が気づき、自ら活動できるような体制づくり。地域と認知症の方をつなぐ役割の大切さ。	地域包括
46	どれだけ地域の協力を得られるかが主要。	地域包括
47	認知症の方のボランティア、サークル参加、大事だと思う。実際ここまでの取り組みはできていないのが現状。	地域包括
48	認知症本人や家族、地域の困っていることや声を整理し、地域にフィードバックするところから始まるのだと気づいた。自治体では〇〇事業、××事業など、ノルマを果たすように次々と事業を展開し、やりっぱなしになっている。そういうものを活用できるのではないかと思った。	地域包括
49	包括だけが行うのではなく、自治会や既存のグループと連携し、地域発の取り組みにしていけないと、単年で活動が終わってしまう(継続が難しい)。	地域包括
50	ボランティアの自主活動に向けての支援の考え方について、環境整備することは変わらないが、サポーター自身が課題に対してどう考えるのか引き出してコーディネートしていきたい。	地域包括
51	本市の社協が昔作ったSOS徘徊ネットワークが消えている状態。これに再び命を吹き込みたい。また、地域見守りネットワーク構築の大切さ。	地域包括

No	見方や考え方が変化した内容	立場
52	まだ何もできていないので、頑張ろうという気持ちが湧き上がってきた。	地域包括
53	メニュー内容を吟味することができた。	地域包括
54	もう一度、当事者の声に立ち返る必要があると強く感じた。	地域包括
55	もっと地域で認知症について周知。いろんな職種の協力体制の強化が必要だと思った。	地域包括
56	・施設として、認知症家族や認知症利用者に対して、「わかってくれる人」がいる。「相談できる場所がある」と、市町村だけでなく頼りにされるような取り組みをしていきたい。 ・認知症家族ケアとして、「理解」のための勉強会や「話し合い、情報交換」の場を提供していきたい。	介護サービス
57	ケアマネジャーとして独居高齢者、認知症だけでなく様々な疾患を持つ方々の支援にあたり、「住み慣れた場所でその人らしく生き、その人らしく死んでいく」ことの難しさを実感しています。	介護サービス
58	仕掛けを住民自身が生み出していくという支援が参考になった。	介護サービス
59	自分の活動をどの様な場面で活かしていけるのか、ヒントになった。	介護サービス
60	地域の中に何も無いのではなく、今、地域の中には実はいろんなものがあり、動いている。それをまず確認していくこと。そのことでつながり、のっかる、という考え方。そして当事者をその輪の中に。	介護サービス
61	特に困ったことをサポートすることが大事	介護サービス
62	包括との連携、報告をもっとしなければいけないと思った(困った時の報告だけでなく)	介護サービス
63	まず小さいことから始める勇気をいただいた。	介護サービス
64	老健職員です。当施設では、地域に根差した施設を目指しているが、施設の中での取り組みが中心になっており、市がどのような認知症地域支援事業に取り組んでいるのかも知らずにいた。もっと地域全体の動きに目を向けて、取り組んでいくことが大切と思った。	介護サービス
65	これまでは「行政が動かない」というあきらめが多かったが、行政ばかりに任せるのではなく、住民を交えて全体で考えていく必要があると考えた。	医療関係者
66	自分の地域の支援体制が遅れているため、参考になった。	医療関係者
67	地域のアセスメントが大きなカギであるように感じた。今、どんな資源があるのか？今後、どんな町づくりがしたいかを具体的に教えていくことが重要と思う。	医療関係者
68	地域包括支援センター、圏域への参画の仕方など。	医療関係者
69	1人1人と直接かかわるネットワーク作り。	医療関係者
70	いろんなヒントをいただいた。	社協
71	個別支援と地域とのつながり。サポーター養成講座後のサポーターの活用の考え方。養成してから行政が活用するという考え方には反対であること。	社協

### 3. 報告を聴いて、自地域の今後の地域支援体制づくりに活かせることがあったか？

N=110

区分	人数	%
具体的にあった	40	36.4%
参考になる点やアイデア、ヒントが見つかった	65	59.1%
特にはなかった	5	4.5%
計	110	100.0%



#### 自地域の今後の地域支援体制づくりに活かせること

No	今後の地域支援体制づくりに活かせること	立場
1	育成プランの大切さと実践していける現場でのサポート体制の必要性。	都道府県
2	今ある組織(地域システム)を活用して、生きたシステムに変化させる必要がある。	都道府県
3	県としての役割、市町村の役割、それぞれの視点を整理することができた。その中で、県として啓発していくことや、市町村また包括への支援のあり方についてヒントをえることができた。	都道府県
4	丹波市の推進員の動きやオレンジ手帳	都道府県
5	ルール作りのイメージ	都道府県
6	・若年性認知症の方向けの支援が実施できていない→丹波市の半歩の会 ・サポーターの活用が行われていない→綾部市のサポーター養成	市区町村
7	綾部市社協さんの「受講カード」「ハッピーカード」の活用。サポーターの人数しか把握していない状況なので、フォローとサポーターとしての意識にもなる「ハッピーカード」は有効と思う。	市区町村
8	・ただサポーター養成講座や研修などを行うだけではなく、「具体的に困った人に対する支援の一つ」などと関連させて、研修そのものをネットワークづくりに活かしていく。 ・認知症サポーターというインフォーマルな支援者を、行政が活用しようとするのではなく、自分がやりたいこと環境づくりが大切。 ・サポート医の定例会 ・ハッピーカード	市区町村
9	サポーターの活用という視点ではなく、サポーターなりの活動	市区町村
10	サポーター養成講座の内容について	市区町村
11	サポート医を巻き込んでネットワークを組むことについて検討したい。	市区町村
12	自分が経験した今までのケースについて、一度振り返り、個別ケースと地域を結びつけて課題をより具体的に、明確にしていきたいと思った。	市区町村
13	自分の地域ではなかなか支援体制の構築が出来ないので、他市の取り組み全てが参考になる。	市区町村
14	市民主体の認知症サポーター講座をもっと普及させる。市民や医師をもっと巻き込み、事例検討をする機会を普及させる。	市区町村
15	住民との協働という部分での仕掛けづくりについてのヒントが多々あった。「認知症」をキーに町づくりを今後も住民と共に進めて行きたい。	市区町村
16	スーパーバイズとしてセンター方式シートパックを一度利用させていただきたいと思った。	市区町村

No	今後の地域支援体制づくりに活かせること	立場
17	地域の方への思いを関わる人で共有し、具体的な行動に結びつくような指針を示す。	市区町村
18	認知症サポーターの活用について。	市区町村
19	認知症サポーター養成づくりの対象、内容が見えてきた。	市区町村
20	本人とその家族の立場に立って体制づくりを考えていきたいと思った。	市区町村
21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャラバンメイト養成後のメイトさんの活動をしかけていきたい→ゴールドサポーター</li> <li>・実態をきちんと整理してビジョンを明確にしてい</li> <li>・シルバーサポート店のアイデア</li> </ul>	地域包括
22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャラバンメイトをもっと養成する必要があるが、予算がつかないのが難しい。</li> <li>・啓発のパンフやチラシをもっと作成必要だが、予算がつかないのが難しい。</li> <li>・包括はケアプランに追われてなかなか地域支援体制づくりまで行きつかない。認知症連携担当者が不在だったり、サポート医は自主的に受けられた3名の医師のみで医師会で取り組むことは難しいようだ。できることを一つずつしていくしかありません。</li> </ul>	地域包括
23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徘徊システムのルールづくり。具体的な内容を挙げる大切さ。</li> <li>・介護と医療の連携づくり。少しずつ進んでいるが、具体化したい。</li> </ul>	地域包括
24	いろいろな職種との連携が必要ではないかと思った。	地域包括
25	インフォーマルな支援をコーディネートするのがフォーマルな期間の役割。地域や個別のケースに対応したコーディネートを提供できるしきみを整えたい。	地域包括
26	家族会の声を専門職に聞いてもらえる場を作ろうと思う。	地域包括
27	現在、メイト会議を月1回開催し、サポーター養成の展開をしているが、今後、グループホーム等事業所も含め、地域に密着した相談窓口の設置等を展開していきたい。	地域包括
28	現場の大切さ、関心のある住民、民生、事業所等にポイントを絞り、交渉していく。あきらめない事、認知症の人と家族の実態調査をケアマネに協力してもらう。	地域包括
29	高齢者の足の遅ぶ頻度の高い場所に関わる方々へのサポーター養成を行う。	地域包括
30	個々での支援体制はあるものの、ばらばらの活動をしている。各機関が連携して取り組める体制づくり。	地域包括
31	個人事業主レベルでももらえることを、それぞれしてくれる町の良さ。	地域包括
32	サポーターがサークルを作る、認知症の方に参加してもらえるように進める。	地域包括
33	サポーター養成事業の先はどうするのか悩んでいたが、その先の取り組みがわかった。	地域包括
34	シルバーサポート店	地域包括
35	地域ケアを充実させたい。	地域包括
36	地域固有の資源を活かせるように、インフォーマル調査をしていきたい。	地域包括
37	地域住民が一体となって、積極的に取り組んでもらえるよう、自分たちが主体ではなく、周りでサポートしていくことが大事だと思った。	地域包括
38	地域の困りごと、ケアマネジャーの困りごとなどしっかり聞くことが基本。タイミングを見つけて”声”を聞きたい。	地域包括
39	何もできていない状況でまだまだ先は長いと思うが、小さなことから取り組んでいくことが必要だと思った。	地域包括
40	認知症支援のビジョンの確認。行方不明時の対応をまたみんなでもう少し具体的に考えたい。	地域包括
41	認知症地域支援には多職種の連携が必須であること。	地域包括
42	徘徊対応模擬訓練などは現在自分の地域で行われていないが、住民に参加してもらい、一緒にできそう。	地域包括
43	富士宮、綾部の住民主体	地域包括
44	包括のみで到底できるものでなく、関係者や市民等とともに考えていきたい。	地域包括

No	今後の地域支援体制づくりに活かせること	立場
45	本市でも認知症サポーター養成講座は何度も行っているが、その方々の継続的な支援ができていない。一考する必要がある。	地域包括
46	まずは、“自分の地域”について住民が実際に何を感じているのか、誰がどう関わっているのか、再度洗い出したい。	地域包括
47	メーリングリスト、徘徊支援のネットワークづくり、スライドの作り方。	地域包括
48	来年度に向けて、計画の中を広げたい。若年性の方へのアプローチを具体化する。	地域包括
49	インフォーマル資源の活用	介護サービス
50	ケアマネジャーとしてだけでなく、一事業所として、一個人として、一住民としてまだまだ出来ることがあること。「よりよいケア」のために学習する事、それを活かす事、たくさんあると感じた。	介護サービス
51	ゴールドサポーターは4級ヘルパーの考え方とよく似ていて参考になった。	介護サービス
52	個別支援と地域づくりが、実はストレートに結びついているものだという事。何のために、誰の為の支援や地域づくりなのか、特にヒントをいただいた。	介護サービス
53	地域の活動に積極的に参加していくことで、仲間作りが出来る。その中から自分の専門性などを活かせる場所を見つけていく。	介護サービス
54	認知症サポーターをもっとリンクすべきだと思う。	介護サービス
55	包括によって力量がないところがあるが、力量があってもなくても連絡等していった方がいいと思った。	介護サービス
56	みなさんの熱心な取り組みに心から敬意を表します。	介護サービス
57	行方不明のネットワーク	介護サービス
58	医療面ではサポート医の連絡会、サポート医の情報公開など認知症の早期受診・診断・予防に活かせる。認知症だけではない、介護、障害分野でも包括的な取り組み。	医療関係者
59	若年性認知症の取り組み。認知症疾患医療センターから地域包括支援センターへつなぐ方法。	医療関係者
60	専門職としてのかかわり方、普及の重要性。	医療関係者
61	富士宮市の報告が良かったです。視点の一つの方向性が見えた気がする。	医療関係者
62	ネットワークありきではなく、一緒に丁寧に進めていくことの大切さ、これを常に頭に置きたい。	社協

#### 4. 参加しての感想、自地域での取り組み

##### 感想

No	感想	立場
1	ありがとうございました。	市区町村
2	サポーターもどんどん増えている、熱心なキャラバンメイトさんもいる、徘徊ネットワークもある、包括も熱心。素晴らしい資源をより深いネットワークにしていくかについて、考えていきたい。	市区町村
3	SOSシステム、ネットワークについて検討が必要だが、地域性の違いもあり、対応策が非常に難しい。具体的な対応について、もっと情報が欲しいと思った。	市区町村
4	現職場に来て1年。毎日の忙しさに追われてしんどいばかり。一度に変えるのではなく、本日の活動報告の一つからスタートしていきたいと思う。良い時間をご提供いただき、ありがとうございました。	市区町村
5	市内の取り組み報告会を予定しているので、今日お聞きした内容も盛り込んで、より多くの方に発信していきたい。	市区町村
6	チーム作りができていないので、行政だけで突っ走っている現状。同じ思いを抱く仲間づくりが難しい。	市区町村
7	当市は明らかに遅れている。	市区町村
8	認知症施策の仕掛け役をたくさん作っていただきたい。	市区町村
9	認知症に対する偏見を持った人が多い地域があり、地域密着型の施設の建設拒否が起こってしまった。核家族化が進んでいるから高齢者と生活を共にする人も減っている気がする。成人に対して認知症の啓発も必要だが、子どもたちにも認知症への理解を持ってもらいたいと思い、認知症を切り口に地域の見守り、支え合いについて何か取り組んでいきたいと思う。	市区町村
10	認知症の地域支援体制づくりの必要性は十分理解できるが、サポート医、専門医、認知症患者の入院設備のある医療機関など、核となる存在がないと体制づくりはできても機能するか疑問。	市区町村
11	徘徊模擬訓練を年1回ほど行い、声掛け訓練として商店などに協力してもらっているが、まだ市民は遠巻きに見ているだけ。もっと市民が入りやすい方法を考えていかなければならない。	市区町村
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>このようなセミナーを自地域の関係者や市民等が合同で受けることができると、方向性も効果的に円滑に進められる手段にもなるだろうと感じた。</li> <li>必要性を感じていない人や薄い人に前向きにとらえてもらえるように仕向けられる能力も必要だと感じた</li> </ul>	地域包括
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>やはり事例が1市町村1包括の実践となると行政一包括の連携の中で動きが出てくるが、複数包括の中での動きがわかりにくい。複数包括がどう全体的な動きや個々の包括の特徴を生かした実践についても整理してほしい。</li> <li>包括の人材をどう確保するかにもフォーカスを当ててほしい。</li> </ul>	地域包括
14	綾部市の夢を現実にする言葉、良かった。	地域包括
15	市の地域包括(委託)。現場からの発信が出来るよう、力量を上げたい。本日の研修で感動する言葉があった。「人として大切にされる場所＝居場所」、「認知症の人は自分の一歩先を行く人」、来てよかった。	地域包括
16	委託型の包括なので、直接、施策に関わることはできないが、市の福祉計画に基づきながらも色々な手法で私たちなりの地域性を活かした事業計画ができるヒントを得られた。同じ目的に向かって、いろいろな方面からのやり方があると感じた。	地域包括
17	印象に残ったのは、ボランティア、住民の力は知識の啓発や自分たちの事業の協力を求めるのではなく、今ある資源の紹介、コーディネートをし、自分たちで困りごとに関して教えてもらうことで引き出せるという話し。	地域包括

No	感想	立場
18	各々の実践者の報告は素晴らしい。さっそく振り返ります。	地域包括
19	様々な地域でご苦労されていることを直接聞かせていただき、参考になった。	地域包括
20	参加させていただきありがとうございました。早く帰って職場の皆に伝えたい。自分たちにできる事について話し合いたいと思う。	地域包括
21	市全域で取り組むには、行政のモチベーションが大事。無関心、無責任な職員を巻き込んでいくにはどうしたらいいのか…。	地域包括
22	社協の活動と市(委託包括)の活動がうまくつながり、認知症に関しては同じ目標を地域として共有しても良いと思う。	地域包括
23	大変意義あるセミナーだった。ありがとうございました。どこまで取り組むことができるかわからないが、努力できたらと思う。	地域包括
24	なかなか認知症に対する理解を地域住民に伝えていくのがうまくいっていないが、今日の研修でもっと頑張っていこうと思った。	地域包括
25	認知症の方が徘徊した、という状況を想定して徘徊者を見つけ出すような取り組みをしている。	地域包括
26	認知症も地域福祉も多様な事業メニューがあるのはありがたいが、それによって現場が混乱している感じもある。行政の中ではコーディネーター役になる人材が必要だが、なかなか配置する余裕がない。	地域包括
27	前向きに事業に取り組んでいきたいと常々思っているが、地域包括支援センターに求められていることが多すぎて、つぶれてしまいそうになる時がある。うちは直営だが、市役所内のネットワークが一番難しい。	地域包括
28	まず、キャラバンメイトの養成を市へ要請する(市で運営できていないので、メイト育成ができない)。	地域包括
29	盛りだくさんな内容だったので、ゆっくり見直して、わがまちに取り入れたい。	地域包括
30	私は自治体直営の非常勤職員。前々任も非常勤だったが、自分の仕事として大変熱心に認知症サポーター養成研修等をやっていた。その人だけに任せきりにしていたのか、その人が退職後、認知症関連事業はストップした。私に対しても、上司や正職員は「担当の仕事」と決めていた。私は担当者が辞めたり、異動しても継続できるものを学びたいと思い出席した。持ち帰り、どれほど上司や正職員を巻き込めるか、まだ自信がないが、小さい町なので、今既にある多事業を活用し、地域の方々と話し合いながら、何か形にしていきたい。	地域包括
31	・地域支援を活性化するのに、一施設からでも働きかけていけるのではないかと考えた。 ・自分たちが仕事している市町村がどこまで体制が出来ているのか、ほとんど知らない。もっと興味を持つべきだと感じた。	介護サービス
32	ありがとうございました。	介護サービス
33	自分はこれまで認知症ケアの個別の質に関わってきた。これからは主軸はそこにあるが、「支えるつながり」をつくること、そこにケアマネジャーが貢献するためのトレーニングも必要だと感じた。もっと「資源を資源としてとらえる」力が要りますね。サポーターをプランに位置付けている事、あまりないと思う。	介護サービス
34	真剣に取り組まれている意見を感じられて良い研修だった。	介護サービス
35	センター方式の視点で本人様の周りの様々な「資源」の活用に目を向け、また必要な「資源」を作り上げていくこと、連携の輪をもっともっと広げる事(警察、消防、商店、企業、学校、施設、他)大切と感じた。	介護サービス
36	色々な取り組みが聞けて良かった。	医療関係者
37	参加者もそれぞれの立場で取り組まれている状況が質問からもみてとれた。引出しを多く持ち帰られた研修だった。	医療関係者

No	感想	立場
38	自治体がやろうとしていること(連携の推進、研修会や事例検討会、一般の啓発など)と認知症疾患医療センターがやるように指定されていることと重複する部分が多い。どちらがイニシアチブをとるのか？お互いやると重複、無駄もあるのではないか？両者の連携がまず必要と感じた。	医療関係者
39	地域でできることがまだまだある。身近なところから始められることがあると、日ごろの振り返りになった。	医療関係者
40	私の勤める認知症疾患医療センターは、人口17万人の市と3万の1町に1か所設置されているが、入院人数は全国で三番目に入っている。この入院人数を少しでも減らせるよう、認知症の人が住み慣れた地域で過ごせる地域を作ろうと考えている。	医療関係者
41	東京センターでの研修も大事だが、今回のように同じような研修を3か所でやっていただいて気軽に参加できた。今後ともよろしくお願いします。	社協
42	前向きな気持ちになれるセミナーだった。やれることから少しずつ頑張りたい。ありがとうございました。	社協

### 自地域での取り組み

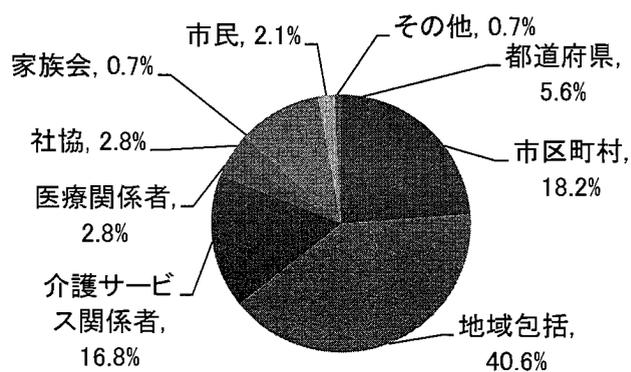
No	内容	立場
1	近くの南魚沼市、小千谷市ではSOS訓練をやっている。	都道府県
2	認知症ケア研究会を発足。平成24年7月～8月にNPO法人設立予定。大きな広がり、施策に幅ができた。大きく展開できるので、非常に楽しみ。	市区町村
3	寿大学(老人大学)や民協、老連、ボランティア団体等、幅広い団体に認知症について正しい理解を促進する事や、もの忘れ相談や認知症予防教室等、色々と取り組んでいるが、事業所等との関わりが薄い為、もう少し重層的な取り組みの展開を目指したい。	市区町村
4	・若年性認知症交流会が始まった。 ・つどい場づくりの過程でボランティアさんの力を実感した。	地域包括
5	スーパーバイズをしていただける環境が整ってきている。	地域包括
6	認知症サポーター養成講座。自治会と協力して町内会向けに行うようになり、だんだん認知症への理解が深まってきたように思う。以前は、市内中心部の大きなホールで参加者申込制で興味ある人しか来なかった。地域で行うようになり、より身近に考えて頂けるようになったと思う。	地域包括

## 5—4) 仙台会場アンケート結果 (N=143)

参加者	200人
回収数	143人
回収率	71.5%

### アンケート回答者の立場

区分	人数	%
都道府県	8	5.6%
市区町村	26	18.2%
地域包括	58	40.6%
介護サービス関係者	24	16.8%
医療関係者	4	2.8%
社協	4	2.8%
家族会	1	0.7%
NPO法人	14	9.8%
市民(地域住民の立場)	3	2.1%
その他	1	0.7%
計	143	100.0%



## 1. セミナーに参加して最も印象に残ったこと

No	印象に残ったこと	立場
1	一般の参加があり難しいかもしれないが、取り組んだデータ(予防、医療、ケア他)もあるとよかった。	都道府県
2	震災があつて大変だったが、認知症事業をしていたことにつながった人々と支えあつて、更に深く結びついていることがわかり、素晴らしいと思った。	都道府県
3	地域支援体制づくりの取り組みは、進行性でゴールはない。息の長い取り組みが必要になる。	都道府県
4	地域づくりの視点が重要であること。	都道府県
5	地域でのフォロー(特に気になったのは民生委員)について、団塊の世代の人達の利用のしかた。	都道府県
6	地域の資源を上手に見つけているところが印象に残った。	都道府県
7	“地域づくりはゴールがない”ということ。	市区町村
8	・焦らずじっくり取り組むことでよいと思えた。 ・楽しくチームで進めていけると、自分自身も楽しく仕事できて地域も活性化する。	市区町村
9	Q&A、一言メッセージ	市区町村
10	関係機関、多職種、地域の連携の重要性を改めて感じた。	市区町村
11	久万高原町の種まきと待つことの大切さ!	市区町村
12	団塊の世代の考え方、死に方、支えあい方セミナー	市区町村
13	地域支援体制づくりのために、まず地域の課題、資源を抽出し、その地域性を生かしながら住民の協力を得ることが必須であること。	市区町村
14	地域づくりにゴールはない。成果を焦らずに、できることからアプローチする。または地域からの声を広く聞くことができる体制づくりの大切さ等、参考になった。	市区町村
15	地域づくりにゴールはない。認知症を切り口にした取り組みはなじみにくい。	市区町村
16	地域が動き出す取り組みを、できることからやるということ。改めて方向性の確認ができた。久万高原町菅さんの話、とてもわかりやすく参考になった。	市区町村
17	地域の人を主体に!	市区町村
18	地域を一緒に耕していく、時間をかけてゆっくり気長に支えていく。	市区町村
19	地域を耕す。全て素晴らしい講師だった。南三陸町の取り組みが心に残った。	市区町村
20	小さな一歩から長い目で支援しなければならないこと。どこに焦点を置くか、考えるきっかけとなった。	市区町村
21	チームみやぎの地域での取り組み報告(震災を経験した事からの発表)。	市区町村
22	できることから始める。できることからなら、自分でもできるかなあ、と思った。	市区町村
23	認知症の医療体制を強化することで、安心感につながる。	市区町村
24	認知症を切り口として展開している地域づくりが、社協中心で行われている、ということ。	市区町村
25	被災地の支援の状況が最も印象に残った。	市区町村
26	一人ではなく、いろんな方を巻き込んで取り組んでいく必要がある。住民主体で考えていく。住民自身が自分のこととしてとらえていくことが大切。	市区町村
27	南三陸町の震災後の話。	市区町村
28	南三陸町の話。気仙沼の年6回の研修。	市区町村
29	“今できること”を行っていきたい。	地域包括
30	改まって普及していくのではなく、小さな事、思った事から始める事が大切だということが印象に残った。	地域包括

No	印象に残ったこと	立場
31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤井寺市の団塊世代パワーをベースとした地域活動の後方支援。</li> <li>・住民主体として、地域づくりの一環で啓発活動やコミュニティ活動を行っていくことの重要性。</li> <li>・“待つことの重要性”</li> <li>・気仙沼の医師の関わりが大きい地域連携</li> </ul>	地域包括
32	いつも電話だけで話すより、一度顔を見て話すということに意味があることに気づいた(その後、つながりができてくるので)。地域の見守りも日頃から行っていなければ、緊急時に対応することができない。	地域包括
33	大きな事をやるのではなく、小さな事を一つ一つやっていく。課題はなくなるらない、気長に支えていく。	地域包括
34	親父パーティ、団塊世代の老い方、死に方、支えあいセミナーの実践。	地域包括
35	各地域で様々な取り組みをしていること。	地域包括
36	関西からの2名の報告。	地域包括
37	久万高原町、藤井寺市包括支援センターの紹介。頑張りすぎない、ゆっくり育てていくとの最後のまとめの言葉が印象に残った。	地域包括
38	久万高原町における認知症だけではなく、生活・介護支援という視点。	地域包括
39	久万高原町の菅さん。芽が出るのに1~2年ではなく5年かかる。	地域包括
40	久万高原町の地道な取り組みに感心した。数ではなく、細やかな対応、気づきの大切さを感じた。	地域包括
41	久万高原町の地域支援体制の構築に向けて。生活・介護支援サポーター養成講座、団塊世代の老い方、死に方、支えあい方セミナーを参考にしていけたらと思った。	地域包括
42	久万高原町の話は興味深く聞くことができた。認知症にとらわれず、切り口を別の方向から設定し、取り組む。住民からの声を待つことで、地域づくりの芽が出ることに納得できた。	地域包括
43	細かい所からあらゆる機会をとらえ、発想を柔軟にしながら、認知症の啓発に努めていく。それが震災や地域の力が必要な時に役立つということを学んだ。	地域包括
44	支援体制が何重にも重なりできているのが印象に残った。	地域包括
45	震災後の宮城チームの活動について、これまでの取り組みが活かされたことが印象深かった。	地域包括
46	震災にあった地域での取り組みの中で、自治会組織、認知症サポーター等、町民同士の支えあいの重要性を感じた。	地域包括
47	生活、介護支援サポーター養成講座。団塊世代へのネットワーク構築。	地域包括
48	仙台市、南三陸町が取り組んできた認知症の取り組み方は大変参考になった。何年もかけて続けていた認知症支援対策が、今年の震災時に効果がみられたことを知り、気長に取り組むことが必要と思った。	地域包括
49	仙台市社協で受託している包括だが、なかなか社協の強みを包括に活かさない状況。久万高原町社協の方の取り組みがとても参考になった。	地域包括
50	それぞれの事例が全てよかった。	地域包括
51	他地域、施設での活動の様子。	地域包括
52	楽しみながら関係者の広がりを作り、進めていること。	地域包括
53	地域支援体制の構築に向けて、久万高原町社協の取り組み。息の長い取り組みが必要。	地域包括
54	地域性により取り組み、手段も多様で新たな取り組みの参考にしたい。	地域包括
55	地域づくりにゴールはない。	地域包括

No	印象に残ったこと	立場
56	地域との連携の大切さを再確認できた。	地域包括
57	地域の方々と顔なじみの関係を作るためには、一人一人の方を大切にする必要がある。	地域包括
58	地域へのしかけ方、種の巻き方。社協、行政、包括の連動をどう取り組むか、課題と思った。	地域包括
59	超高齢化町の取り組み→望みを持ってできることからやってみる。	地域包括
60	つながりの大切さ。	地域包括
61	認知症地域づくりは後からじわじわと地道に成果として表れる(活動の後押しとなった)。トラブルこそ本人に関わっていける場面(勇気を持って関わっていくチャンス！)。	地域包括
62	認知症の方が地域で暮らす体制づくりの具体的内容をそれぞれの役割で話されたこと。	地域包括
63	発表者がそれぞれの地域で生き生きと取り組んでいる様子が印象的だった。	地域包括
64	被災地にありながらも、たゆまぬ取り組みをされていた事。必要に迫られた面もあると思うが、その前からの取り組みが生きた事は大変な教訓になった。	地域包括
65	人とのつながりについて、大事なことがわかっているが、どうつながっていくか…。人材について、どう確保していくのか…。地域の資源の活用について学んでいきたい。地域の連携の中では、医療との連携は絶対必要だが、事例のような先生やスタッフさんとの関わり方をどうもっていくか。事例はととても羨ましく思った。	地域包括
66	人とのつながりの大切さ、人とつながらないと何もできないかも…。	地域包括
67	福島の平成 23 年度は東日本大震災の影響で認知症対策が十分に活動できていなかったように思う。しかし、それを言い訳にしていたことが一番課題であったことがわかった。	地域包括
68	藤井寺市の取り組み。	地域包括
69	藤井寺市の報告で、様々な地域組織、活動団体の巻き込み方が印象に残った。認知症サポートのことだけでなく、支える方が自分のできる範囲でやりたいことを楽しく取り組まれており、末永い活動に結び付く秘訣と思った。	地域包括
70	待つタイミングの大切さ。長期ビジョンの元に種まきしていく。法人後見、社協職員の意識改革。高齢化に伴う地域で共に支えあうことの難しさ→「ちょっと気にかける」地域の活動。帰れる町、そのための地域づくり。	地域包括
71	皆さんに共通していることが「しかけ方」を考えることだと気付いた。どうしてもリードする方法ばかり考えがちだったので、目からウロコだった。	地域包括
72	南三陸のサポーター養成講座が7月から再開していたこと。	地域包括
73	南三陸町の取り組み、親父パーティ。	地域包括
74	南三陸町の取り組みについては以前から地域に積極的に行動をしかけている事を知っていたが、自分の地域にもできることがあると感じた。	地域包括
75	役割と役割期待のギャップ	地域包括
76	横のつながりの大切さ。行政の関わりの薄さは問題。地域・包括が頑張っても、行政の係がコロコロ変わり、引継ぎがきちんとされず、「管」の力の弱さが浮き出されている。気仙沼、南三陸で今回の発表に携わった皆さん、お疲れ様でした。これからももっと力を発揮し続けてください。ありがとうございました。	地域包括
77	“顔を見せる”、“顔見知りになる”個人的には苦手としているが、連携を図るためには大切なこと。	介護サービス
78	「何が」地域の為になるのか？を限られたものではなく、その地域のオリジナリティとして作っていくことが必要だと感じた。	介護サービス

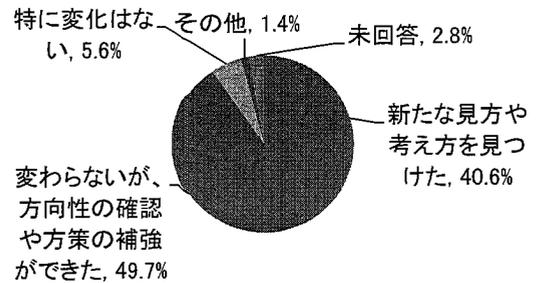
No	印象に残ったこと	立場
79	「待つ事」ゆっくり、ゆっくり、時間をかける事が大事。	介護サービス
80	地域というのは自分だけで何とかなるものではないと思った。地域住民の協力や理解がなくては始まらない。	介護サービス
81	生きていれば支えることも、支えられることもできると聞き、共感した。	介護サービス
82	生きていれば助けることができる。生きていれば助けてもらうことができる。急がず待つタイミングを持つ。5年ぐらいかかるスタンスで。	介護サービス
83	いろんな角度から皆さんの発表、勉強になった。ありがとうございます。	介護サービス
84	課題はつきもの、地域づくりにゴールはない、待つことのスタンスをあえて大切にする。	介護サービス
85	管理者の立場として、職員の人材教育に悩む事もあるが、人を育てることも地域づくりも5年はかかる事に共感。	介護サービス
86	行政等でしかけた事にうまくのっかり、支援の輪を広げていければと思う。	介護サービス
87	久万高原町社協の取り組みが参考になり、また「死に方」を考えるセミナーという企画を行ったことがとても参考になった。	介護サービス
88	久万高原町の取り組みがとても共感を得た。	介護サービス
89	震災のさなかにも、認知症の方、地域への取り組みを行っていたこと。	介護サービス
90	少しずつ市民に普及させていくことが、いざという時に活かされていることが、全ての発表で表れていた。	介護サービス
91	地域支援体制の構築に向けて、地域で共に支えあう難しさ。	介護サービス
92	地域づくりには顔なじみの関係づくりが大切だということ。	介護サービス
93	できる事から始めることの大切さ。ビジョンの大切さ。	介護サービス
94	認知症は現代の重要な問題であるが、地域の中で考えれば一部だと思う。色々ある地域の問題は、まず隣近所の付き合いを取り戻す事。昭和30年代、40年代の世間の付き合いに戻る必要があると思う。	介護サービス
95	認知症は本人と家族だけの問題だと思っていたが、地域や行政での取り組みとしている事。	介護サービス
96	ネットワークづくり	介護サービス
97	病院が開かれていること。認知症になってもいきいき暮らせる町。地域体制づくりにゴールはない。	介護サービス
98	本人・家族＋地域とのつながり方。	介護サービス
99	ゆっくり進み、待つことが大事。	介護サービス
100	県内の震災後の状況を再認識した。よく展開できていると思う。	医療関係者
101	震災後の「支えあう」取り組みについて。“人のつながり”がいかに大切か、改めて考えさせられた。	医療関係者
102	地域で支えるためのつながりを作っていくことの必要性。長い目で見守る、ということ。	医療関係者
103	宮城県気仙沼保健福祉事務所の前田さんの話。大震災で皆が大変な時に近所の人々が助けてくれた。周りの人が見守ってくれた。近くのグループホームが食事を届けてくれた”という部分が印象に残った。	医療関係者
104	愛媛の社協の話	社協
105	久万高原町社協の実践例。	社協
106	発表された方々の活動の工夫・努力・熱意。	家族会
107	各地の取り組みの工夫がわかって、参加した意義が深い。	NPO
108	久万高原や藤井寺の取り組みの素晴らしさに感動した。	NPO
109	県の取り組みについて、被害の大きい地域について、内陸部との差が生じないか。	NPO

No	印象に残ったこと	立場
110	社協の活動が、地域での安心へつながっている様子がわかった	NPO
111	他地域での地域づくりの取り組み。地域を耕し続ける事の大切さ。	NPO
112	地域特性を活かした考え方。	NPO
113	地域の福祉委員もやっているが、いつも社協の上から目線…を感じていたが、私たちが行動を起こさなければ、と感じた。良かった。	NPO
114	どの取組や発表報告についても、ネットワークの構築が大切だということ。医療・介護・福祉・行政・近所等、全ての人と人とのつながりによって、社会全体で認知症の人やその家族を支えていく体制づくりをしなければならない、という部分が強く残った。	NPO
115	認知症地域支援にゴールはない。	NPO
116	認知症になっても、個人の尊厳は凜としてある。一人一人を大切に思って寄り添うことは、日本人として当たり前のことだと気づかされた震災だった、その発想は心にしみた。	NPO
117	藤井寺と久万高原町の話。行政(社協も含め)が上手に黒子になって「しかけ」を作り、上手に市民をのせたこと。	NPO
118	藤井寺の前原さんの「できる事から～、頑張りすぎない、他の力を上手く使おう」という言葉を聞き、少し気が楽になった。少しずつでも地域のつながりを深めていきたい。	NPO
119	南三陸町の震災を経験して乗り越えて、強くやさしく頑張っていらっしゃる姿に感銘した。菅さんの「待つこと」の大切さ、改めてしみいった。	NPO
120	地域支援体制の構築に向けて	市民
121	認知症に関心を示してくれる人々を、どのようにして増やしていくかについての各市町村の取り組みについて、それぞれ苦勞されていることに頭が下がる。私は認知症の家族を40歳で介護し、疲れて「うつ病」を患った。	市民
122	南三陸町の報告が良かった。	市民
123	「地域づくりにゴールはない」同感です。	その他

2. セミナーに参加して、自地域の認知症地域支援体制づくりの取り組みについて、  
自身の見方や考え方に変化があったか？

N=143

区分	人数	%
新たな見方や考え方を見つけた	58	40.6%
変わらないが、方向性の確認や方策の補強ができた	71	49.7%
特に変化はない	8	5.6%
その他	2	1.4%
未回答	4	2.8%
計	143	100.0%



見方や考え方が変化した内容

No	見方や考え方が変化した内容	立場
1	各地域のしかけを聞くことができたので、参考に取り組んでいきたい。	都道府県
2	町、保健福祉事務所、県、医療機関のつながり方	都道府県
3	やりたいことはあるが公務員につき、しがらみが邪魔する！	都道府県
4	急がず、じっくり、ゆっくり、仲間を作り、一緒に始めていく。	市区町村
5	介護保険事業所への研修課の持ち方が参考になった。	市区町村
6	顔の見える関係性の重要性が確認できた。	市区町村
7	啓発のためのキャッチコピー、シンボルマークの公募。団塊世代への働きかけなど新たな視点。	市区町村
8	疾患センターも、地域の取り組みと一緒にやっている話を聞き、やはり多機関を巻き込んでいかなければならない。	市区町村
9	実践報告を行うことが意見収集になり、意見を言ってくれた人を仲間に入れる(人材発掘)にもなる。	市区町村
10	社協の地域福祉担当との連携の視点が不足していた。	市区町村
11	地域の新たな担い手づくりのために、団塊の世代の力を活用することができるよう、展開したい。	市区町村
12	チームで動く。楽しくやりがいが感じられるように仕事をする。	市区町村
13	認知症だけでなく、他のネットワークを活用、または介護全般を考える方法もある。	市区町村
14	認知症と限定せず、町全体、自分を含め様々な職種や団体、地域が住民であるということ認識して、つながっていくことの奥深さを学んだ。	市区町村
15	藤井寺市の包括と民児協の連携強化。	市区町村
16	南三陸や気仙沼の方が頑張っているので、負けられない。	市区町村
17	アイデアを沢山発見できた。何かやらなくてはと焦ってはいけなないと気づいた。時間をかけて住民の主体性を尊重することが大切。	地域包括

No	見方や考え方が変化した内容	立場
18	①自分(30代前半)たちの上司(50～60代)は、トップダウン、現場至上主義が強く「何でも自分の手でやらないと気がすまない」「多職種の意見をまとめた上で協働で関わるより、指示出してやらせた方が早い！」という価値観が強く、世代ギャップを感じていた。住民主体・後方支援に回ることの方が、将来的に実りが大きいことを今回実感できた。めげずにアプローチを続けて行きたい。 ②地域の体制をオーガナイズしていくには、医師を巻き込むのが必須で、市町村内だけでなく、広い医療圏のネットワークが必要だが、そのイニシアチブをとれる立場が難しいと感じた。	地域包括
19	新たに組織を作らなくても、既存の組織を利用することも考える。今、行っている事業をするとき、次の事業への展開をあらかじめ考えて取りかかる。流れの中で事業をとらえる。	地域包括
20	今までやってきたこと、方針が悪くはなかったと思えた。地域の中にあるしがらみは確かに難しいが、何か方法はあるし、待つことを恐れなくて業務にあたりたい。	地域包括
21	お茶っこ会や集いの場で、認知症についての話をしているが、その場で終わらず、次の段階へ継いでいけるよう考えていく。	地域包括
22	久万高原町社協の生活・介護支援サポーター養成講座。様々な世代への仕掛け方がとても参考になった。	地域包括
23	これまでの「つながり」を活かし、また新たな「つながり」づくりを通して、少しずつ認知症地域支援体制づくりをしていきたい。	地域包括
24	様々な疾病がある中で、認知症に注目し特化するのか、認知症以外の様々な疾病や問題を支える地域支援のあり方も考えていく必要があると前々から感じている。本日、新たに感じた。	地域包括
25	支援側の押しつけとにならないよう、時間をかけて少しずつ体制づくりをしていきたい。	地域包括
26	時間がかかって当たり前だということ。地道に耕し、種をまいていきたいと思った。	地域包括
27	自分達でできる事から始めていく。	地域包括
28	自分の町でも地域で支える体制づくりを住民主体で行っていくことの必要性を痛感。	地域包括
29	社協の役割と包括の目指すところは同じだと感じていたが、それぞれが別々で協力を得られないもどかしさが包括内にあった。社協職員を巻き込んで、裏目標での講座の考え方が参考になった。	地域包括
30	体制ができるまで3年かけるということに、長い年月がかかるものだとわかった。自分達も積極的に出向く必要があることに気づいた。病院の方からも包括にアプローチしてくれたら、もっと良い関係が作れると思うが、難しいですね。	地域包括
31	体制づくりには時間がかかる。「待つこと」のスタンスを大切にする。	地域包括
32	種まき、5年かけてやっとな芽が出る、「待つこと」、サロンを立ち上げようと考えているが、市民を巻き込むためにもう少し待つ。	地域包括
33	団塊世代へのアプローチ、高校生のロバちゃんづくり。	地域包括
34	団塊の世代とのつながりを持っていくことが大きな力になると改めて考えさせられた。	地域包括
35	団塊の世代の力を借りたくても、動員のしかた、きっかけがわからなかったため、参考になった。	地域包括
36	地域ケアをどう取り組んで良いか分からなかったが、“まず、できることから”しようと思った。	地域包括
37	地域の既存するグループと一緒に活動を深めていくことなど、どんなグループがあるか、キャッチしたいと思った。	地域包括
38	地域の支援体制づくりの一環として、今行っているサロンや講座に視点を盛り込んでいく。	地域包括

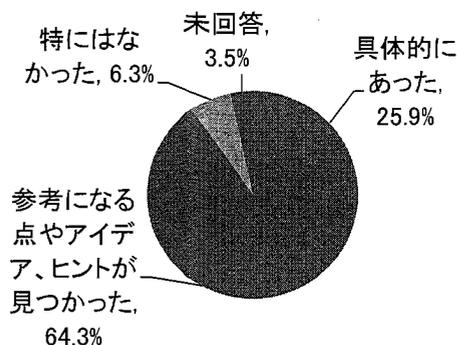
No	見方や考え方が変化した内容	立場
39	できる事から始める事、ある資源で活用していくことを藤井寺の発表を聞いて感じた。	地域包括
40	どのように死にたいか→どのように生きるか、どのような地域づくりが必要か、住民が考えるきっかけになるという視点。目からウロコだった。	地域包括
41	取り組みを知り、地域の中で取り組んでいきたいと思う。	地域包括
42	認知症の人とその家族の声を聴く。アンケートの実施。生活の単位での色々な資源を考えていく。しがらみにとらわれない考え方。	地域包括
43	働き始めたばかりなので、これからどのように考え、取り組んでいくことが良いのかを考える事が出来た。	地域包括
44	平成 24 年度事業計画提出したばかりだが、改めて「評価」を気にしない認知症支援体制について考え直した。	地域包括
45	他の関わりの視点が参考になった。	地域包括
46	まずは自分たちが出来ることをやっていくこと。大きな事からではなく、小さなことから始めていくことが大事だと改めて感じた。	地域包括
47	まずは地域の力を発掘、発見し、活用することだと感じた。	地域包括
48	待っているだけでなく、自らできることを再認識し、チームワーク、もう一か所の包括と取り組んでいきたい。	地域包括
49	見つけようという思いを強くした。	地域包括
50	見守りネットワーク構築のため、ネットワーク会議をまず開催したい。	地域包括
51	私の町でも、認知症見守りネットワーク会を立ち上げたばかり。今後、認知症の方、本人や家族の方にも参加していただき、支えあい体制の在り方にその声を反映していきたい。	地域包括
52	・認知症ということだけではなく、色々なイベントを企画していることが様々なネットワークづくりに役立っている、という久万高原町社協の取り組みが参考になった。全体的に考えていくという見方がとても参考になった。	介護サービス
53	表向きだけでないことが大切。	介護サービス
54	介護施設で働くものとして、逆に何をどうしたらいいのか悩んでしまった。	介護サービス
55	キャラバンメイトになったが、養成講座の経験がないので、まずは施設のある地域から行えるようにしたい。	介護サービス
56	具体的に自地域で認知症地域支援体制を作っていくのかが見えていないが、自分から積極的参加をしていかないといけないと思った。	介護サービス
57	久万高原町が考え実践している、少なくともいい集い。	介護サービス
58	個人的な問題として考えず、一般的な悩みだと考え直し相談する。	介護サービス
59	個人としての思いと行動に確信が持てた。	介護サービス
60	地域で共に支援していただける事はありがたい。私たちの地域に支援事業があるのかどうかもわからなかったが、知っていれば参加したいと思う。	介護サービス
61	地域の限られた中の事業所がネットワークを組むことの必要性や、その中でのケアスタッフの人材育成や、ケアの質の向上を共同で働きかけて行ってみることを考えた。	介護サービス
62	地域を耕し続けていくことの大切さを感じた。	介護サービス
63	できること、小さなことからやってみる。	介護サービス
64	認知症を持つ方々を地域資源として、相手が主体的に動くきっかけづくりのヒントを頂いた。	介護サービス
65	南三陸町の高校生が老人ホームの前を歩いて通学しているとの話で、老人介護、保育など、別々ではなく、普段から顔を合わせることで、関係が作れていることを再確認できた。	介護サービス

No	見方や考え方が変化した内容	立場
66	私たちは仮設の訪問員をしている。その中で地域との連携を強く感じている。今後増加する認知症人口を、日々の仕事の中で、いかに見守り、訪問の重要性を再度認識できた。	介護サービス
67	アウトリーチが想像以上に活発であると認識できた。	医療関係者
68	サポーター研修を活用する。色々な人とのつながりなど。	医療関係者
69	地域の特性を活かしたマンパワー資源の見直し。	医療関係者
70	何かを新しく作ることは難しいが、資源・ツールとしてあるものを活用し、認知症の方をサポートしていけるネットワークづくりができる事を見て、知ることができた。地域性や各地域体制等違いがあるので、そのまま参考にはできないが、「何かできるかも」と考えるきっかけになった。ありがとうございました。	医療関係者
71	大勢の人を集める集会もいいが、少人数の研修もよしとする。	社協
72	物事のとらえ方、考え方。	社協
73	地域を耕し続け、一緒に耕して種まきしていく。フォローと気長に支えていくことが大切と思った。	家族会
74	改めて地域とのつながりについて考えることができた。地域へ啓発することを行っていただきたいと思った。	NPO
75	県の話はわかったが、仙台市はどのような方向性、地域づくりをしようとしているのか知りたい。	NPO
76	様々なセミナーのやり方、日常の積み重ねの重要性。子育てと同じ、焦らず、ゆっくり、が大切。	NPO
77	地域での「サロン」の様な場を作りたい。	NPO
78	地域との連携の大切さ。	NPO
79	常日頃から地域の関係者と顔なじみの関係を作っておくことや、介護と医療の連携の強化等、取り組んでいく方向性の重要さを確認できた。	NPO
80	永田先生の総括的な話が、振り返りにもなり、新たな出発点にもなった。	NPO
81	認知症について理解していない人が多いので、もっと広く周知させることが必要。	NPO
82	今、地区で月 1 回脳イキイキ教室を開いている。毎回体を動かし、お茶のみは欠かさないが、行政の話を入れたり、外部の人達を入れたりしている。	市民
83	自分や家族で悩み苦しむのではなく、小さな悩みでも周りに発信することの大切さを学んだ。	市民
84	認知症サポーター養成講座の開催はしてきたが、その受講者を次のステップにつなげていく視点が足りなかった。	その他

### 3. 報告を聴いて、自地域の今後の地域支援体制づくりに活かせることがあったか？

N=143

区分	人数	%
具体的にあった	37	25.9%
参考になる点やアイデア、ヒントが見つかった	92	64.3%
特にはなかった	9	6.3%
未回答	5	3.5%
計	143	100.0%



#### 自地域の今後の地域支援体制づくりに活かせること

No	今後の地域支援体制づくりに活かせること	立場
1	具体的な事業や地域のどのような住民に種をまいたらいいのか、芽をだし、育てていく工夫がわかった。	都道府県
2	町で医療機関との協同で活動しているので、今回の「みやぎチーム」の内容を伝達し、話し合いをしたいと思います。	都道府県
3	・住民に分かりやすく、インパクトあるキャッチコピーやシンボルマーク作成。 ・住民へ仕掛ける切り口を多様化してみる。	市区町村
4	行政としては、地域医療連携のつながりが、安心して暮らせる地域づくりにつながると思った。	市区町村
5	久万高原町の団塊の世代の老い方、死に方、支えあいセミナー。	市区町村
6	様々な地域の取り組みを聞くことで、自地域の取り組みを進めていく際に元気を頂いた。	市区町村
7	住民同士のグループワークで住民がつながりを持つことから地域づくりにつながるということ。顔の見える関係づくりが大切であること、ヒントを頂いた。	市区町村
8	生活介護支援サポーター(平成 21 年に養成)の活動が停滞しているので、早期にフォローアップ・研修等を開き、顔合わせ、活動支援をしていきたい。	市区町村
9	専門職のネットワークづくりの重要性。	市区町村
10	高い高齢化の中でも地道にできる種まきから始めたい。	市区町村
11	団塊の世代の方の力を利用することができればよいのではないかと。	市区町村
12	団塊の世代への働きかけ	市区町村
13	地域内、あるいは関係者の中でのネットワークの構築。	市区町村
14	チームみやぎのように、全県的に取り組む、また支援体制があるのは救われる。どの地域もネーミングがよい、アンケート、グループワークで皆の意見を聞く、団塊の世代をターゲットにする、認知症の人は地域で活躍できる場を作る。	市区町村
15	認知症サポーター養成講座にプラスして、互いに支えあう地域づくりのプログラムを導入していきたい。	市区町村
16	徘徊認知症模擬訓練、「死」を考えるセミナー	市区町村
17	1年、3年でできることではない。5年かけるくらいで芽がでるくらい。耕し、種をまいてみる。時間をかけて育てる。	地域包括
18	医師の協力を受けられるためにはどうしていけばいいのか？知りたい。	地域包括

No	今後の地域支援体制づくりに活かせること	立場
19	①地域体制づくりは、医療圏ベースの中広域で、医師を巻き込んだネットワークづくりが欠かせないと感じた。 ②行政主導のトップダウン方式でなく、住民主体の企画・運営にするための後方支援が重要だと感じた。	地域包括
20	色々ありすぎてまとまらないが、できるところから、少しずつしていきたい。	地域包括
21	お茶っこ会やサロンをどうやって増やしていけるのか、地域に向けて発信したらいいのか、そのためには種まきがまず必要なことだと感じた。必要と思ってもらえるような「しかけ」が必要だと感じた。行政と一緒に考えていけたら、と考える。	地域包括
22	親父パーティ(男性の力を地域の中に活かしていくことの一例として興味深かった)。	地域包括
23	親父パーティ、南三陸の取り組み。日々の積み重ね、顔の見える関係。	地域包括
24	久万高原町の対応の仕方として、生活・介護支援サポーター養成講座と題して、認知症サポーター養成講座だけに取り組むのではなく、高齢化に対して全体的に取り組んでいくことの必要性を強く感じた。	地域包括
25	現場で地域住民や本人と共に頑張っている地域包括支援センターの職員の行動を、市の担当者が否定したり、頑張っている職員を嫌ってつぶそうとする傾向がわが市にはあり、大きな課題となっている。今後は行政を当てにせず、市や区の職員に嫌われたり、つぶされる事を恐れず、地域や本人・家族と共に体制づくりをしていく必要があると感じる。	地域包括
26	サポーター養成講座、理美容組合は考えていたので、やはり行ってみます。	地域包括
27	事業を評価し、系統立てて事業を行っていくこと。ケースワークの実践を進めていく。	地域包括
28	自分たちの強いビジョンが重要で、その為に何から始めるか、行政と検討していきたい。	地域包括
29	自分の地域に当てはめて考えるきっかけとなった。	地域包括
30	自分の包括は社協が受けている包括だが、あまり社協と連携を持っていないのではと思った。地域体制づくりは、地域の事を把握している社協との連携が必要だと気づけてよかった。	地域包括
31	社協とは連携をとっているつもりだったが、もっともっと深く付き合っているということ。	地域包括
32	住民の声を聴いていき、できることがないかを一緒に考えていく。	地域包括
33	・数字ではない。広げることより実質的なサポーター育成の必要性を認識できた。 ・地域性が異なる地域支援の場合「たて」のしがらみにとても気を使うが、そうではない「つながり」の利用法。	地域包括
34	団塊世代への働きかけ。認知症徘徊対応模擬訓練で実践的なグループワーク等は住民の方のニーズが高いのではないかと考えた。	地域包括
35	団塊の世代の力が大きいことが「親父パーティの展開」で参考になった。報告会の重要性も理解できた。	地域包括
36	地域資源を考える事で、それを活かしていく物を見つける。結果が出る事を考えず、5年くらいで芽が出る。	地域包括
37	地域の方が興味を持ってもらえるような取り組みを、地域の特徴を考えながら行っていくことが大切。	地域包括
38	地域の方を巻き込んで支援していく必要を強く感じた。学生や地域の商店街の方にも普及させていきたい。	地域包括
39	地域のつながりが大事なことがわかったので、何とかつながりを再構築していきたい。	地域包括
40	地域の中でのサポーターを作っていくこと。特に若い高齢者の力を活かすこと。地域の中の声を聴く機会を作っていく…等。	地域包括

No	今後の地域支援体制づくりに活かせること	立場
41	認知症の方だけの問題ではなく「地域に生きる」という地域の住民全員のことである、という認識を改めて考えさせられた。	地域包括
42	認知症の方やその家族の方だけでなく、地域の中でそっと生活を支えてくれる地域の担い手を養成することが必要。	地域包括
43	方法はたくさんある。地域にあった方法を見つけて実践したい。	地域包括
44	まず地域の人に集まってもらうことが大事であること。地域の人に考えてもらうことの大事さ(種をまくこと)を学んだ。	地域包括
45	まずはやってみること。耕す、種をまく、水をやる(花が出るまで待つ/タイミング)	地域包括
46	マップの取り組み	地域包括
47	身近なことから、小さなことから、無理せず、あきらめず芽を待つ。お金をかけなくてもやれることからやってみようか…と。	地域包括
48	「しかけ」と「種まき」のヒントが少しわかったような気持ちです。	介護サービス
49	お寺近くの事業所なので、久万高原町菅さんの「死を考えるセミナー」などにお寺を協同して企画してみても、とアイデアを頂いた。	介護サービス
50	介護現場のスタッフは地域(事業所近隣の)活動を何とかしなければと思いながら、具体的活動をイメージできないままに時を過ごしている状況がある。事業所の管理者として、何らかのヒントを与えることができるように感じた。	介護サービス
51	共感できた。	介護サービス
52	セミナー等を通じて自然に発生した芽(サロン活動等)。	介護サービス
53	団塊の世代とどう関わっていけばよいか、事例を紹介して頂き、地域に戻って色々と参考にさせていただきます。	介護サービス
54	団塊の世代を集めてのセミナー	介護サービス
55	地域づくりの一環として、自然と認知症についても考えていく体制づくりができていくのではないかと考えた。	介護サービス
56	地域の特性を活かしていけばいい。	介護サービス
57	地域密着と書面でも認識しており、地域の協力は頂いているが、なかなか貢献できずにいるのが現状なので、家族の声が届くような地域づくりをしていきたいと感じた。	介護サービス
58	何よりも、今の自分の立場、職種などは関係なく「自分がキャッチする」「アンテナを張る」「できることを見つける」ことが大きなヒント。このセミナーに参加したことが大きなヒント。	介護サービス
59	本当に身近な町内会また、同じ団地内など、声を掛け合える単位でのサポート講座があればいいと思った。地域の人々が自ら話し合わないと、手をつなげないと思った。車を利用しないといけない場所では行ける人に限られる。	介護サービス
60	待つこと(地域の人達見守りながら気長に待つ)。	介護サービス
61	種をまいて、押し付けではなく、主体性を持つ。	医療関係者
62	地域との連携方法として、藤井寺市地域包括の前田さんの“NICE”と“いけネット”。医療側、福祉側どちらにとってもちゃんと活用できるツールであると思う。またこれをきっかけに、新たに連携やネットワークが作れるツールになると思う。素晴らしい！！	医療関係者
63	地域の特性を活かしたマンパワー資源の見直し。	医療関係者
64	藤井寺の「医療とケアネットワーク連絡会」	医療関係者
65	しかけ側の考え方。	社協
66	団塊の世代を取り込む。認知症という言葉をあえて出さない。	社協
67	認知症の人や家族からの相談が来るのを待つだけでなく、出かけて相談に乗れるように、また相談しやすい社会になるように努めていきたい。	家族会

No	今後の地域支援体制づくりに活かせること	立場
68	切り口なしでも良い。認知症の話につなげることが地域の認知症理解につながる。	NPO
69	現在、介護予防運動のサポーターとしてサークル活動をしているが、保険外の活動で自主的に進めている。通所を利用している人が前よりよくなっている例があった。	NPO
70	自分の町の取り組みを見ながら、どんな進め方が良いのか考えてみたい。	NPO
71	多職種とのつながりの大切さ。	NPO
72	なじみになっていくことの大切さ。	NPO
73	認知症徘徊対応模擬訓練や情報の収集・報告等の取り組み。	NPO
74	認知症徘徊対応模擬訓練を行ったことを聞き、やはり講習だけではなく、実際に想定した訓練が必要だと思った。	NPO
75	もう少し行政の知恵を引き出そうと思った。	NPO
76	手伝ってくれる方を多く集めると自分も楽になるので、声だけは多くの人にかけておく。	市民
77	地域包括ケアシステムを先駆的に取り組んでいる、あるいは今後取り組もうとしている事例などを知りたい。	その他

#### 4. 参加しての感想、自地域での取り組み

##### 感想

No	内容	立場
1	・熱心に活躍なさっている方の話を聞くと、パワーももらえる。自分も頑張ろうと思える。 ・できる事から少しずつ、皆でやさしい地域づくりをしていきたいと思った。 ・頭をやわらかくしていないといけないと思った。自分の枠にとらわれると広がるものも広がらない。	市区町村
2	Q&Aの中で、被害妄想の人の質問が出た時、自分がかかえているケースと同じ悩みだったので、嬉しいQ&Aだった。	市区町村
3	委託の地域包括支援センターと町職員の連携や課題の共有がもっと必要と感じる。	市区町村
4	会場内のパネルを参考に「認知症何でも相談」を地域密着型連絡会の会員と協働で作り上げていきたいと考えている。将来的に「認知症になっても大丈夫な町」宣言できればと思う。主催者はじめ発表者の方々、ありがとうございました。	市区町村
5	今日、参加でき良かった。ありがとうございました。これからも市町村にもセンターの情報提供をお願いします。	市区町村
6	そもそも「認知症にならなくても安心して暮らせるまち」は本当にできると思っていない。キャッチフレーズ、理念だけで人は生活できない。今の日本において本当に認知症のことを考えれば可能かどうかは別として、「予防の重視」「十分な治療」「グループホームの充実」が大切ではないか。周囲の理解、声かけはどこでもやっている。発表ができる形になっているかどうかは別として、限界があることを知るべきです。	市区町村
7	認知症サポーター養成講座について。もっと間口を広く活用できるようにするべきではないか(事務手続き等)。サポーター養成講座よりも勉強会等の啓蒙活動の方が理解には効果的ではないか。	市区町村
8	年度末で忙しく頭がぼわっとしているが、参加できてよかった。	市区町村
9	発表者の皆さんが、楽しく生き生き取り組んでいるところが、自分と違うと思った。楽しくなる仕事をしていきたいと思った。	市区町村

No	内容	立場
10	一つ一つ無理せず、小さなことから実施していきたい。	市区町村
11	一部の市の職員や区の職員の嫌味や嫌がらせにくじけず、地域に根を張り頑張っていきたい。市の職員の意識改革が草の根、末端からできるよう、少しずつ頑張っていき、最終的には行政(仙台市、区)もネットワークの中核近くに位置できるよう、地域の方から行政職員の資質向上に働きかけができるようにしていきたい。地域を行政が一体となって支える仕組みを作るためのパイプ役として頑張りたい。	地域包括
12	色々な地域の取り組みを勉強し、活かしていきたいと思うが、基本は認知症ケアもしっかり勉強してやっていこうと思う。	地域包括
13	県職員の一部の方はわかっているけど、県職員をあげてもっと勉強してほしい。現場では認知症に関しての業務だけをやっているわけではない。現場に足を運び、どの程度の関わりを持っているのか知るべきだと思う。	地域包括
14	講座をした、研修をした、という発表ではなく、どのようなしかけをして、講座が開催されたのかを聞きたかった。直営の取り組みは理解できるが、委託型ではしがらみがある。沢山委託されているところの話の聞きたかった。	地域包括
15	参加して良かった。	地域包括
16	参考になった。それぞれに頑張っておられ、頭が下がる思いです。グチかもしれないが、地域包括支援センター、行政と共に動かなければ難しいと思った。	地域包括
17	自分の地域は、枠組みとしてのネットワークがほとんどなく、内々で情報交換してそれぞれが個別にネットワークを作っていくか、情報共有会が形式化してしまい、中身がうまくネットワーク化できていない。どこがイニシアチブをとったらやりやすく、“良いネットワーク”になるのか、一から検討していく必要があると感じた。	地域包括
18	集落ごとに地域性が強い所と弱い所がはっきりしている地域なので、弱い所にはこちらから積極的に地域の関係を作っていくかといけない…。地域性が強い所ほど、体の変化を隠そうとする人たちもいるので、関わり方が難しいときもある。そうならないよう、説明して理解してもらえるように頑張りたい。	地域包括
19	全国的な取り組みが聞けて良かった。何人もの方の話を聞いて、共通している部分はやはり不動の認識であると感じた。	地域包括
20	全国の先進的な取り組みが聞けて、大変参考になった。	地域包括
21	力になる、元気になれるセミナーでした。ありがとうございました。	地域包括
22	認知症サポーター養成を切り口に、高齢者虐待防止の取り組みを行っている。また認知症の知識がないために不適切なケアになりがちな家族を養成講座に案内し(地域の居宅ケアマネジャーに協力してもらっている)、家族のストレスも受け止めながら本人のためになるケアを一緒に考えている。	地域包括
23	認知症になった人への支援を予防の支援と並行してやっていきたい。	地域包括
24	病院受診の方法の質問やアドバイスがいくつかあったが、市民健診等で癌健診等と同様に「認知症診断」を取り入れることはできないか。誰でも起こり得る病気として、今後、早期発見、治療のためには必要なことかと思っている。認知症研究センターの事業としてモデル的に検討して頂けるとありがたい。	地域包括
25	文章力がなく、感じたことを全部まとめることができない。やろうという気持ちになれる研修会だった。ありがとうございました。	地域包括
26	マップ事業完成し、これから更に地域に広めていく取り組みを検討している。今後、本人・家族・地域ネットワークを構築し、元気の出る街づくりをめざしたい。とても参考になった。またの開催を期待します。	地域包括

No	内容	立場
27	宮城チームと藤井寺、久万高原町の取り組み報告、大変参考になり、ありがとうございました。	地域包括
28	以前、ケアマネジャーをしていたが、異動でデイに、震災でデイがなくなり、特養に異動になった。悶々とした2年を過ごしていたが、やはり自分が行いたいこと、自分が力を発揮できることを思い出せた。本当にありがとうございました。	介護サービス
29	音響が悪く集中して聞けなかった。事前のチェックや途中での調整等を今後はお願いします。	介護サービス
30	グループホームの管理者として、周辺の近隣との協力体制づくりを再構築(認知症の理解と共同でできるもの)していきたい。	介護サービス
31	施設系の事業所に勤務しているが、やはり地域に対しては閉鎖的であるのを感じる。「何をどうすればよいのか?」という行動が発信できない現状を、どうにか打破していきたいと思うが、施設主導にはまだまだ時間がかかるのだと感じる。何度もセミナーの中で繰り返されていたが“少しずつしか進まないもの”だと改めて感じた。あきらめずに頑張ります。	介護サービス
32	自地域での取り組みが見えていない。中心になって地域づくりから発信していかないと関わりようがない。	介護サービス
33	自地域のサロンのボランティアに参加しようと思った。仙台市の認知症サポートに力を入れている病院や包括の連携コーディネーターの配置の具体的などころの資料もあるとよかった。今すぐ連携がとれる糸口が欲しかった。一住民として、又、専門職としてセミナーに参加できた。	介護サービス
34	自分たちが出来ることからやっっていこう!と思った。	介護サービス
35	地域は何かということを考えさせられた。一人一人が主体的になって地域を作っていかなければと思う。	介護サービス
36	地域をどう作るか、認知症に特化せず、命の多様なあり方、紡ぎ方へのアイデア、実践例に共感や感心させられた。ありがとうございました。	介護サービス
37	認知症サポーターが中学生や高校生にまで広がっていることに驚いた。子どもたちの柔らかい頭は、将来の社会づくりに役立つと思う。	介護サービス
38	久しぶりに話が聞けた。できる事、人任せにしないでこつこつ耕す、その通りですね。頑張ってみます。ありがとうございました。	介護サービス
39	また参加したい。	介護サービス
40	他県での取り組みについて学べたことは参考になった。	医療関係者
41	ネットワークを作ることはとても大変だと思っていた。地域にとっては必要と感じているので、今日の話をもとに、次につなげられればと思う。	社協
42	気仙沼の演習「ひもときシート」を活用した事例検討、どんなものか聞きたかった。	NPO
43	社協や民生委員の活動が見えないのが残念。この分野も取り入れてほしい。	NPO
44	成年後見を法人後見にして法人で支えていくことがすごいと思った。	NPO
45	生命に関する職、医、福祉、みんな素敵です。地域で人は生きる、認知症になっても。	NPO
46	できることから取り組む。一人一人ができる。焦らずゆっくりと芽が出るまで時間がかかる。今、私が抱えている課題の大きなヒントになった。	NPO
47	テレビやラジオ、新聞やネット等で認知症について国民全員で学ぶことが大事。学校教育の中にも入れて、意識を持って地域協力を進めることが大事と思う。	NPO

No	内容	立場
48	とても勉強になった。	NPO
49	他の所での活動を知ることができた。	NPO
50	若い方々の力強い取り組みに敬意を表します。良い企画をどうもありがとうございました。	NPO
51	現在、県社協で実施している地域権利擁護事業に携わっており、地域の社協に毎週顔を出しているが、恥ずかしいことに我が社協は型にはまった事業には目一杯力を入れるが、市民には顔が見えない、という課題があるようだ。	市民
52	認知症の学習会に参加して、自分では知っているつもりでも、地域全体でわからないとダメだと思った。脳イキキ教室や出て来れる方で、ぜひ認知症学習会を開きたい。勉強になったし、前進できた。	市民

### 自地域での取り組み

No	内容	立場
1	認知症の家族と介護スタッフとのグループワークで情報共有を年に2回実施。介護者しゃべり場は、毎月世話人が中心になり開催している。	地域包括
2	病院を主体に地域に向けての早期発見の必要性に取り組んでいる。	医療関係者





**本資料は、認知症地域支援体制普及セミナー  
（平成23年度認知症地域資源連携検討事業の一部）  
東京会場・神戸会場・仙台会場における地域報告をまとめたものです。**

**<本資料に関するお問い合わせ先>**

---

**発行 認知症介護研究・研修東京センター**  
電話： 03-3334-1150（ケアマネジメント推進室）  
電子メール：[cmr@itsu-doko.net](mailto:cmr@itsu-doko.net)  
〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-12-1